

地ビール工房保全改修工事

図面番号	図面名称	図面縮尺	図面番号	図面名称	図面縮尺	図面番号	図面名称	図面縮尺
A-01	表紙 図面目録	—	A-21	東立面図 (改修後)	1/50	B-01	劣化調査図1 (参考図)	1/100
A-02	建築改修工事特記仕様書 1/10	—	A-22	北立面図 (改修前)	1/50	B-02	劣化調査図2 (参考図)	1/50
A-03	建築改修工事特記仕様書 2/10	—	A-23	北立面図 (改修後)	1/50	B-03	劣化調査図3 (参考図)	1/50
A-04	建築改修工事特記仕様書 3/10	—	A-24	西立面図 (改修前)	1/50	B-04	劣化調査図4 (参考図)	1/50
A-05	建築改修工事特記仕様書 4/10	—	A-25	西立面図 (改修後)	1/50	B-05	劣化調査図5 (参考図)	1/50
A-06	建築改修工事特記仕様書 5/10	—	A-26	断面図	1/100			
A-07	建築改修工事特記仕様書 6/10	—	A-27	矩計図1 (改修前)	1/50			
A-08	建築改修工事特記仕様書 7/10	—	A-28	矩計図1 (改修後)	1/50			
A-09	建築改修工事特記仕様書 8/10	—	A-29	矩計図2 (改修前)	1/50			
A-10	建築改修工事特記仕様書 9/10	—	A-30	矩計図2 (改修後)	1/50			
A-11	建築改修工事特記仕様書 10/10	—	A-31	平面詳細図1 (改修前)	1/50			
A-12	工事概要・配置図	1/2000	A-32	平面詳細図1 (改修後)	1/50			
A-13	仕上表	1/100	A-33	平面詳細図2 (改修前)	1/50			
A-14	1階平面図 (改修前)	1/100	A-34	平面詳細図2 (改修後)	1/50			
A-15	1階平面図 (改修後)	1/100	A-35	キープラン	1/100			
A-16	屋根伏図 (改修前)	1/100	A-36	建具表1	1/50			
A-17	屋根伏図 (改修後)	1/50	A-37	建具表2	1/50			
A-18	南立面図 (改修前)	1/50	A-38	部分詳細図1	1/5, 10, 20			
A-19	南立面図 (改修後)	1/50	A-39	部分詳細図2	1/10, 20			
A-20	東立面図 (改修前)	1/50	A-40	仮設計画図 (参考図)	1/100			

計45枚 (表紙共)

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	地ビール工房保全改修工事		図面番号	A-01
図面名	表紙 図面目録		縮尺	(A1原図)
設計	クラ設計株式会社		高倉 康人	
日付	—		—	—
一級建築士事務所	愛知県 (い-6) 13768号		一級建築士登録第244870号	

建築改修工事特記仕様書

2025年10月1日改定

章	項目	特記事項	備考	章	項目	特記事項	備考					
1	1節 共通事項	<p>1. この特記事項以外は下記に準拠する。但し、本工事に関係しない事項は適用しない。</p> <p>1) 愛知県財務規則</p> <p>2) 工事請負契約書</p> <p>3) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(建築工事編) (最新版)</p> <p>4) " 公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編) (最新版)</p> <p>5) " 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編) (最新版)</p> <p>6) " 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) (最新版)</p> <p>7) " 公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編) (最新版)</p> <p>8) " 公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編) (最新版)</p> <p>9) " 建築物解体工事共通仕様書 (最新版)</p> <p>10) 関係法令及び諸工事基準</p> <p>11) 愛知県建築工品質管理要領</p> <p>2. 特記事項の適用優先順位 1. ◎ 2. ※ ただし ◎ と ※ のある場合は共に適用する。</p> <p>3. 設計図書に関する疑義は原則として、入札執行前に質問書の提出によって確かめるものとする。</p> <p>4. 本工事特記仕様書は公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)に対応している。</p>		1	*工事写真	<p>1. 仕様書に基づき監督職員に報告等を行う書面で電子データによるものについては、以下を基本とするが、監督職員の指示がある場合はその指示による。</p> <p>(1) 電子媒体(CD-RまたはDVD-R)で完了検査時に1部提出する。</p> <p>(2) 「あいち電子納品運用ガイドライン」に準拠することとし、格納フォルダは「愛知県建築局発注工事における情報共有システム運用の手引き(案)」における表6を参考とする。</p> <p>*工事写真の撮影時期、内容、枚数等は下記のとおりとする。</p> <p>1) 着手前 工事の着手に先立ち、敷地、隣地及び周辺道路、建築物、工作物等の現況を撮影する。</p> <p>2) 工事中 ①黒板(白板)に所定事項を明記し、工事の進捗状況を撮影、記録すると共に、特に施工後隠へい又は埋設される部分は、被写体に幅広テープを添え撮影する。</p> <p>記載事項: 件名(工事名)、名称(工種)、位置、工程、備考、撮影年月日</p> <p>②監督職員の指示により、適宜提出する。</p> <p>※デジタルカメラの撮影素子の有効画素数は130万画素を標準とする。</p> <p>※デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得た上で、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について」(https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kensetsu-kikaku/kenchiku-kijyun.htmlを参照)により行うことができる。</p>						
	1.1.1 一般事項								*竣工写真	<p>*竣工時 外部(カラー 箇所) 内部(カラー 箇所)</p>		
	1.1.3 官公署その他への届出手続等				*工事の着手、施工、完成に当たり、関係官公署その他の関係組織への必要な届出手続等を遅滞なく行う。				3節 工事現場管理			
	1.1.4 工事実績情報システムへの登録				*請負代金額が500万円以上の工事は、(一財)日本建設情報総合センター(JACIC)の工事実績情報サービス(コリンズ)に、工事実績情報の登録を、その内容について監督職員の確認を(JACICの様式「登録のための確認のお願い」に従って)受けた上、行う。(受注時、変更時、竣工時)また、登録後にJACICが発行する「登録内容確認書」を、監督職員へ提出する。				1.3.1 施工管理	*主任技術者、監理技術者、特例監理技術者及び特例監理技術者の職務を補佐する者(以下、「監理技術者補佐」という。)の設置及びその他制度の運用については、最新版の「監理技術者制度運用マニュアル」によるものとする。		
	1.1.5 書面の書式及び取扱い				*情報共有システムの適用 ※利用する ・利用しない なお、「利用しない」となっている工事において、受注者が利用を希望する場合、監督員と協議のうえ、受注者の費用負担により、利用することができる。				1.3.3 電気保安技術者	* ・配置する ・配置しない		
					*情報共有システムの適用要件は以下のとおりとする。				1.3.5 施工条件	* 1) 施工日・施工時間 制限 ・有() ・無 2) 工事車両の駐車場所 場所制限 ※有(駐車場所: ※敷地内 ・()) ・無 3) 資機材置場所 置場所制限 ※有(置場所: ※敷地内 ・()) ・無 4) その他()		
					1) 本工事における情報共有システムは、(公財)愛知県都市整備協会が運営する「あいち建設情報共有システム」を利用すること。(https://akjs-ps.aichi-toshi.or.jp/)				*週休2日制工事	*週休2日制工事実施対象工事 ※発注者指定 ・受注者希望 ・その他		
					2) 情報共有システムは「愛知県情報共有運用ガイドライン」及び「愛知県建築局発注工事における情報共有システム運用の手引き(案)」に基づき利用すること。				1.3.11 施工中の環境保全等	*「土壌汚染対策法」、「県民の生活環境の保全等に関する条例」、「市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例」による措置 ・無 ・有(詳細は図示による)		
					3) 本システムを用いて作成及び提出等を行った工事関係図書については、システムにより電子納品することとし、別途紙に出力して提出しないものとする。				1.3.12 発生材の処理等	<p>1. 引き渡しを要するものは監督職員の指定する場所に整理し、発生物件調書を作成し、施設管理者へ引き渡す。</p> <p>2. 引き渡しを要しないものはすべて場外に搬出し、下記建設副産物の項及び関係法令等に従い適正に処理する。</p> <p>3. 本工事で発生する産業廃棄物のうち愛知県内の最終処分場に搬入する産業廃棄物については、愛知県産業廃棄物税が課税されるので適正に取り扱うこと。</p> <p>4. PCBを使用している機器材料は、適切な容器に収めた上で引渡しを要する。撤去した機器のメーカー名・型番・製造年月日を記載したリストを作成して発注者へ提出する。</p> <p>5. 次の物品はPCBの混入が疑われるため、専門的分析機関に依頼し、その有無を確認する。 昭和47年以前の建築物: ポリスルファイト(チオコール)系コーキング 平成元年以前の製造機器: 蛍光灯安定器、コンデンサ、リアクトル、コンデンサ用放電コイル、変圧器(絶縁油中の濃度0.5mg/kg以下のものは対象外)</p> <p>上記以外においても、PCB混入の恐れがある場合は、監督職員と協議の上、確認すること。</p> <p>6. PCB含有物以外で引渡しを要するもの()</p>		
	1.1.7 関連工事等の調整								*特別管理産業廃棄物	*分析調査()		
				*建設副産物	<p>1. 契約金額100万円以上の工事の発生材については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、「資源の有効な利用の促進に関する法律」及び「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(以下「建設リサイクル法」という。)その他関係法令の規定を遵守し、適正に処理する。</p> <p>2. 事前に建設副産物情報交換システム等(以下「コリス・プラス」と言う。)に登録及び必要事項を入力し、コリス・プラスより出力される、「リサイクルガイドライン」に定める計画書(①、②)を監督職員に提出する。 ① 再生資源利用計画書(実施書)(様式1) ② 再生資源利用促進計画書(実施書)(様式2)</p> <p>3. 建設リサイクル法第9条第1項の対象建設工事に該当する工事は、再資源化等が完了したとき、同法第18条第1項に基づく報告として、監督職員に「再資源化等報告書」を提出すること。</p> <p>4. 産業廃棄物管理表(以下「マニフェスト」という。)集計表を作成し、監督職員に提出する。マニフェスト集計表は任意様式とし、交付した全てのマニフェストについて、交付年月日、交付番号、車両ナンバー、廃棄物の内訳(t又はm³)、マニフェストの照合・確認日(電子マニフェストの場合は、引渡し年月日、マニフェスト番号(連絡番号)、車両ナンバー、廃棄物の内訳、運搬・処分・最終処分の終了日)が記載され、受注者の記名があるものとする。また、紙マニフェストの場合は伝票を整理して保管し、必要に応じて検査員等に提示する。</p>							
				*撤去・更新時のフロン等の取扱い	*「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に基づいて行うこと。							
				*分別収集	*「リサイクルガイドライン」別表3に従い、分別収集を行う。							
				*再資源化施設への搬出	*工事に伴い発生する指定副産物のうち、次のものは再資源化施設へ搬出する。 ※コンクリート塊 ※アスファルトコンクリート塊 ※建設発生木材 ・()							
				*再利用を図るもの	* ・() ・図示による							
				*せつこうボード処理	*ひ素・カドミウム含有せつこうボードの処理・製造業者に回収を委託 ・管理型最終処分場で埋立処分 *上記及び石膏含有せつこうボード以外の処理・再資源化 ・管理型最終処分場で埋立処分							
2節 工事関係図書				4節 材料								
1.2.1 実施工程表	*概成工期 ◎有(現場作業は令和8年9月30日までに完了させること。 ※詳細はA-12工事概要・配置図の施工条件を参照)			1.4.2 材料の品質等	<p>1. 本工事に使用する資材等は、品質が規格値を満足しかつ価格が適正である場合には、県内産の優先使用に努めるものとする。</p> <p>2. 本工事において愛知県内で産出された木材(愛知県内で産出された木材を使用した製材加工品を含む。以下、「県産材」という。)を使用する場合は、以下による。</p>							
1.2.2 施工計画書	*つり足場を使用するすべての工事において、つり足場の組立・解体作業中の墜落・転落による労働災害防止の方法等の記入及び愛知労働局労働基準部安全課長事務連絡(平成22年7月6日)の注意事項をふまえた施工計画書を作成し、監督職員に提出する。											
1.2.4 工事の記録等												

章	項目	特記事項	備考
2	2節 足場等		
	2.2.1 足場等	* 足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン」について(令和5年12月26日厚生労働省労働基準局長 基発1226第2号)に規定する「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」の2の(1)手すり据置方式又は2の(2)手すり先行専用足場方式により行う。 * 屋根面からの墜落事故防止対策として、必要に応じて、JIS A8971(屋根工事用足場及び施工方法)に基づき、建方作業台、渡り廊下、墜落防護さく等の足場及び装備機材を設置する。 * 外部足場 ※ 枠組足場またはくさび緊結式足場・単管本足場・仮設コンドラ・移動式足場・() 設置するシート等・防護シート(JISA8952)・防護ネット(JISA8960)・防音シート・() 足場、防護シート等の設置範囲 ※ 図示による * 内部足場 ※ 脚立・足場板等 ※ 枠組足場またはくさび緊結式足場・() * 材料、撤去材等の運搬方法・A種・B種・C種・D種・E種・() [表2.2.1] * 高さが5m以上の箇所での作業を行う場合、労働安全衛生規則の各規定により使用する要求性能墜落制止用器具はフルハーネス型とし、「墜落制止用器具の規格」(平成31年1月25日厚生労働省告示第11号)によるものとする。	
	3節 養生		
仮設	2.3.1 既存部分の養生	* 既存部分の養生 ※ ビニルシート、合板等により適切に行う ※ 図示による・() * 既存部分の既存家具、既存設備等の養生方法 ※ 監督職員の承諾を受けてビニルシート等で行う ※ 図示による * 既存ブラインド、カーテン等の養生方法 ※ 図示による・ビニルシート等 ※ 保管場所() * 固定された備品、机・ロッカー等の移動 ※ 図示による・移動しない	
	2.3.2 仮設間仕切り	* 種別・A種・B種・C種 [表2.3.1] 設置箇所 ※ 図示による A種、B種の場合の材料・合板(厚さ ※ 9mm・()mm) ※ せっこうボード(厚さ ※ 9.5mm・()mm) 間仕切りへの仕上げ ※ 無・有(範囲及び仕上げは図示による) * 仕様 ※ 合板張り木製扉程度・() 設置箇所 ※ 図示による・()	
	4節 仮設物		
工事	2.4.1	* 受注者事務所、材料置場その他仮設物の設置場所 * 建設現場標識の設置	
	1節 一般事項		
	3.1.3 施工一般	* 防水の保証期間は工事目的物引渡しからモルタル防水5年、その他防水10年とする。 * 降雨等に対する養生方法 ※ 3.1.3(5)による・()	
防	1節～6節 防水工事		
	3.1.4 改修工法の種類	* 防水改修工法・種別 ※ 図示による * 立上り部等の既存防水層及び保護層の撤去 ※ 撤去しない ※ 図示による * 屋内防水で、新規防水工法にて保護層を新設・新設する ※ 図示による	
	3.2.5 ルーフドレン回りの処理	* P0AS、P0ASI、P0D、P0DI、P0S、P0SI、P0X工法における改修用ドレンの設置 工法()・設置する・設置しない ※ 図示による	
改	3.2.6 既存下地の処理	* 既存下地 補修箇所の形状、長さ、数量等 ※ 図示による・() * 既存防水層の処理[M4AS工法、M4ASI工法、M4C工法及びM4DI工法] 仕上げ塗装の除去 ※ 図示による・() [L4X工法] 仕上げ塗装の除去 ※ 図示による・() * P0S工法及びP0SI工法(機械)における 既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした場合の既存防水層の処理 ※ 図示による ※ 3.2.6(4)(ウ)(e)による・() * 設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸環取付部、塔屋出入口部及び * 防水層末端部等の収まり部の処理 ※ 図示による ※ 監督職員と協議	
	3節 アスファルト防水		
	3.3.2 材料	* 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 図示による ※ 表3.3.3～表3.3.9による・() * 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類、厚さ ※ 図示による ※ 表3.3.3、表3.3.4、表3.3.8、表3.3.9による・() * 押え金物 材質及び形状寸法 ※ 図示による ※ アルミニウム製L-30×15×2.0mm程度・() * 屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材厚さ ※ 図示による・() * 屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材の種類及び厚さ ※ 図示による・() * 絶縁用シート材料 ※ 図示による・ポリエチレンフィルム@0.15mm以上・フラットヤーンクロス(70g/m ² 程度)・() * 立上り部の保護の乾式保護材 ※ 図示による・() * 立上り部の保護のれんが ※ 図示による・()	
修	3.3.3 種類及び工程	* 屋根保護防水 新規防水層の種類及び工程 種別・() ※ 図示による [表3.3.3] * 立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置 ※ 図示による・() [表3.3.6] * 立上り部における保護工法 ※ 図示による・() * 屋根露出防水、屋根露出防水絶縁断熱工法 新規防水層の種別・() ※ 図示による [表3.3.7]～[表3.3.9] * 仕上塗料の種類・() ※ 図示による 使用量 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様による ※ 図示による・() * 脱気装置の種類、設置数量 ※ 図示による ※ アスファルトルーフィング類製造所の指定による [表3.3.10] * 屋内防水 新規防水層の種類及び工程 種別・() ※ 図示による * 保護層の設置・() ※ 図示による E-1の工程3 ※ 図示による ※ 常時水に接する部位に適用・() * アスファルトルーフィング類のルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材張りじまい位置 ※ 図示による・() * 平場の保護コンクリート 厚さ ※ 図示による ※ こて仕上げ80mm以上、床タイル張り等仕上げ60mm以上 こて仕上げの場合の平たんさの種別・a種・b種・c種 [表8.1.5] * 立上り部保護方法 ※ 図示による・() れんが押さえの場合 工法 ※ 図示による * 屋上排水溝 ※ 図示による・()	
	3.3.4 施工		
	3.3.5 保護層等の施工		
事	4節 改質アスファルトシート防水		
	3.4.2 材料	* 改質アスファルトシート 種類及び厚さ ※ 図示による ※ 表3.4.1～表3.4.3までによる・() * 押え金物 材質、形状及び寸法 ※ 図示による ※ アルミニウム製L-30×15×2.0mm程度・()	

章	項目	特記事項	備考																			
5	3.4.3 種類及び工程	* 屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材(発泡プラスチック断熱材)の種類及び厚さ ※ 図示による・() * 新規防水層の種類・() ※ 図示による [表3.4.1] * 仕上塗料の種類・() ※ 図示による [表3.4.3] 使用量 ※ アスファルトルーフィング類製造所の仕様による ※ 図示による・() * 工程2に先立ち設ける防湿用シートの設置[M3ASI工法、M4ASI工法及びP0ASI工法] ※ 図示による・() * 脱気装置の種類、設置数量 ※ 改質アスファルトシート製造所の仕様による ※ 図示による																				
	5節 合成高分子系ルーフィングシート防水																					
	3.5.2 材料	* ルーフingシート種類及び厚さ ※ 図示による ※ 表3.5.1～表3.5.3までによる・() * 絶縁用シート及びび可塑性剤以降防止用シートの材質 ※ 発泡ポリエチレンシート ※ 図示による・() * 固定金具の材質、形状及び寸法 ※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれら鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので厚さ0.4mm以上 ※ 図示による・()																				
6	3.5.3 種類及び工程	* 断熱工法に用いる断熱材 種類及び厚さ ※ 図示による・() * 新規防水層の種類・() ※ 図示による [表3.5.1] * 脱気装置の種類、設置数量 ※ ルーフingシート製造所の仕様による ※ 図示による [表3.5.2] * 仕上塗料の種類・() ※ 図示による 使用量 ※ ルーフingシート製造所の仕様による ※ 図示による																				
	5節 施工																					
	3.5.4	* SI-M1及びSI-M2の場合の防湿用フィルム() ※ 図示による・() * S-C1の場合の保護モルタルの塗厚 ※ 図示による・() * 接着工法の場合で下地がプレキャストコンクリートの場合の目地処理 ※ 図示による・() * S-F1又はSI-F1の場合のプレキャストコンクリート下地の入隅部の増張り ※ 図示による・() * 一般部のルーフィングシート張付(機械式固定法)で建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 ※ 図示による * 屋内保護密着工法の場合の保護層の施工[立上り部の保護モルタル塗厚] ※ 図示による・()																				
防	6節 塗膜防水																					
	3.6.3 種別及び工程	* 新規防水層の種別 ※ 表3.6.1による(P0X工法の場合は種別X-1、L4X工法の場合は種別X-2)・() ※ 図示による * 仕上塗料の種類・() ※ 図示による 使用量 ※ 主材料製造所の仕様による・() * 絶縁工法における脱気装置の種類及び設置数量 ※ 図示による ※ 主材料製造所の仕様による・() * 保護層の仕様[P1Y工法及びP2Y工法] ※ 図示による・()																				
	7節 シーリング																					
改	3.1.4 改修工法の種類	* 改修工法の種類 ※ 図示による・シーリング充填工法・シーリング再充填工法 [表3.1.2] 及び工程 ※ 拡張シーリング再充填工法・ブリッジ工法																				
	3.7.2 材料	* シーリング材の種類 ※ 図示による ※ [表3.7.1]による・() * シーリング材表面の仕上げ ※ 仕上げなし																				
	3.7.3 目地寸法	* 目地寸法 ※ 図示による・()																				
改	3.7.8 シーリング材の試験	* 接着性試験 ※ 簡易接着性試験 ※ 引張接着性試験 ※ 図示による・()																				
	8節 とい																					
	3.8.2 材料	* 材種等 ※ 図示による・() [表3.8.1] * 表面処理鋼板の場合 表面及び裏面の塗膜の種類 ※ 図示による・() 耐酸被覆鋼板・使用する・使用しない * とい受金物、足金物の材種、形状及び取付け間隔 ※ 図示による ※ 表3.8.2により溶融亜鉛めっきを行ったもの 多雪地帯 ※ 適用する・適用しない																				
工	3.8.3 工法	* 既存とい、その他の撤去及び降雨等に対する養生方法 ※ 図示による・() * 鋼管製といの防露巻き ※ 図示による ※ 表3.8.4による・() * たてどい受金物の取付け ※ 図示による・() * ルーフドレンの取付工法 ※ 図示による ※ 3.8.3(6)による・()																				
	9節 アルミニウム製笠木																					
	3.9.2 材料	* 部材の種類・押出250形・押出300形・押出350形・板材折り曲げ形(・オープン形式・シール形式) 板材折曲げ形の場合 本体幅 ※ 図示による・() 板厚 ※ 図示による ※ 2.0mm・()																				
事	3.9.3 工法	* 表面処理の種別・() ※ 図示による [表5.2.2] * 既存笠木撤去及び新規笠木の目地補修の工法 ※ 図示による・() * 板材折曲げ形笠木の取付け方法 ※ 図示による・() * 建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 ※ 図示による・()																				
	1節 一般事項																					
	4.1.4 外壁改修工法の種類	<table border="1"> <tr> <td>外壁仕上げ部位</td> <td>コンクリート打放し仕上げ</td> <td>モルタル塗り仕上げ</td> <td>タイル、粘板岩張り仕上げ</td> </tr> <tr> <td>ひび割れ部</td> <td>樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法 ・シール工法 ・図示による</td> <td>樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法 ・シール工法 ・図示による</td> <td>樹脂注入工法 ・タイル部分張替え工法</td> </tr> <tr> <td>欠損部</td> <td>充填工法</td> <td>充填工法 ・モルタル塗替え工法</td> <td>・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法</td> </tr> <tr> <td>浮き部</td> <td></td> <td>アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面ホリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面ホリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入工法</td> <td>アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面ホリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面ホリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入工法</td> </tr> <tr> <td>目地</td> <td></td> <td></td> <td>目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮目地改修工法</td> </tr> </table>	外壁仕上げ部位	コンクリート打放し仕上げ	モルタル塗り仕上げ	タイル、粘板岩張り仕上げ	ひび割れ部	樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法 ・シール工法 ・図示による	樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法 ・シール工法 ・図示による	樹脂注入工法 ・タイル部分張替え工法	欠損部	充填工法	充填工法 ・モルタル塗替え工法	・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法	浮き部		アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面ホリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面ホリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入工法	アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面ホリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面ホリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入工法	目地			目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮目地改修工法
外壁仕上げ部位	コンクリート打放し仕上げ	モルタル塗り仕上げ	タイル、粘板岩張り仕上げ																			
ひび割れ部	樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法 ・シール工法 ・図示による	樹脂注入工法 ・Uカットシール材充填工法 ・シール工法 ・図示による	樹脂注入工法 ・タイル部分張替え工法																			
欠損部	充填工法	充填工法 ・モルタル塗替え工法	・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法																			
浮き部		アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面ホリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面ホリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入工法	アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面ホリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面ホリマーセメントスラリー注入工法 ・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入工法																			
目地			目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮目地改修工法																			
4.1.5 改修後の塗り仕上げの種類	* 改修後の新規仕上げの種類 ※ 図示による・薄付け仕上げ塗材塗り・厚付け仕上げ塗材塗り ・複層仕上げ塗材塗り(外壁:吹付凸凹 内部:吹付凸凹)・各種塗料塗り ・マステック塗材塗り・外壁用塗膜防水材塗り・可とう形改修用仕上げ塗材塗り																					
4	4.1.4 外壁改修工法の種類																					
	ク	ク																				
	ク	ク																				
外	4.1.5 改修後の塗り仕上げの種類																					
	ク	ク																				
	ク	ク																				
壁	4.1.5 改修後の塗り仕上げの種類																					
	ク	ク																				
	ク	ク																				
改	4.1.5 改修後の塗り仕上げの種類																					
	ク	ク																				
	ク	ク																				
修	4.1.5 改修後の塗り仕上げの種類																					
	ク	ク																				
	ク	ク																				
工	4.1.5 改修後の塗り仕上げの種類																					
	ク	ク																				
	ク	ク																				
事	4.1.5 改修後の塗り仕上げの種類																					
	ク	ク																				
	ク	ク																				

章	項目	特記事項	備考	
4	2節 コンクリート打放し仕上げ外壁の改修			
	3節 モルタル塗り仕上げ外壁の改修			
	4.2.4 材料	*リカット材充填工法に使用するシーリング材 ※ホリウレン系シーリング材(・1成分形・2成分形)・()		
	(4.3.5 材料)	*シーリング材材料 ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ・() ・図示による *充填工法材料 ・エポキシ樹脂モルタル ・ホリマーセメントモルタル ・() ・図示による		
	4.2.5 樹脂注入工法	*種類 ※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法(注入間隔 ※200~300mm()、樹脂注入量: ()) *手動式エポキシ樹脂注入工法(注入間隔: ()、樹脂注入量: ()) *機械式エポキシ樹脂注入工法(注入間隔: ()、樹脂注入量: ())		
	(4.3.2 ひび割れ部改修	*ひび割れ部の注入状況の確認方法 ※コア抜き取り ()		
	4.4.2 共通事項	コアの抜き取り回数 ※1個/長さ500mmごと及びその端数 ()		
	4.3.6 樹脂注入工法)	抜き取り部分補修方法 ※図示による ()		
	4.4.6	*モルタル塗替え工法用材料 モルタル ・現場調合材料 ・既調合材料() ・()		
	4.3.5 材料	既製目地材 ・使用する(形状) () ・使用しない		
	(4.4.5 材料)	*アンカーピン工法用材料 ホリマーセメントスラリー ※図示による () アンカーピン材質等 ※ステンレス鋼SUS304 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの ()		
	4.3.10 モルタル塗替え工法	*注入口付アンカーピン工法材料 注入口付アンカーピン材質等 ※SUS304 呼び径外径6mm ()		
	4.3.11 アンカーピン部分	*下地処理 仕上げ厚又は全塗厚25mmを超える場合の処置 ※図示による ()		
	4.4.9 エポキシ樹脂注入工法	*浮き部分に対するアンカーピン本数 ※16本/m ² (一般部分)、25本/m ² (指定部分)、5本/m(狭幅部) ()		
	外	4.3.12 アンカーピン全面	*アンカーピン固定用樹脂注入量(挿入孔1か所当たり) ※25ml ()ml	
4.4.10 エポキシ樹脂注入工法		*浮き部分に対するアンカーピン本数及び注入口の数 ※表4.3.5及び図4.3.2による ()		
4.3.13 アンカーピン全面ホリ		*浮き部分に対するアンカーピン本数及び注入口の数 ※表4.3.5及び図4.3.2による ()		
4.4.11 マーセメントスラリー注入工法		*注入量(注入口1か所当たり) ※25ml ()ml		
4.3.14 注入口付アンカーピン		*浮き部分に対する注入口付アンカーピン本数 ※9本/m ² (一般部分)、16本/m ² (指定部分)、5本/m(狭幅部) ()		
4.4.12 部分エポキシ樹脂注入工法		*注入量(注入口1か所当たり) ※25ml ()ml		
4.3.15 注入口付アンカーピン		*浮き部分に対する注入口付アンカーピン本数 ※表4.3.6及び図4.3.4による ()		
4.4.13 全面エポキシ樹脂注入工法		*注入量(注入口1か所当たり) ※25ml ()ml		
4.3.16 注入口付アンカーピン		*浮き部分に対する注入口付アンカーピン本数 ※表4.3.6及び図4.3.4による ()		
4.4.14 全面ホリマーセメントスラリー注入工法		*注入量(注入口1か所当たり) ※50ml ()ml		
改修		4節 タイル張り仕上げ外壁の改修		
		4.4.5 材料	*タイル(部分)張替え工法用材料 接着剤の種類 ・ホリマーセメントモルタル ・外装タイル接着剤 外装タイル接着剤張りの場合の目地詰め ・行う ・行わない タイルの形状、寸法、耐凍害性の有無、耐滑り性等 ※図示による () 標準色・特別色の別 ※図示による () タイル役物 ・使用する ・使用しない 既調合モルタル ※図示による ()	
		4.4.7 タイル部分張替え工法	*外壁タイル接着剤張りのシーリング材 シーリング材の種類 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系 () 伸縮調整目地及びその他目地 ※変成シリコン系 ()	
		4.4.8 タイル張替え工法	*既存の下地モルタル等を撤去せず、1か所当たりの張替え面積が0.25m ² を超える場合の () ※図示による () *伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※表4.4.2による () ・図示による () *見本焼 ・有 ※無 試験張り ・有 ※無	
		4.4.15 注入口付アンカーピン工法	*セメントモルタルによるタイル張りの工法 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ・図示による () 下地モルタル塗りの接着力試験 () ・図示による () セメントモルタルによるタイル張りの工法 外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り [表4.4.5] ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り	
	4.4.16 目地改修工法	*有機系接着剤によるタイル張り 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ・図示による () 下地モルタル塗りの接着力試験 () ・図示による () タイルの種類等 ・外装タイル ・ユニットタイル [表4.4.6] 外装タイル接着剤張りの目地詰めを行わない場合 ・図示による ()		
	4.4.15 注入口付アンカーピン工法	*注入口付アンカーピンの本数 ()本/m ² ・図示による ()		
	4.4.16 目地改修工法	*注入量(注入口1か所当たり) ※25ml ()ml		
	4.4.16 目地改修工法	*伸縮調整目地 位置及び寸法 ※図示による ()		
	工事	5節 仕上塗材仕上げ外壁等の改修		
		4.5.2 材料	*塗り仕上げ用材料(仕上塗材) 種類、仕上げ形状、工法 () ・図示による [表4.5.1] 外装厚塗材Si、Eにおける上塗材 ・塗る ・塗らない 外装厚塗材Cの上塗材がセメントスタッコ以外の場合 () ・図示による	
		4.5.4 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整	*複層仕上塗材及び可とう形改修塗材の耐候性 ※耐候形3種 () ・図示による [表4.5.2] *複層仕上塗材及び可とう形改修塗材の上塗材の種類 ※水系アクリルのつやあり () *工法 ・サンダー工法 ・高圧水洗工法 ・塗膜はく離剤工法 ※水洗い工法(高圧水洗機(10~15MPa)) *下地調整 下地調整塗材に代えてホリマーセメントモルタルを使用 ・使用する ・使用しない	
		(4.6.2 材料及び工法	*処理範囲(水洗い工法以外) ※既存仕上面全体 () ・図示による	
		4.7.4 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整	*水洗い工法の処理範囲 ※他の工法で処理する範囲以外の既存仕上面全面 ・図示による	
		6節 マスチック塗材塗り仕上げ外壁等の改修		
4.6.2 マスチック塗材塗り		*種類 ・A種 ・B種		
7節 外壁用塗膜放水材による改修				
4.7.2 材料		*塗り仕上げ用材料(外壁用塗膜防水材) 仕上げの形状及び工法 () ・図示による [表4.7.1] 模様材の種類 ※図示による () 仕上げを砂壁状、じゅらく状とする場合の模様材の種類 ※図示による () 仕上塗料の種類 ※図示による () *仕上塗料の耐候性 ※図示による ()		
4.7.3 施工一般		下地準動緩衝材 ・使用する ・使用しない ・図示による		
5		1節 一般事項		
		5.1.3 改修工法	*改修工法 ・かぶせ工法 ・撤去工法 *新規建具を設ける壁部分の開口の開け方及び新規建具周囲の補修工法並びにその範囲 ※図示による	
5.1.4 防火戸		*補修範囲 ※図示による () *防火戸の適用 ※図示による () *防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸と連動させるもの		

章	項目	特記事項	備考	
5	5.1.5 建具見本の製作等	*建具見本の製作 ・有 ※無 *特殊な建具の仮組 ・実施する ・実施しない		
	5.1.6 取り付け調整等	*ブラインドボックス等の再使用 ・有 ・無 再使用するもの () ・図示による		
	5.1.7 その他	*防犯建物部品の使用 ・使用しない ・使用する(使用箇所) ()		
	2節 アルミニウム製建具			
	5.2.2 性能及び構造	*耐風圧性、気密性、水密性、枠の見込み寸法 ・A種 ・B種 ・C種[見込み寸法 mm] ・図示による () [表5.2.1] *防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性の等級 ・図示による () *断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級 ・図示による ()		
	5.2.3 材料	*網戸 防虫網 材質 ※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316) ・図示による 線径、網目 ※線径0.25mm以上、網目16~18メッシュ(合成樹脂) () ・図示による		
	5.2.4 形状及び仕上げ	表面処理の種類 () ・図示による C種における常温乾燥形の塗装 () ・図示による [表5.2.2] 色 ※標準色 ・特注色 結露水の処理方法 () ・図示による ステンレス製くつずりを使用する場合の仕上げ ※HL ・図示による () *水きり板 ・図示による () ぜん板 ・図示による ()		
	5.2.5 工法			
	3節 樹脂製建具			
	5.3.2 性能及び構造	*耐風圧性、気密性、水密性 ・A種 ・B種 ・C種 ・図示による () [表5.3.1] 枠の見込み寸法 () ・図示による () *防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性の等級 ・図示による ・T-1 ・T-2 () *断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級 ・図示による ・H-4 ・H-5 ・H-6 ・H-7 ・H-8 () [表5.3.2] *外壁に面する建具の日射熱取得性の等級 ・図示による ()		
	5.3.3 材料	*網戸 防虫網 材質 ※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316) ・図示による 線径、網目 ※線径0.25mm以上、網目16~18メッシュ(合成樹脂) () ・図示による		
	5.3.4 形状及び仕上げ	*ガラス ※複層ガラス () ・図示による *ステンレス製くつずりを使用する場合の仕上げ ※HL ・図示による () *表面色 ※標準色 ・特注色 *水きり板 ・図示による () ぜん板 ・図示による ()		
	5.3.5 工法			
	4節 鋼製建具			
	5.4.2 性能及び構造	*簡易気密型ドアセットの気密性、水密性の等級 ※気密性A-3、水密性W-1 () [表5.2.1] 耐風圧性の等級 ・S-4 ・S-5 ・S-6 ・図示による 耐震ドアとする場合の面内変形追従性の等級 ・図示による () *防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性の等級 ・図示による () *断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級 ・図示による ()		
5.4.3 材料	*点検口の類のくつずりの材料 ・図示による ()			
(5.4.6 標準型鋼製建具)	*鋼板類の厚さ ※表5.4.2による ・図示による () *くつずりの仕上げ ・HL(ステンレス鋼板の場合) ・図示による ()			
5.4.6 標準型鋼製建具	*形状及び寸法 ・図示による () [表5.4.5]			
5節 鋼製軽量建具				
5.5.2 性能及び構造	*簡易気密型ドアセット(気密性:A-3) ・適用する ・適用しない ・図示による () [表5.2.1] 標準型鋼製軽量建具 *耐震ドアとする場合の面内変形追従性の等級 ・図示による () *防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性の等級 ・図示による () *断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級 ・図示による ()			
5.5.3 材料	*鋼板類の種類 ※図示による ()			
(5.5.6 標準型鋼製軽量建具)	*ステンレス鋼板 ※SUS304 ※SUS430J1L ※SUS443J1 ・図示による () *召合せ、縦小口包み板等 ※鋼板 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金			
5.5.4 形状及び仕上げ	*鋼板類の厚さ ※表5.5.1による ・図示による ()			
(5.5.6 標準型鋼製軽量建具)	*ステンレス製くつずりを使用する場合の仕上げ ・HL ・図示による () [表5.4.5]			
5.5.6 標準型鋼製軽量建具	*形状及び寸法 ・図示による () [表5.4.5]			
6節 ステンレス製建具				
5.6.3 材料	*ステンレス鋼板 ※SUS304 ※SUS430J1L ※SUS443J1 ・図示による ()			
5.6.4 形状及び仕上げ	*板ガラスをはめ込む溝の大きさ ※建具の製造所の仕様による () *表面仕上げ ※HL () ・図示による () *ステンレス製くつずりを使用する場合の仕上げ ※HL ・図示による ()			
5.6.5 工法	*曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ ・図示による			
7節 木製建具				
5.7.2 材料	*種別 ※A種 ・B種 *フラッシュ戸の材料 表面材の種類 ・普通合板 ・天然木化粧合板 ・特殊加工化粧合板 ・MDF ・図示による () 表面材の品質等 ※5.7.2.(2)(イ)による ・図示による () MDFの裏面の状態による区分、曲げ強さによる区分、耐水性による区分及び難燃性による区分 ・図示による ()			
5.7.3 形状及び仕上げ	*かまち戸及び鏡板の材種 () ・図示による *ふすまの種類及びふすま紙の上張りの種類 () ・図示による *枠及びくつずりの材料 () ・図示による *表面板の厚さ ※表5.7.6による () ・図示による *見込み寸法 ※表5.7.7による () ・図示による			
5.7.4 工法	*フラッシュ戸 引き戸 召合せかまち ・いんろう付き () *ふすまの縁の仕上げ () ・図示による			
		クラ設計株式会社	地ビール工房保全改修工事	図面番号
		一級建築士事務所 愛知県(い-6)13768号 高倉 康人	建築改修工事特記仕様書 4/10	縮尺 A-05
		検 図	製 図	設 計

章	項目	特記事項	備考	
5	8節 建具用金物			
	5.8.2 材質、形状及び寸法	*金物の種類及び見え掛りの材質 ※表5.8.11による(表の特記の適用は図示による)・() *金属製建具用丁番の枚数及び大きさ ※表5.8.2による・()・図示による *樹脂製建具用丁番の枚数及び大きさ ※表5.8.3による・()・図示による *木製建具用丁番の枚数及び大きさ ※表5.8.4による・()・図示による *戸車及びレール ※表5.8.5による・()・図示による		
	5.8.3 取付け施工	*握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセント等の取付け位置 ・図示による・()		
	5.8.4 鍵	*マスターキー ・製作する・製作しない *鍵 ※3本1組とし、室名札を付ける・() 鍵箱 ・要 ・不要		
	9節 自動ドア開閉装置			
	5.9.2 性能・機構	*戸の開閉方式 ・() ・図示による *自動ドアの開閉装置の性能 *駆動装置の性能 ※表5.9.1による(引き戸用)・() ・図示による *車椅子使用者用便房出入口の引き戸用駆動装置の性能 ※表5.9.2による・() ・図示による *検出装置の性能 ※表5.9.3による(引き戸用)・() ・図示による *引き戸用駆動装置及び引き戸用検出装置の防錆の適用 ・適用する ・適用しない ・図示による *引き戸用検出装置の種類 ・() ・図示による [表5.9.4] *タッチスイッチの種類 ・無線式タッチスイッチ ・光線式タッチスイッチ *車椅子使用者用便房用操作スイッチ ・大形(開・閉)押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ *凍結防止措置 ・要 ・不要		
	10節 自閉式上吊り引戸装置			
	5.10.3 性能等	*自閉式上吊り引戸装置の性能 ※表5.10.1による・() ・図示による		
	11節 重量シャッター			
	5.11.2 形式及び機構	*シャッター種類 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター ・図示による *耐風圧強度(外壁開口部に設ける重量シャッター) ・() ・図示による *開閉機能による種類 ※電動式(手動併用) ・手動式 ・図示による [表5.11.1] *安全装置 電動シャッターにおける不測の落下に備えた急降下制動装置又は急降下停止装置設置箇所 ・図示による・() 電動式シャッターにおける障害物感知装置設置箇所 ・図示による・() 屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構 ※(a)かつ(c) ・(b)かつ(c) ・図示による 設置箇所 ・図示による・()		
5.11.3 材料	*シャッターケース[管理用シャッター] ・設置する ・設置しない ・図示による *スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・() ・図示による 鋼板のめっき付着量 ※Z12またはF12を満足するもの・()			
12節 軽量シャッター				
5.12.2 形式及び機構	*開閉形式 ※手動式 ・電動式(手動併用) [表5.12.1] *耐風圧強度 ・図示による・() *安全装置 電動式シャッターにおける不測の落下に備えた急降下停止装置・設置する ・設置しない ・図示による 電動式シャッターにおける障害物感知装置設置箇所 ・図示による・()			
5.12.3 材料	*スラットの材質の種類 ・JIS G 3312 ・JIS G 3322 ・図示による・() スラットのめっき付着量 ※JIS G3312の場合はZ06又はF06を、JIS G3322の場合はAZ90を満足 ・図示による *スラットの形状 ・インターロック形 ・オーバーラッピング形 ・図示による・()			
5.12.4 形状及び仕上げ				
13節 オーバーヘッドドア				
5.13.2 形式及び機構	*セクション材料による区分 ※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ ・図示による *JIS A 4715による風圧力による強さの区分 ・() ・図示による *開閉方式 ※バランス式 ・チェーン式 ・電動式 ・図示による *収納形式 ・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・パーチカル形 ・図示による *電動式シャッターにおける障害物感知装置設置箇所 ・図示による・() *ガイドレールの材料 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板 ・図示による・()			
5.13.3 材料				
14節 ガラス				
5.14.2 材料	*フロント板ガラス 品種及び厚さによる種類 ・図示による・() 型板ガラス 厚さによる種類 ・図示による・() 網又は線入板ガラス 網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類 ・図示による・() 合わせガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びにガラスの合計厚さ ・図示による・() 強化ガラス 特性による種類 ・Ⅰ類 ・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類 ・図示による 形状による種類及び材料板ガラスの種類 ・図示による・() 厚さの呼びによる種類 ・図示による・() 特性による種類 ・Ⅰ類 ・Ⅲ類 ・図示による・() 熱線吸収板ガラス 材料板ガラスの種類、厚さによる種類 ・図示による・() 性能による種類 ・Ⅰ種 ・Ⅱ種 ・Ⅲ種 ・図示による・() 材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、複層ガラス厚さ ・図示による・() 断熱性による区分 ・T1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6 ・図示による 日射取得性、日射遮蔽性による区分 ・G ・S ・図示による 封入気体の種類 ・空気 ・アルゴン ・クリプトン ・ネオン ・図示による 熱線反射ガラス 材料板ガラスの種類 ・図示による・() 厚さによる種類 ・6mm ・8mm ・10mm ・12mm ・図示による・() 日射熱遮蔽性による種類 ・1種 ・2種 ・3種 ・図示による・() 倍強度ガラス 材料板ガラスの種類 ・図示による・() 厚さの呼びによる種類 ・6mm ・8mm ・10mm ・12mm ・図示による・()			
5.14.3 ガラス溝の寸法、形状等	*ガラス留め材 ・シーリング材 ・ガasket(用途による区分)・() ・図示による・() *板ガラスをはめ込む溝の大きさ ※建具の製造所の仕様による・()			
5.14.5 ガラスブロック積み	*材料 ガラスブロック 表面形状、呼び寸法及び厚さ ※図示による・() 壁用金属枠及び補強材 ※図示による・() 力骨の材質、寸法及び形状 ※ステンレス鋼(SUS304)製径5.5mmのはしご状複筋及び単筋 ・() ・図示による シーリング材の種類 ・図示による・() 金属製化粧カバーの材質、寸法及び形状 ・図示による・() *工法 建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 ・図示による・() 目地幅 平積み ・()mm ※8mm以上15mm以下 ・図示による 曲面積み ・()mm ※外側15mm以下、内側6mm以上 ・図示による 伸縮調整目地位置 ・()m以下ごと 伸縮調整目地の横力骨の納まり ※ガラスブロック製造所の仕様 ・図示による			

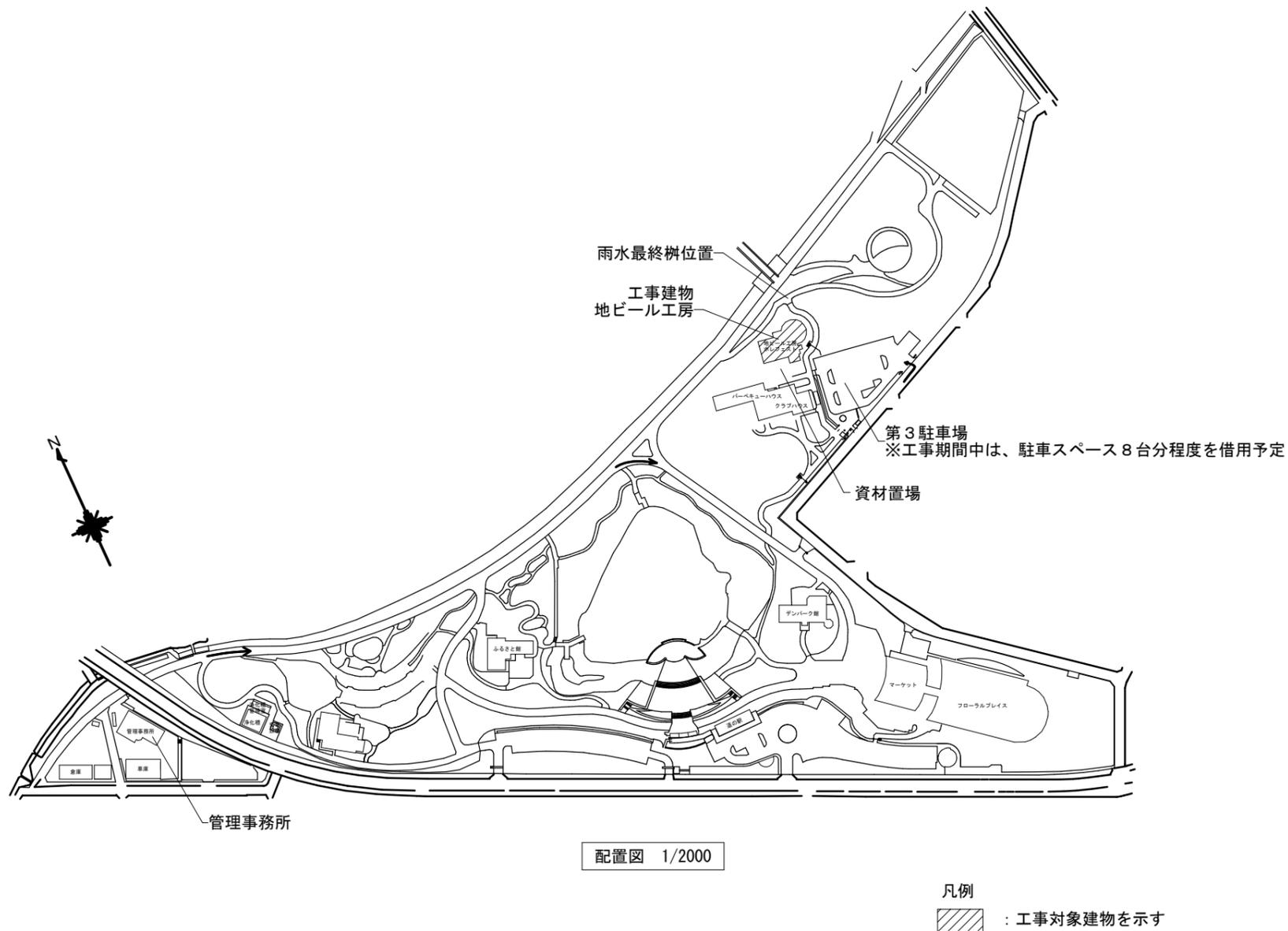
章	項目	特記事項	備考
6	3節 既存壁の撤去及び下地補修		
	6.3.2 工法	*間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※モルタル塗り[4.3.10] ・() ・図示による ※間伐材 樹種 ○杉(愛知県内産、長野県下伊那郡根羽村産、その他安城市交流自治体地域産)	
	6.5節 木下地等		
	6.5.1 一般事項	*超自動機械かんな、サンダー等による表面仕上げの場合 ・() ・図示による	[表6.5.1]
	6.5.2 木材	*含水率 ※A種 ・B種 *製材 「JAS 1083(製材)」による製材 下地用製材 寸法、含水率及び保存処理 ※図示による 等級 ・図示による ※2級 造作用製材 等級、寸法、含水率及び保存処理 ※図示による 板材における等級 ※樟、額縁、敷居、鴨居、框の類の見掛り面は上小節、それ以外は小節以上 ・図示による 広葉樹製材 寸法及び保存処理 ※図示による 等級 ※1等 ・図示による 含水率 ※10%以下 ・図示による・()	
	(2)(ア)		
	(2)(イ)	「JAS 1083(製材)」以外の製材 寸法、材面の品質、含水率及び防虫処理 ※図示による 下地、造作及び仕上げに用いる製材 寸法、材面の品質、含水率及び防虫処理 ※図示による 造作材の材面の品質の基準 ※A種 ・B種	[表6.5.2]
	(3)(ア)	*造作用集成材等 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 造作用集成材 品名、樹種名、見付け材面、寸法 ※図示による 見付け材面の品質 ※1等 ・図示による・() 化粧ばり造作用集成材 品名、樹種名、化粧薄板の厚さ、見付け材面、寸法 ※図示による 見付け材面の品質 ※1等 ・図示による・()	
	(3)(イ)	3(ア)以外の造作用集成材等 造作用集成材 樹種名、寸法、見付け材面の品質 ※図示による 含水率 ※15%以下 ・図示による・() 化粧ばり造作用集成材 樹種名、寸法、化粧薄板の厚さ、見付け材面の品質 ※図示による 含水率 ※15%以下 ・図示による・()	
	(4)(ア)	*造作用単板積層材 「JAS 07011(単板積層材)」に規定する造作用単板積層材 品名、寸法、表面の品質及び防虫処理 ※図示による	
(4)(イ)	「JAS 0701」以外の造作用単板積層材 寸法、表面の品質及び防虫処理 ※図示による 含水率 ※14%以下 ・図示による・()		
(5)	*直交集成板 品名、強度等級、種別、接着性能(使用環境)、樹種名及び寸法 ※図示による		
(6)	*合板等 下地用合板 品名、単板の樹種名、防虫処理 ※図示による 厚さ ※5.5mm ・図示による 接着の程度 ※1類 ・図示による 板面の品質 ※2等以上(広葉樹) ※C-D以上(針葉樹) ・図示による		
7	構造用合板	品名、単板の樹種名、保存処理、防虫処理、強度等級 ※図示による 厚さ ※12mm ・図示による 接着の程度 ※1類以上(湿潤箇所を除く) ※特類(湿潤箇所) ・図示による 等級 ※2級以上() 板面の品質 ※C-D以上・()	
	化粧ばり構造用合板	品名、厚さ、単板の樹種名、接着の程度、防虫処理 ※図示による 湿潤状態となる場所に使用する場合の接着の程度 ※特類 ・図示による 厚さ、接着の程度、化粧板に使用する単板の樹種名、防虫処理 ※図示による	
	天然木化粧合板	品名、厚さ、接着の程度、表面性能、単板の樹種名、化粧加工の方法、防虫処理 ※図示による	
	特殊加工化粧合板	品名、厚さ、接着の程度、表面性能、単板の樹種名、化粧加工の方法、防虫処理 ※図示による	
	パーティクルボード	表裏面の状態による区分 ※図示による	
	曲げ強さによる区分、耐水性による区分、厚さ ※15mm、13タイプ、耐水性1(Mタイプ) ※15mm、13タイプ、耐水性2(Pタイプ) ・()		
	構造用パネル 品名、厚さ ※図示による ダイヤモンドファイバーボード(MDF) 裏面の状態による区分、曲げ強さによる区分、耐水性による区分、難燃性による区分、厚さ ※図示による		
	6.5.3 接合具等	*造作材の化粧面の釘打ち ※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭現し *諸金物の形状、寸法、材質 ※6.5.3(2)(ア)による・() ・図示による	
	6.5.5 防腐・防蟻・防虫処理等	*下地木材への防腐・防蟻処理 適用部材、処理の種類 ※図示による・() 工場における薬剤の加圧注入処理等の適用部材及び保存処理性能区分 ※図示による・() 薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理 表面処理用木材保存剤による処理 ・行う ・行わない 薬剤の種類、適用部材 ※図示による・() 処理の方法 ※薬剤の製造所の仕様による・() ・図示による 薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理 ・図示による ・行う() ・行わない 合板等の加圧注入による防腐・防蟻処理 ・図示による ・行う() ・行わない *防虫処理 ・図示による ・行う() ・行わない *不燃材料、準不燃材料又は難燃材料の使用 ※図示による・()	
	6.5.6 RC造等の内部間仕切軸組及び床組	*間仕切軸組に用いる木材 ・杉 ・松 ・() *床組に用いる木材(土間スラブ類の土台、転ばし大引、転ばし根太) ・ひのき ・保存処理木材 ・() 床組に用いる木材(上記以外) ・杉 ・松 ・()	
6.5.7 窓、出入口その他	*窓、出入口その他に用いる木材 吊元枠、水掛りの下枠、敷居 ※ひのき ・() ・図示による その他 ・杉 ・松 ・() ・図示による		
6.5.8 床板張り	*縁甲板、上がりがまちに用いる木材 ※ひのき ・() ・図示による		
6.5.9 壁及び天井下地	*木材 ・杉 ・松 ・() ・図示による		
6節 軽量鉄骨天井下地			
6.6.2 材料	*野縁等の種類 屋内 ※19形 ・25形 ・図示による 屋外 ・19形 ※25形 ・図示による	[表6.6.1]	
6.6.3 形式及び寸法	*屋外の野縁受、吊りボルト、インサートの間隔 ・()mm ・図示による *屋外の野縁間隔 ・()mm ・図示による		
6.6.4 工法	*既存埋込インサートの使用 ・使用する ・使用しない ・図示による・() *あと施工アンカーの引抜き試験 ・行う ・行わない ・図示による *引張試験の箇所数及び確認強度 ※6.6.4(1)(ウ)による ・図示による・() *開口部等の補強方法 ※図示による・()		
クラ設計株式会社	地ビール工房保全改修工事	図面番号	
一級建築士事務所 愛知県(い-6)13768号 高倉 康人	建築改修工事特記仕様書 5/10	縮尺	A-06
検 製 設			

章	項目	特記事項	備考	章	項目	特記事項	備考		
6	7節 軽量鉄骨壁下地	*天井のふとところが3mを超える場合の補強方法 ※ 図示による () *天井下地材の耐震性を考慮した補強方法 ※ 図示による () *耐風圧性を考慮した補強方法(屋外軒天井、ピロティ天井等) ※ 図示による ()		改修工事	14節 壁紙張り	*壁紙の種類 ※ 図示による () *防火性能 ※ 図示による ()			
	6.7.3 形式及び寸法	*スタッドの種類 ・ 50形 ・ 65形 ・ 90形 ・ 100形 ※ スタッドの高さに応じた種類 () *スタッド高さが5.0mを超える場合 () ・ 図示による			6.14.2 材料				
	6.7.4 工法	*出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※ 6.7.4(5)による () ・ 図示による			6.14.3 施工	*モルタル面及びせつこうフラスター面の素地ごしらえ 種別 ・ A種 ※ B種 [表6.14.1] *コンクリート面の素地ごしらえ 種別 ・ A種 ※ B種 [表6.14.2] *せつこうボード面の素地ごしらえ及びけい酸カルシウム板面の素地ごしらえ 種別 ・ A種 ※ B種 [表6.14.3]			
	8節 ビニル床シート等張り	(ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り)			6 15節 モルタル塗り				
	6.8.2 材料	*ビニル床シート 種類の記号 ※ FS () ・ 図示による 厚さ ※ 2.0mm () ・ 図示による 色柄 () ・ 図示による *ビニル床タイル 種類の記号 ※ KT () ・ 図示による 寸法 () ・ 図示による 厚さ ※ 2.0mm () ・ 図示による 色柄 () ・ 図示による			6.15.3 材料	*モルタル ・ 現場調合材料 ・ 既調合材料() ・ 図示による *既製目地材 ・ 使用する(形状:) ・ 使用しない ・ 図示による *壁面の場合で、仕上げ厚又は全塗り厚が6.15.4(3)の規定を満足しない場合 ・ 図示による			
	9節 カーベツト敷き	6.8.3 工法	*特殊機能床材 帯電防止床シート 種類、性能、厚さ等 ・ 図示による () 帯電防止床タイル 種類、性能、寸法、厚さ等 ・ 図示による () 視覚障害者用床タイル 種類、形状 ・ 図示による () 耐動荷重性床シート 種類、厚さ等 ・ 図示による () 防滑性床シート 種類、厚さ等 ・ 図示による () 防滑性床タイル 種類、寸法、厚さ等 ・ 図示による ()			6.15.5 下地処理	*床の目地割り ※ 目地割2m程度、最大目地間隔3m程度 () ・ 図示による 種類 ※ 押し目地 () ・ 図示による		
			*ビニル幅木 種類 () ・ 図示による 厚さ ※ 1.5mm以上 () ・ 図示による 高さ ※ 60mm () ・ 図示による			6.15.6 工法	*伸縮目地の位置 ※ 縦横4m以内ごと(床タイル) () ・ 図示による *タイルの見本焼き ・ 有 ※ 無 (試験張り) ・ 有 ※ 無		
			*ゴム床タイル 色柄、種類、厚さ、寸法等 ・ 図示による ()			6.16.3 セメントモルタルによるタイル張り	*タイル ※ 図示による		
			*ビニル床シート、ビニル床タイル用の接着剤種別[下地がセメント系及び木質系以外の場合] () ・ 図示による			6.16.4 有機系接着剤によるタイル張り	*役物 ・ 有 ・ 無 *張付けモルタル 既調合モルタル () ・ 図示による *下地モルタル塗りのコンクリート素地面の下地処理 ・ 目荒し工法 () ・ 図示による *壁タイル張りの工法 内装タイル ・ 密着張り ・ 改良圧着張り ユニットタイル(内装タイル以外) ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り		
			*ゴム床タイル用の接着剤種別[下地がセメント系及び木質系以外の場合] ・ 図示による ()				*タイル () ・ 図示による		
			*6.8.3(1)(ア)~(ウ)以外の下地の工法 () ・ 図示による			17節 セルフレベリング材塗り	*役物 ・ 有 ・ 無		
			*接合部の処理 ※ 熱溶接工法 () ・ 図示による			6.17.3 調合及び塗厚	*セルフレベリング材塗厚 () ・ 図示による		
10節 合成樹脂塗床			6.9.2 材料	*織じゆうたん 織り方、パイルの形状 ・ 図示による () 色柄 () ※ 模様のない無地 ・ 図示による パイル糸の種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 帯電性 ※ 人体帯電圧3kV以下 ()	[表6.9.1]	7 2節 下地調整			
				*タフテツカーベツト パイルの形状、パイル長 ・ 図示による () 帯電性 ※ 人体帯電圧3kV以下 ()		7.2.1 施工一般	*RB塗塗替えの場合の既存塗膜の撤去範囲 ※ 劣化部分 ・ 図示による		
				*タイルカーベツト 種類 ※ 第一種 ・ 第二種 ・ 図示による () パイルの形状 ※ ループパイル () ・ 図示による 寸法 ※ 500mm角 () ・ 図示による 総厚さ ※ 6.5mm () ・ 図示による		7.2.2 木部の下地調整	*木部の下地調整種別 ・ RA種 ※ RB種[不透明塗料塗り] ・ RC種 ・ 図示による [表7.2.1]		
	*下敷き材 ※ JIS L 3204(反毛フェルト)の第2種2号、呼び厚さ8mm () ・ 図示による			7.2.3 鉄鋼面の下地調整	*鉄鋼面の下地調整種別 ・ RA種 ※ RB種 ・ RC種 ・ 図示による [表7.2.2]				
	*取付け用付属品 見切り材、押え金物の材質、種類、形状 ※ 図示による ()			7.2.4 亜鉛めつき鋼面の下地調整	*亜鉛めつき鋼面の下地調整種別 ・ RA種 ※ RB種 ・ RC種 ・ 図示による [表7.2.3]				
	*タフテツカーベツトの工法 ・ グリツパー工法 ・ 全面接着工法 ・ 図示による			7.2.5 モルタル面及びフラスター面の下地調整	*モルタル面及びフラスター面の下地調整種別 ・ RA種 ※ RB種 ・ RC種 ・ 図示による [表7.2.4] ひび割れ部の補修 () ・ 図示による				
	*織じゆうたんの接合方法[グリツパー工法] ※ ヒートボツト工法 ・ 手縫い			7.2.6 コンクリート面、ALC面、押出成形セメント面の下地調整	*コンクリート面、ALCハネル面の下地調整種別[DP塗り以外] ・ RA種 ※ RB種 ・ RC種 ・ 図示による [表7.2.5] ひび割れ部の補修 () ・ 図示による *コンクリート面[DP塗り]、押出成形セメント板面の下地調整種別 ・ RA種 ・ RB種 ・ RC種 ・ 図示による [表7.2.6]				
	*タイルカーベツトの敷き方[全面接着工法] 平場 ※ 市松敷き () ・ 図示による 階段 ※ 模様流し () ・ 図示による			7.2.7 セツこうボード面、その他ボード面の下地調整	*セツこうボード面及びその他ボード面の下地調整種別 ・ RA種 ※ RB種 ・ RC種 ・ 図示による [表7.2.7]				
	11節 フローリング張り	6.9.4 工法		*弾性ウレタン樹脂系 仕上げの種類 ※ 平滑 ・ 防滑 ・ つや消し ・ 図示による [表6.10.4]		3節 素地ごしらえ			
				*エボキシ樹脂系 工法 薄膜流しのべ ・ 厚膜流しのべ ・ 樹脂モルタル ・ 図示による 仕上げの種類 ・ 平滑 ・ 防滑		7.3.2 木部の素地ごしらえ	*木部の素地ごしらえ種別 不透明塗料塗りの場合 ※ A種 ・ B種 ・ 図示による [表7.3.1] 透明塗料塗りの場合 ・ A種 ※ B種 ・ 図示による		
*種類 ・ 単層フローリング(・フローリングボード1等 ・ フローリングブロック1等) ・ 複合フローリング ・ 図示による				7.3.3 鉄鋼面の素地ごしらえ	*鉄鋼面の素地ごしらえ種別 DP塗り以外 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ 図示による [表7.3.2] DP塗り ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ 図示による				
*工法 ・ 釘留め(根太張り)工法 ・ 釘留め(直張り)工法 ・ 接着工法 ・ 図示による				7.3.4 亜鉛めつき鋼面の素地ごしらえ	*亜鉛めつき鋼面の素地ごしらえ種別 ・ A種 ・ B種 ・ 図示による [表7.3.3]				
*根太張り工法				7.3.5 モルタル面及びフラスター面の素地ごしらえ	*モルタル面及びフラスター面の素地ごしらえ種別 ・ A種 ※ B種 ・ 図示による [表7.3.4]				
フローリング			・ フローリングボード(根太張用) ・ 複合フローリング(根太張用)		7.3.6 コンクリート面、ALC面、押出成形セメント面の素地ごしらえ	*コンクリート面、ALCハネル面の素地ごしらえ種別[DP塗り以外] ・ A種 ※ B種 ・ 図示による [表7.3.5] *コンクリート面[DP塗り]、押出成形セメント板面の素地ごしらえ種別 ・ A種 ・ B種 ・ 図示による [表7.3.6]			
フローリングボードの樹種 () ・ 図示による				7.3.7 セツこうボード面、その他ボード面の素地ごしらえ	*セツこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ種別 ・ A種 ※ B種 ・ 図示による [表7.3.7]				
複合フローリングの種別 () ・ A種 ・ B種 ・ C種 [表6.11.2]				4節 錆止め塗料塗り					
複合フローリングの樹種 () ・ 図示による				7.4.2 塗料種別	*鉄鋼面錆止め塗料種別[EP-G塗りの場合] ・ A ₂ 種 ※ B ₂ 種 ・ 図示による [表7.4.1] *亜鉛めつき鋼面錆止め塗料種別[SOP塗りの場合] 鋼製建具等 ※ A ₂ 種 ・ B ₂ 種 ・ C ₂ 種 ・ 図示による [表7.4.2] その他 ・ A ₂ 種 ※ B ₂ 種 ・ C ₂ 種 ・ 図示による				
*直張り工法			・ フローリングボード(直張用) ・ 複合フローリング(直張用)		7.4.3 錆止め塗料塗り	*鉄鋼面錆止め塗料塗り [SOP、EP-G塗り、及び錆止め塗装のままの場合] 見え掛り部(新規) ※ A種 ・ B種 ・ C種 ・ 図示による [表7.4.3] 見え隠れ部(新規) ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ 図示による 塗替え ・ A種 ・ B種 ※ C種 ・ 図示による			
フローリング	・ フローリングボード(直張用) ・ 複合フローリング(直張用)		5節 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	7.5.2 木部SOP	*種類 [新規] ・ 図示による 屋外 ※ A種 ・ B種 ・ C種 [表7.5.1] 屋内 ・ A種 ※ B種 ・ C種				
複合フローリングの種別 () ・ A種 ・ B種 ・ C種 [表6.11.4]		7.5.3 鉄鋼面SOP		*種類 [塗替え] ・ 図示による 屋外 ※ A種 ・ B種 ・ C種 [表7.5.2] 屋内 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ 図示による					
複合フローリングの樹種 () ・ 図示による		改修工事		クア設計株式会社 地ビール工房保全改修工事 一級建築士事務所 愛知県(い-6)13768号 高倉 康人 建築改修工事特記仕様書 6/10 縮尺 A-07					
*フローリング	・ フローリングボード(直張用) ・ 複合フローリング(直張用)								
*フローリングボードの樹種 () ・ 図示による									
*複合フローリングの種別 () ・ A種 ・ B種 ・ C種 [表6.11.6]									
*複合フローリングの樹種 () ・ 図示による									
*フローリングブロックの樹種、厚さ、幅及び長さ ・ 図示による ()									
*フローリング裏面の不陸緩衝材 ※ 合成樹脂発泡シート () ・ 図示による									
*下地調整及び塗装 下地調整 ※ 6.11.7による () ・ 図示による 塗装 () ・ 図示による									
12節 畳敷き	6.12.2 材料		*畳の種類 ・ A種(畳表の記号:) ・ B種 ・ C種(畳床の記号:) ・ D種(畳床の記号:) [表6.12.1] *衝撃緩和型畳の畳表 ・ C1 ・ C2 ・ 図示による						
13節 セツこうボード等張り	6.13.2 材料		*ボード類の種類、厚さ等 ※ 図示による ボード表面の化粧張り仕上げ ※ 図示による *普通合板 品名、単板の樹種名 ※ 図示による () 厚さ ※ 5.5mm ・ 図示による () 板面の品質 [広葉樹の場合] ※ 2等以上 [針葉樹の場合] ※ C-D以上 ・ 図示による *天然木化粧合板 厚さ、化粧板に使用する単板の樹種名 ※ 図示による () *特殊加工化粧合板 品目、厚さ、接着の程度、単板の樹種名、化粧加工の方法 ※ 図示による () *防虫処理 ※ 図示による () *天井のボードの重ね張り(ロックウール吸音板を除く) ・ 図示による () *合板の張付け種別 ・ A種 ・ B種 [表6.13.3] *セツこうボードの目地工法の種類 ・ 継目処理工法 ・ 突付け工法 ・ 目透し工法 [表6.13.5] *セツこうボードのエッジの種類(突き付け工法及び目透し工法の場合) ・ ベベルエッジ ・ スクエアエッジ ・ 図示による						

章	項目	特記事項	備考
8	8.15.12 溶接部の試験	*「鉄骨造の継手又は仕口の構造方法を定める件」第二号に関する試験方法等 ・ 図示による ・ () *「鉄骨精度検査基準」の付表3「溶接」に関する試験方法等 ・ 図示による ・ () *完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ※ 行う ・ 行わない	
	17節 鉄骨の錆止め塗装		
	8.17.2 塗装の範囲	*耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ※ 図示による ・ () 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※ 8.17.2(1)(ア)～(オ)以外の範囲 ・ 図示による ・ ()	
	8.17.4 塗料の種類	*SRC造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内面 ・ 図示による ※ 表7.4.1のA ₀ 種 ・ () *耐火被覆材が接着する面 ・ () ・ 図示による	
	18節 耐火被覆		
	8.18.2 耐火被覆の種類等	*耐火被覆の種類 ※ 図示による ・ () ・ 耐火材吹付け ・ 耐火板張り ・ 耐火材巻付け ・ ラス張りモルタル塗り ・ 耐火塗料 ・ () *材料及び工法等 ※ 図示による ・ ()	
	8.18.3 耐火被覆の性能、品質等	*耐火被覆の耐火性能 ※ 図示による ・ ()	
	20節 溶融亜鉛めっき工法		
	8.20.5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合	*摩擦面の処理方法等 ・ プラスト処理 ・ リン酸塩処理 ・ () ・ 図示による	
	21節 現場打ちRC壁の増設工事		
	8.21.2 既存部分の撤去等	*既存仕上の撤去範囲 ※ 本工事に支障となる最小限の範囲 ・ 図示による ・ () *工事に支障となる設備機器、配管等の撤去、移設 ・ 図示による ・ () *既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による ・ () *はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 図示による ・ ()	
	8.21.3 既存部分の処理	*打継ぎ面となる範囲の既存構造体コンクリート面の目荒しの程度 ※ 図示による ・ ()	
	8.21.6 鉄筋の加工及び組立	*割裂補強筋の仕様 ※ 図示による ・ ()	
	8.21.8 コンクリートの打込み	*コンクリート打込み工法 ・ 流込み工法 ・ 圧入工法 ・ 図示による ・ ()	
	8.21.9 既設構造体との取合い	*既存構造体と増設壁との取合いの処理方法 ※ グラウト材の注入 ・ 図示による ・ ()	
	8.21.10 仕上げ	*増設壁工事後の仕上げ ※ 図示による ・ ()	
	22節 鉄骨フレスの設置工事		
8.22.2 既存部分の撤去等	*既存仕上の撤去範囲 ※ 本工事に支障となる最小限の範囲 ・ 図示による ・ () *工事に支障となる設備機器、配管等の撤去、移設 ・ 図示による ・ () *既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による ・ () *はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 図示による ・ () *目荒しの程度 ※ 図示による ・ ()		
8.22.3 既存部分の処理	*目荒しの程度 ※ 図示による ・ ()		
8.22.7 既存構造体との取合い	*割裂補強筋の仕様 ※ 図示による ・ ()		
8.22.9 仕上げ	*フレス設置工事後の仕上げ ※ 図示による ・ ()		
23節 柱補強工事			
8.23.2 既存部分の撤去等	*既存仕上の撤去範囲 ※ 本工事に支障となる最小限の範囲 ・ 図示による ・ () *工事に支障となる設備機器、配管等の撤去、移設 ・ 図示による ・ () *既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による ・ () *はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 図示による ・ () *目荒しの程度 ※ 図示による ・ ()		
8.23.3 既存部分の処理	*目荒しの程度 ※ 図示による ・ ()		
8.23.5 溶接金網巻工法及び溶接閉鎖フープ巻工法	*コンクリート及び構造体用モルタルの打ち込み ・ 流込み工法 ・ 圧入工法 ・ 図示による		
8.23.6 鋼板巻・帯巻巻付工法	*鋼板等の加工 柱頭及び柱脚に隙間を設ける場合 ※ 図示による ・ ()		
8.23.7 仕上げ	*補強工事後の仕上げ ※ 図示による ・ ()		
24節 連続繊維補強工事			
8.24.4 既存部分の撤去等	*既存仕上の撤去範囲 ※ 本工事に支障となる最小限の範囲 ・ 図示による ・ () *工事に支障となる設備機器、配管等の撤去、移設 ・ 図示による ・ () *既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による ・ () *はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 図示による ・ ()		
8.24.6 施工	*下地処理 ひび割れ部の改修工法種類 ・ 4.1.4による樹脂注入工法 ・ 図示による ・ () 面取りの大きさ(柱及び梁の隅角部) ※ 図示による ・ () *引張強度試験 ・ 行う(試験数量:) ・ 行わない *付着強度試験 ・ 行う(試験数量:) ・ 行わない *補強工事後の仕上げ ※ 図示による ・ ()		
8.24.7 仕上げ	*補強工事後の仕上げ ※ 図示による ・ ()		
25節 耐震スリット新設工事			
8.25.2 施工	*スリット幅及び深さ ※ 図示による ・ () *既存仕上の撤去範囲 ※ 本工事に支障となる最小限の範囲 ・ 図示による ・ () *工事に支障となる設備機器、配管等の撤去、移設 ・ 図示による ・ () *充填材の挿入及び周囲補修等 耐火材の使用箇所及び仕様 ※ 図示による ・ () 遮音材の使用箇所及び仕様 ※ 図示による ・ () *既存部分の撤去部の補修 ※ 撤去材と同一材で補修 ・ 監督職員との協議による ・ ()		
26節 免震改修工事			
8.26.5 既存部分の撤去等	*既存部分がRC又はSRCの場合の既存仕上の撤去範囲 ※ 本工事に支障となる最小限の範囲 ・ 図示による *工事に支障となる設備機器、配管等の撤去、移設 ・ 図示による ・ () *既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による ・ () *はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 図示による ・ () *既存杭の撤去範囲及び撤去方法 ※ 図示による ・ ()		
8.26.6 既存部分の処理	*打継ぎ面となる範囲の既存構造体コンクリート面の目荒しの程度 ※ 図示による ・ () *既存杭の杭頭部等の処理 ※ 図示による ・ ()		
8.26.7 支承材・減衰材	*支承材又は減衰材の材質、諸元 ※ 図示による ・ () *性能確認試験の項目及び数量 ・ () ・ 図示による *製品検査における項目、内容、判定基準、検査頻度等 ・ 図示による ・ ()		
8.26.10 支承材又は減衰材の設置	*防錆処置 ・ () ・ 図示による *支承材又は減衰材の設置位置の寸法許容差 ・ () ・ 図示による *割裂補強筋の適用 ・ 適用する ・ 適用しない *コンクリート打込み工法 ・ 流込み工法 ・ 圧入工法 ・ 図示による		
8.26.13 仕上げ	*支承材又は減衰材設置後の仕上げ ・ 図示による ・ ()		
8.26.14 耐火被覆	*支承材への耐火被覆の適用 ・ 適用しない ・ 適用する(仕様:) ・ 図示による		
8.26.15 免震EXP-J	*免震部分周囲のエキスパンションジョイントの仕様、工法等 ※ 図示による ・ ()		
8.26.16 検査	*検査の項目及び数量 ・ () ・ 図示による		
8.26.17 維持管理要領	*記載する項目 ※ 8.26.17(2)による ・ () *地震計、下げ振り、けがき板、別置き試験体等の設置及び仕様 ※ 図示による ・ ()		

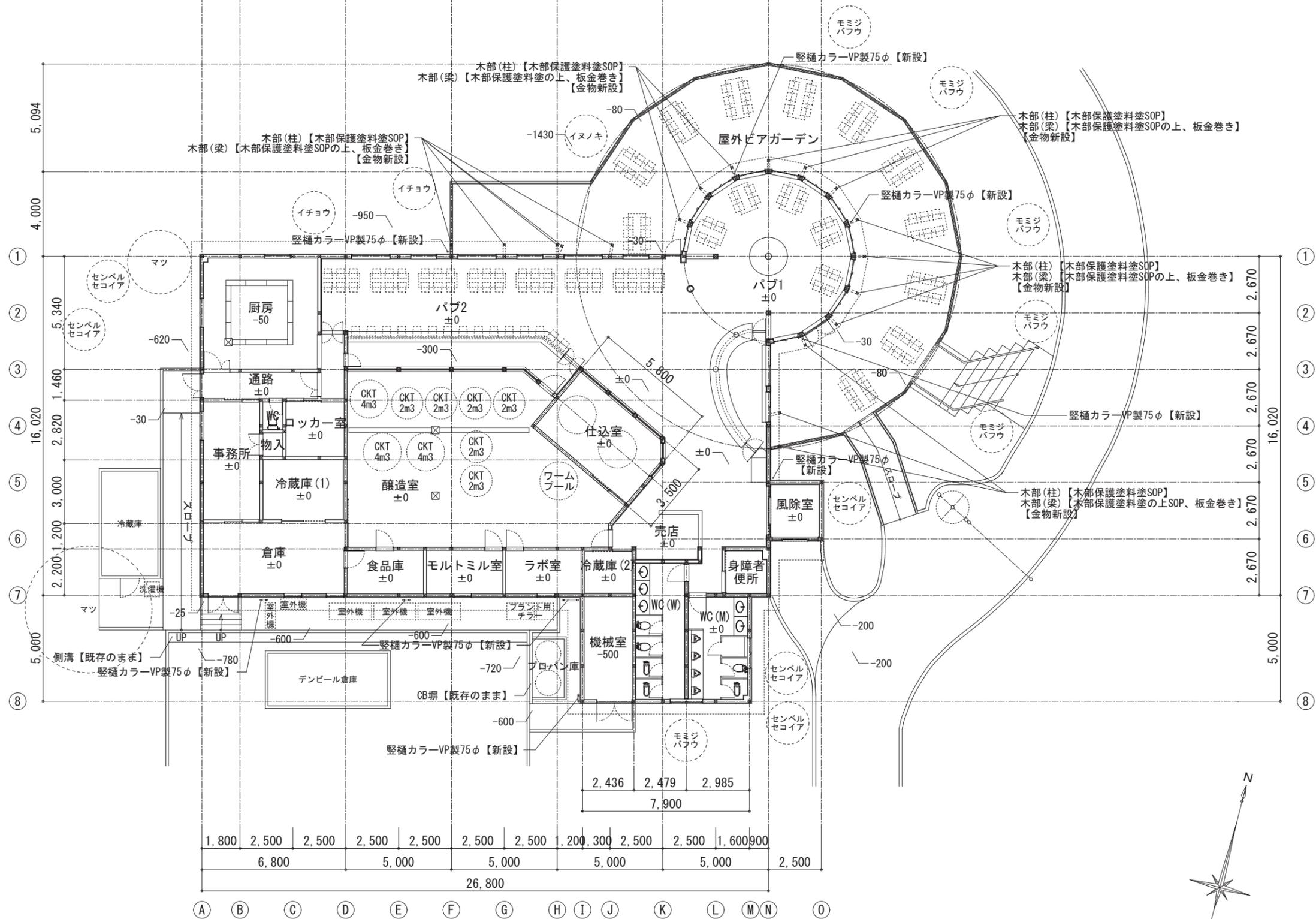
章	項目	特記事項	備考		
8	27節 制振改修工事				
	8.27.2 既存部分の撤去等	*既存鉄筋コンクリート及び既存鉄筋鉄骨コンクリートの撤去等 既存仕上の撤去範囲 ※ 本工事に支障となる最小限の範囲 ・ 図示による ・ () 工事に支障となる設備機器、配管等の撤去、移設 ・ 図示による ・ () 既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による ・ () はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 図示による ・ () *既存鉄骨の撤去範囲及び撤去方法 ※ 図示による ・ () *既存鉄骨の処置 ※ 図示による ・ ()			
	8.27.3 既存部分の処理	*打継ぎ面となる範囲の既存構造体コンクリート面の目荒しの程度 ※ 図示による ・ ()			
	8.27.4 減衰材	*減衰材の材質、諸元 ※ 図示による ・ () *性能確認試験の項目及び数量 ・ () ・ 図示による *製品検査における項目、内容、判定基準、検査頻度等 ・ 図示による ・ ()			
	8.27.6 減衰材の設置	*防錆処置 ・ () ・ 図示による 設置位置の寸法許容差 ・ 図示による ・ () *割裂補強筋の適用 ・ 適用する(仕様 ※ 図示による) ・ 適用しない *コンクリート打込み工法 ・ 流込み工法 ・ 圧入工法 ・ 図示による			
	8.27.8 仕上げ	*減衰材設置後の仕上げ ・ 図示による ・ ()			
	8.27.9 検査	*検査の項目及び数量 ・ 図示による ・ ()			
	28節 土工事及び地業工事				
	8.28.2 既存杭の撤去等	*既存杭の撤去範囲及び撤去方法 ※ 図示による ・ () *既存杭の杭頭部等の処理 ※ 図示による ・ () *既存杭の補強 ※ 図示による ・ () *既存杭の健全性を確認する試験 ・ 行う ・ 行わない			
	8.28.3 土工事	*埋戻し及び盛土の材料、工法 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 図示による [表8.28.1] *処分にあたっては「リサイクルガイドライン」に基づき、適正に処理する。 *建設発生土の有無 ・ 有 ・ 無 *建設発生土の処理 ・ 構外搬出(関係法令に従い適切に処理) (搬出先名称(所在地):) (片道運搬距離(km):) (片道運搬時間(時間):) (搬出先条件(土質試験、その他建設発生土の発生抑制や適正処分に必要な情報):)			
	8.28.4 地業工事	*場内敷き均し 建設発生土を構外へ搬出する場合は、搬出先等の承諾を得たうえで、搬出先及び処分状況(高さ、勾配等)がわかる写真並びに運搬を証明する書類等を監督職員に提出する。 *試験杭位置 ※ 図示による 本数 ※ 図示による ・ () 本 寸法 ・ () m *試験杭の施工方法 ※ 図示による ・ () *杭の載荷試験 ・ 鉛直載荷試験 ・ 水平載荷試験 試験杭の位置、本数、積載荷重 ※ 図示による ・ () 8.28.4(2)(イ)以外の報告書の記載事項 ・ () *地盤の載荷試験 ・ 平板載荷試験 ・ 行わない 試験位置 ※ 図示による 載荷荷重 ※ 図示による ・ () 8.28.4(2)(イ)以外の報告書の記載事項 ・ () *杭地業の工法 ※ 図示による ・ () *支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ、水平方向の位置ずれの精度 ※ 図示による ・ () *杭の寸法 ※ 図示による ・ () *技能資格者の技量及び溶接部の確認 ・ () ・ 図示による *杭頭処理 ※ 図示による ・ () ・ 無し *本杭の施工方法 ※ 図示による ・ () *記録する施工状況等 ・ () ・ 図示による *砂利及び砂地業 範囲 ※ 図示による 厚さ ※ 60mm ・ () mm ・ 図示による *捨コンクリート 範囲 ※ 図示による 厚さ ※ 50mm ・ () mm ・ 図示による			
	9	1節 石綿含有建材の除去工事	*大気汚染防止法に基づき、適正に対応すること		
	9.1.1 一般事項	*石綿含有建材除去後の仕上げ工事 ※ 図示による ・ () *石綿粉じん濃度測定 ・ 行う ・ 行わない			
	環 境 配 慮 改 修 工 事	測定時期	測定場所	測定箇所数	備考
		処理作業前	① 施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点	注1)注4)
		処理作業中	② セキュリティゾーン入口	1点	空気の流れを確認注1)
			③ 集じん・排気装置の排出口(処理作業室外の場合)	1点	集じん・排気装置の性能確認注1)
処理作業後		④ 施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点	注1)	
隔離シート撤去前		⑤ 処理作業室(隔離された区域)内	2点	注2)	
注1) 速報値で10f/L以上検出された場合は、直ちに作業を中止し、その原因を確認すること。 注2) 各施工箇所ごとの室面積が10㎡以下の場合は1点、50㎡までは2点、300㎡以下までは3点とする。 300㎡を超えるものは、300㎡ごとに1測定点を追加する。 注3) 粉じん測定は、粉じん飛散抑制剤を散布した翌日とし、速報値で10f/L以下であることを確認した後、シートの撤去を行うこと。 注4) 処理作業前の測定については、監督員との協議による。 *石綿則第6条による隔離措置と「同等以上の効果を有する措置」により除去等作業を行う場合、上表のうち、①及び④を実施する。 *粉じん濃度測定結果報告書の提出部数 ※ 2部 ・ () 部 *石綿作業主任者は、法令に基づき、労働者の指揮、作業方法の指導等、必要な措置を行うこと。 特に、主たる工事が石綿対策工事の場合は、自社所属の石綿作業主任者を選任すること。 *監督職員等の保護具、保護衣等は、受注者が無償で準備すること。					
9.1.2 除去工事共通事項					
クラ設計株式会社		地ビール工房保全改修工事		図面番号	
一級建築士事務所 愛知県(い-6)13768号 高倉 康人		建築改修工事特記仕様書 8/10		A-09	
検 図		製 図	設 計		

□ 工事概要	
工事名称	地ビール工房保全改修工事
主要用途	
敷地位置	安城市赤松町地内（デンパーク内）
工事種別	改修
区域の指定	
用途地域の指定	市街化調整区域、指定なし
防火地域の指定	指定なし
その他の地区・地域の指定	
対象建物 床面積等概要	地ビール工場 木造平屋建て 延床面積：511.72㎡（平成9年 竣工）
□ 改修内容	
【保全工事】	
【地ビール工場】	
屋根改修工事	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーベスト損傷部更新 ・カラー鉄板損傷部更新 ・既設軒樋の詰まり対策【落葉避けネット新設】 ・カラーベスト仕上げ部分全面：屋根用弱溶剤系フッ素樹脂塗料塗【新設】 ・カラー鉄板仕上げ部分全面：DP（1級）塗装【新設】 ※屋根洗浄水は最終樹で集水（アスベスト含有水とみなす）し適切な産業廃棄物処分を行うこと。また、樋・側溝の高圧洗浄を行う事。屋根の洗浄水はアスベスト含有分析調査（定性・定量）を1検体実施すること。
外壁改修工事	<ul style="list-style-type: none"> ・レンガタイル及びブリックタイル損傷部：タイル更新、目地更新 ・レンガタイル及びブリックタイル部：透明樹脂外壁防水吹付 ・粘板岩乱貼浮き部：アンカーピンニングエポキシ樹脂注入 ・木部先端及び金物撤去の上、木部保護塗料塗、板金巻き、金物新設 ・モルタルひび割れ部：モルタルパテ補修の上、DP塗装 ・縦樋：撤去及びカラー塩ビ製縦樋新設 ・タイルとモルタルの取合部及び、照明器具等のシーリング撤去、新設 ※外壁改修前に施工数量調査をし、正確な補修箇所を把握するものとする ※全面高圧水洗による水洗いの上、改修を行うが、内部への漏水を考慮しシーリングの打ち替えを先行する等の配慮を行うこと。
建具改修工事	<ul style="list-style-type: none"> ・金物交換 ・外壁とサッシの取合部、ガラス廻りシーリング打ち替え ・飛散防止フィルム撤去、新設 ・排煙オペレーター更新
□ 施工条件	
<ul style="list-style-type: none"> ・工事は、月曜日～金曜日8時～17時頃までの間に実施すること。 ・土、日、祝日は、運営（対象建物を使用）するため、休日とする。 ただし以下の期間において実施する「室内工事及び風除室前軒天改修工事」は、土日祝の作業も可能とする。	
<ul style="list-style-type: none"> ・室内工事及び風除室前軒天改修工事は、7/10～8/8 か 8/17～9/12 のうちまとまった3週間の期間内に実施すること。 その期間中は店舗を休業するため、作業予定を早めに協議すること。（店舗は休業だがバックヤードでスタッフの事務作業は行う可能性がある） ・現場作業は9/30までに完了（仮設撤去共）させること。 ・デンパークの営業時間・休園日は、ホームページの営業・催しものカレンダーによる。 ・工事による汚損が屋内に発生する期間においては、運営日前日までに室内の養生撤去・清掃を行うこと（屋内には飲食店あり） 上記については、施設側立ち会いのもと確認を行うこと。 ・工事中スペースとして第3駐車場で約8台分の駐車スペースを借用することができる。仮設計画図で監督員及び施設管理者へ協議を行うこと。 	



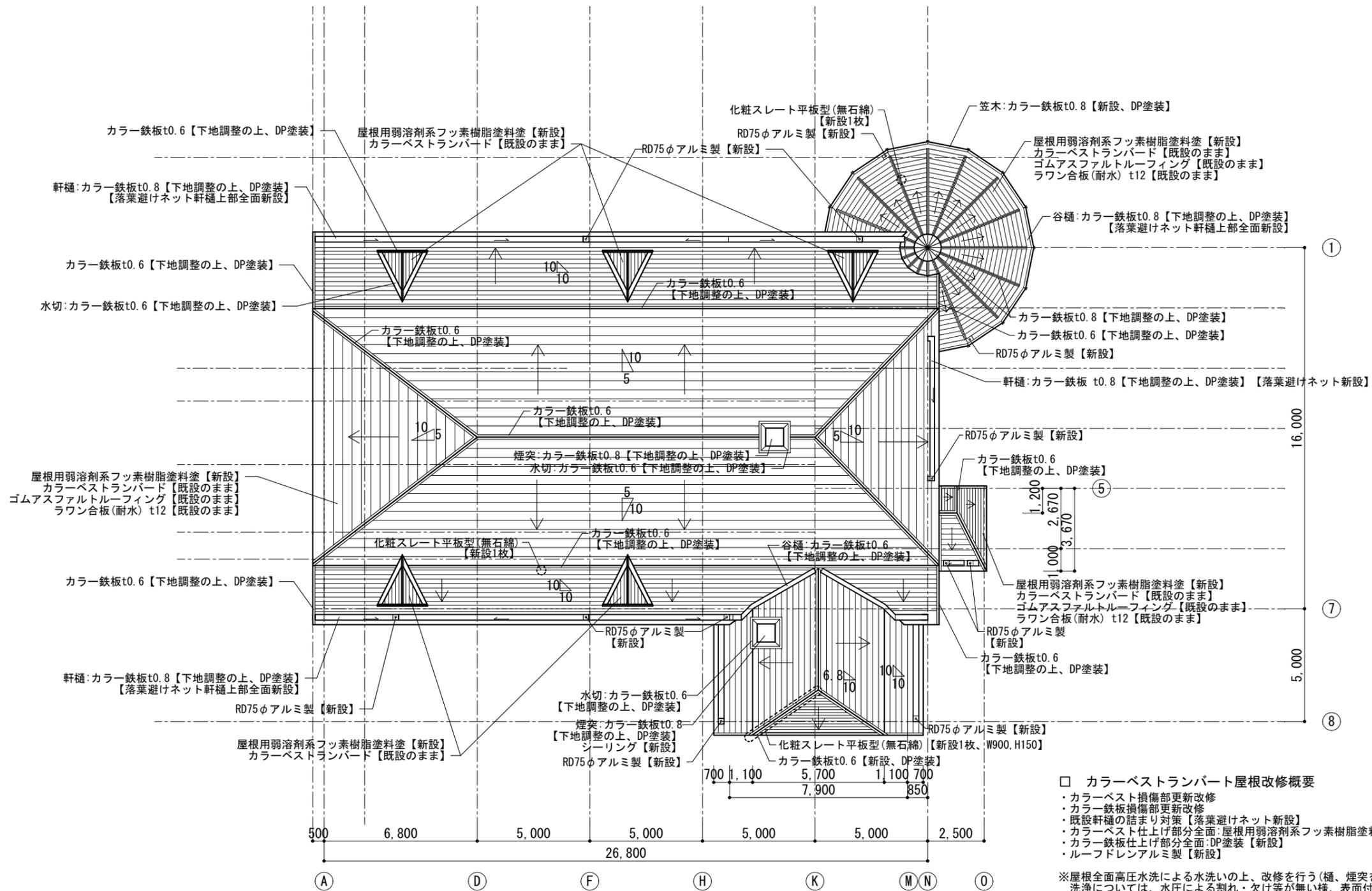
縮尺はA1版に適合（A3版→50%縮小）

工事名		地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-12
図面名		工事概要・配置図	縮尺	1/2000 (A1原図)
日付		クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
		一級建築士事務所 愛知県 (い-6) 13768号		一級建築士登録第244870号



縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-15
図面名	平面図(改修後)	縮尺	1/100 (A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県 (い-6) 13768号		一級建築士登録第244870号



□ カラーベストランパート屋根改修概要

- ・カラーベスト損傷部更新改修
- ・カラー鉄板損傷部更新改修
- ・既設軒樋の詰まり対策【落葉避けネット新設】
- ・カラーベスト仕上げ部分全面：屋根用弱溶剤系フッ素樹脂塗料塗【新設】
- ・カラー鉄板仕上げ部分全面：DP塗装【新設】
- ・ルーフトレンアルミ製【新設】

※屋根全面高圧水洗による水洗いの上、改修を行う（樋、煙突を含む）
 洗浄については、水圧による割れ・欠け等が無い様、表面付着物除去の加圧とし、
 高圧洗浄の加圧強度は係員との協議・試験施工の上施工すること
 なお、屋根洗浄水に関してはアスベスト含有の汚水とみなし、最終樹にて収集し無機汚泥として処分のこと
 ※箱樋の落葉清掃を行うこと

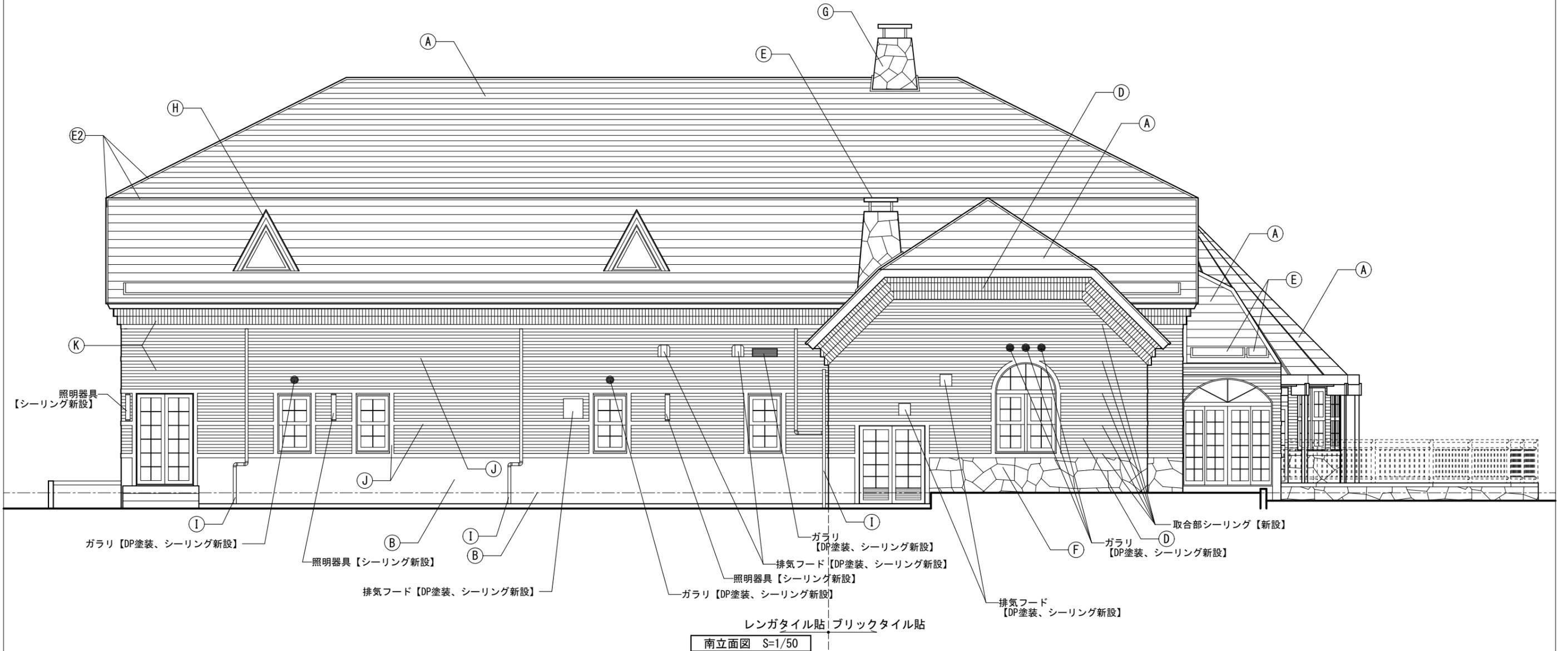
縮尺はA1版に適合（A3版→50%縮小）

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-17
図面名	屋根伏図(改修後)	縮尺	1/100(A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県(い-6) 13768号		一級建築士登録第244870号

□外壁改修概要

※外壁改修前に施工数量調査をし、正確な補修箇所を把握するものとする
 ※全面高圧水洗による水洗いの上、改修を行う(側溝、犬走を含む)
 内部への漏水を考慮しシーリングの打ち替えを先行する等の配慮を行うこと
 ※損傷部は劣化調査図参照

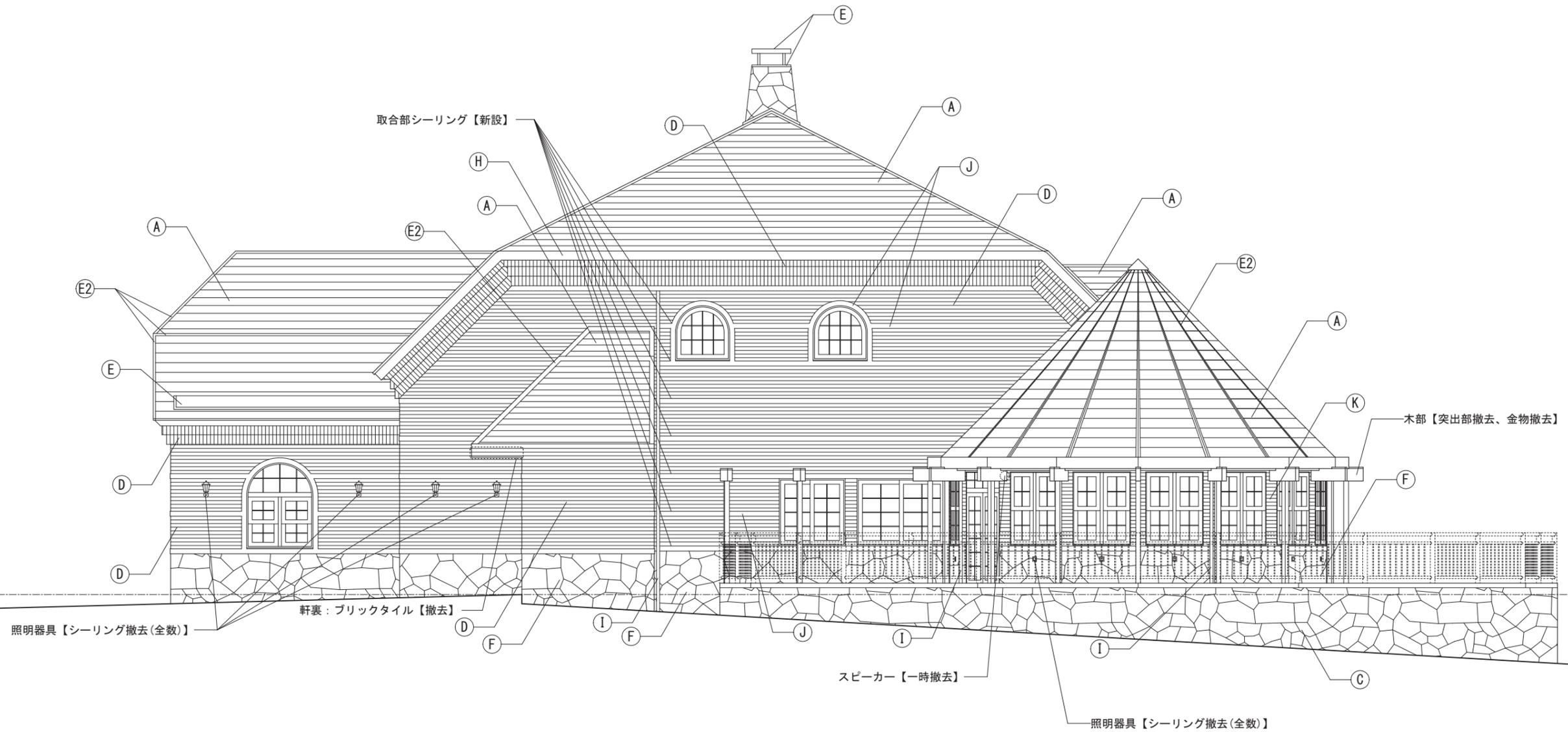
- ・レンガタイル、ブリックタイルひび割れ箇所(0.2mm以上)、脱落箇所、施工不良箇所【タイル貼替工法、目地補修】
- ・コンクリート下地粘板岩乱貼浮き箇所【アンカーピンニングエポキシ樹脂部分注入工法】
- ・コンクリートひび割れ箇所(幅1.0mm以上)【Uカットシール充填】



外部仕上げ凡例(改修後)			
①	ラワン合板(耐水タイプ)t12PBt9.5の上 アスファルトルーフィング下地カラーベストランパート【既設のまま】 【屋根用弱溶剤系フッ素樹脂塗料塗】	④	ブリックタイル貼(セメント系) 【損傷部補修の上、透明樹脂外壁防水吹付】
②	モルタル刷毛引き 【既設のまま】	⑤	カラー鉄板t0.8曲げ加工【下地調整の上、DP塗装】 ②t0.6
③	コンクリート石貼状型枠打放し【既設のまま】	⑥	コンクリート下地粘板岩乱貼 【浮き箇所確認の上、アンカーピンニングエポキシ樹脂注入】
		⑦	耐水ボード12.5、塗膜防水、メタルラス下地粘板岩乱貼 【浮き箇所確認の上、アンカーピンニングエポキシ樹脂注入】
		⑧	米松t25キシラデコール塗【下地調整の上、DP塗装】
		⑨	縦樋カラー塩ビ製75φ【新設】
		⑩	モルタル金ゴテVP 【DP塗装】
		⑪	レンガタイル(二丁掛) 【損傷部補修の上、透明樹脂外壁防水吹付】

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-19
図面名	南立面図(改修後)	縮尺	1/50(A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県(い-6) 13768号		一級建築士登録第244870号

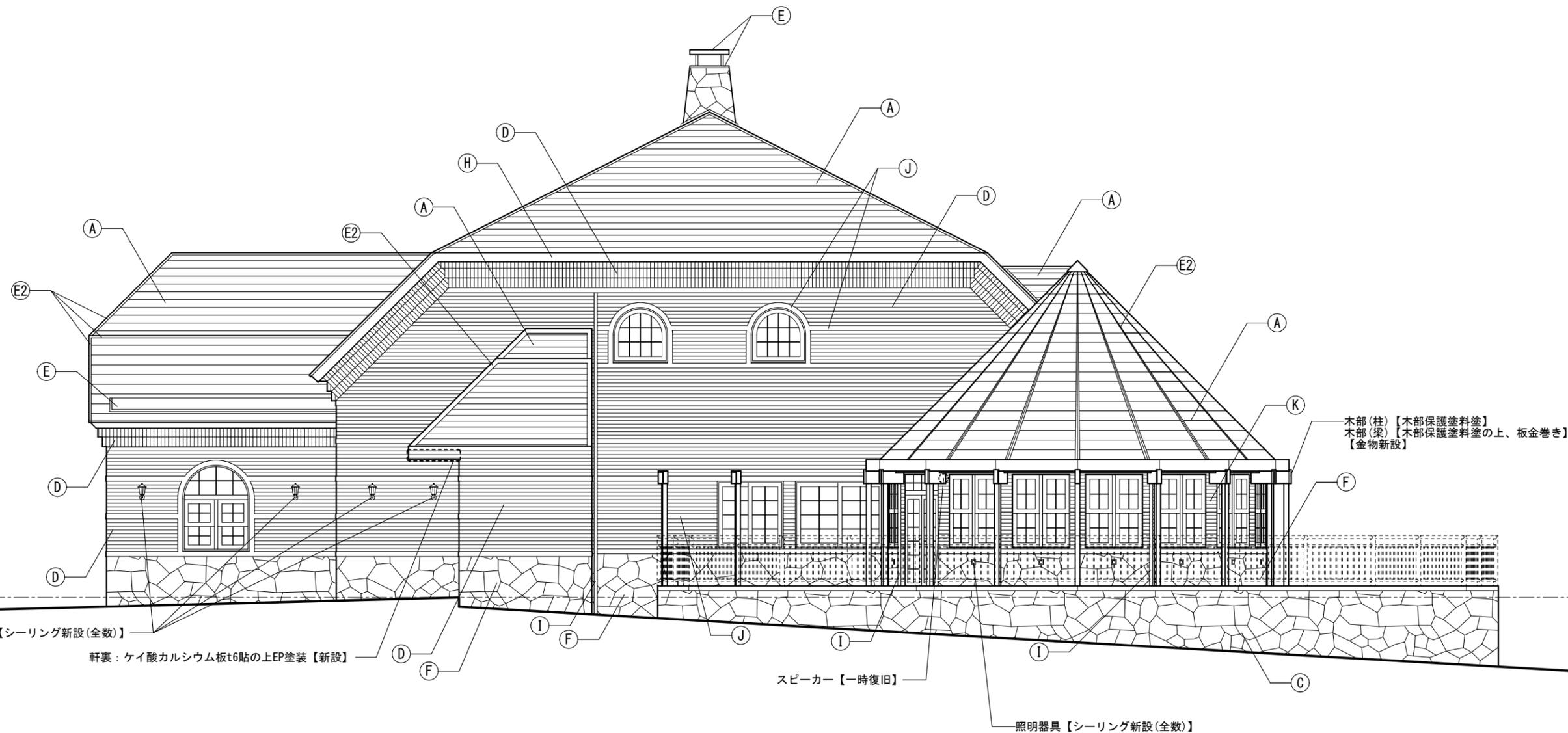


東立面図 S=1/50

外部仕上げ凡例(改修前)			
Ⓐ	ラワン合板(耐水タイプ)t12PBt9.5の上 アスファルトルーフィング下地カラーベストランパート【高圧水洗】	Ⓔ	カラー鉄板t0.8曲げ加工【高圧水洗】
Ⓑ	モルタル刷毛引き【高圧水洗】 【全体的にひび割れ、エフロレッセンス】	Ⓕ	コンクリート下地粘板岩乱貼【高圧水洗】
Ⓒ	コンクリート石貼状型枠打放し【高圧水洗】	Ⓖ	耐水ボード12.5.塗膜防水.メタルラス下地粘板岩乱貼【高圧水洗】
Ⓓ	ブリックタイル貼(セメント系)【高圧水洗】	Ⓗ	米松t25キシラデコール塗【高圧水洗】
		Ⓘ	縦樋塩ビ製VP75φVP【撤去】
		Ⓙ	モルタル金ゴテVP【高圧水洗】 【全体的にひび割れ】
		Ⓚ	レンガタイル(二丁掛)【高圧水洗】

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-20
図面名	東立面図(改修前)	縮尺	1/50(A1原図)
設計	クラ設計株式会社	高倉 康人	
日付	クラ設計株式会社	高倉 康人	
	一級建築士事務所 愛知県(イ-6) 13768号	一級建築士登録第244870号	



木部(柱)【木部保護塗料塗】
木部(梁)【木部保護塗料塗の上、板金巻き】
【金物新設】

照明器具【シーリング新設(全数)】

軒裏：ケイ酸カルシウム板t6貼の上EP塗装【新設】

スピーカー【一時復旧】

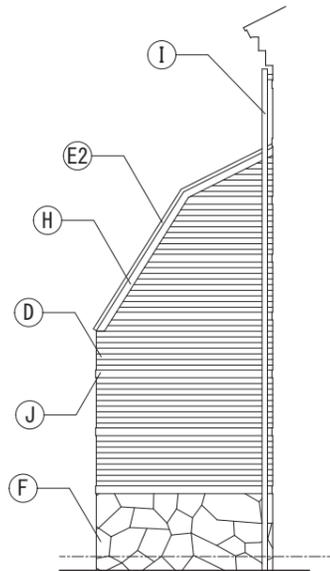
照明器具【シーリング新設(全数)】

東立面図 S=1/50

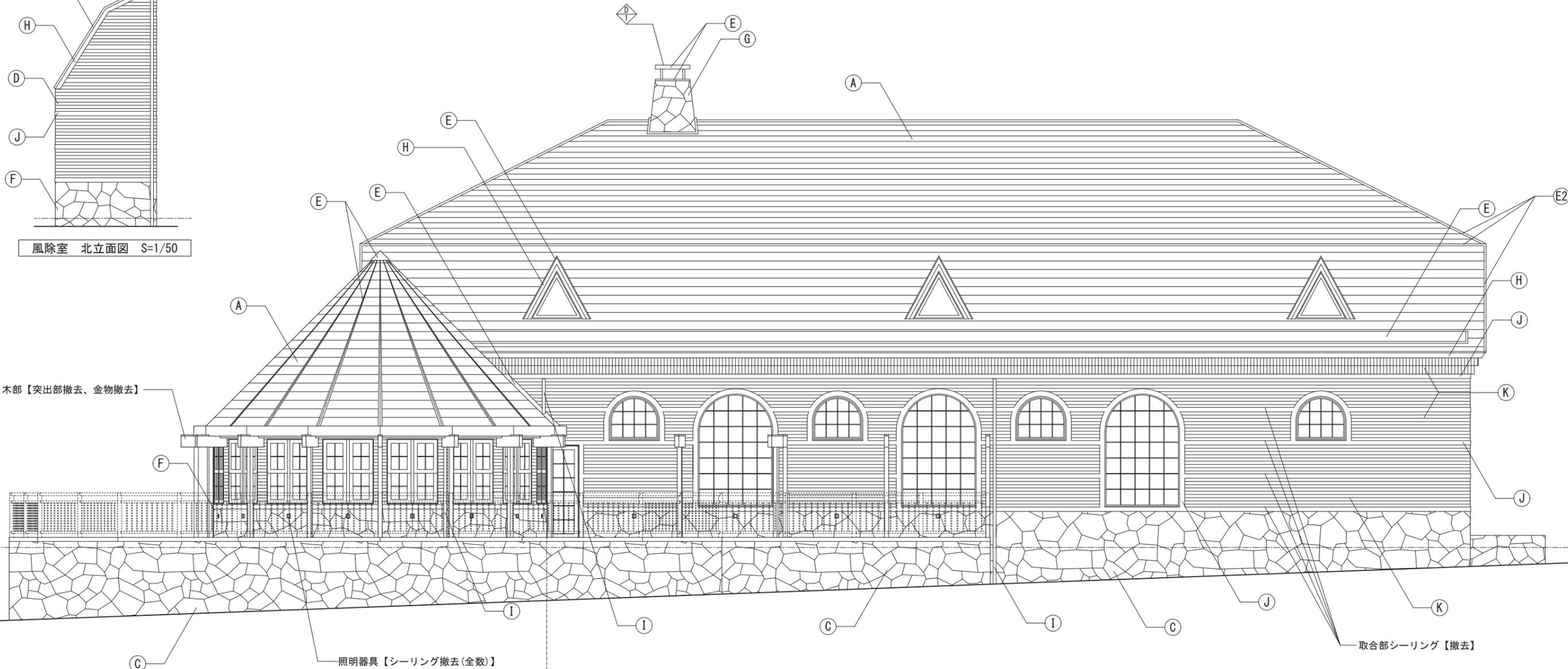
外部仕上げ凡例(改修後)			
Ⓐ	ラワン合板(耐水タイプ)t12PBt9.5の上 アスファルトルーフィング下地カラーベストランパート【既設のまま】 【屋根用弱溶剤系フッ素樹脂塗料塗】	Ⓓ	ブリックタイル貼(セメント系) 【損傷部補修の上、透明樹脂外壁防水吹付】
Ⓑ	モルタル刷毛引き 【既設のまま】	Ⓔ	カラー鉄板t0.8曲げ加工【下地調整の上、DP塗装】 E2)t0.6
Ⓒ	コンクリート石貼状型枠打放し【既設のまま】	Ⓕ	コンクリート下地粘板岩乱貼 【浮き箇所確認の上、アンカーピンニングエポキシ樹脂注入】
		Ⓖ	耐水ボード12.5、塗膜防水、メタルラス下地粘板岩乱貼 【浮き箇所確認の上、アンカーピンニングエポキシ樹脂注入】
		Ⓖ	米松t25キシラデコール塗【下地調整の上、DP塗装】
		Ⓖ	堅樺カラー塩ビ製75φ【新設】
		Ⓖ	モルタル金ゴテVP 【DP塗装】
		Ⓖ	レンガタイル(二丁掛) 【損傷部補修の上、透明樹脂外壁防水吹付】

縮尺はA1版に適合。(A3版→50%縮小)

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-21
図面名	東立面図(改修後)	縮尺	1/50(A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県(い-6)13768号		一級建築士登録第244870号



風除室 北立面図 S=1/50



木部【突出部撤去、金物撤去】

照明器具【シーリング撤去(全数)】

取合部シーリング【撤去】

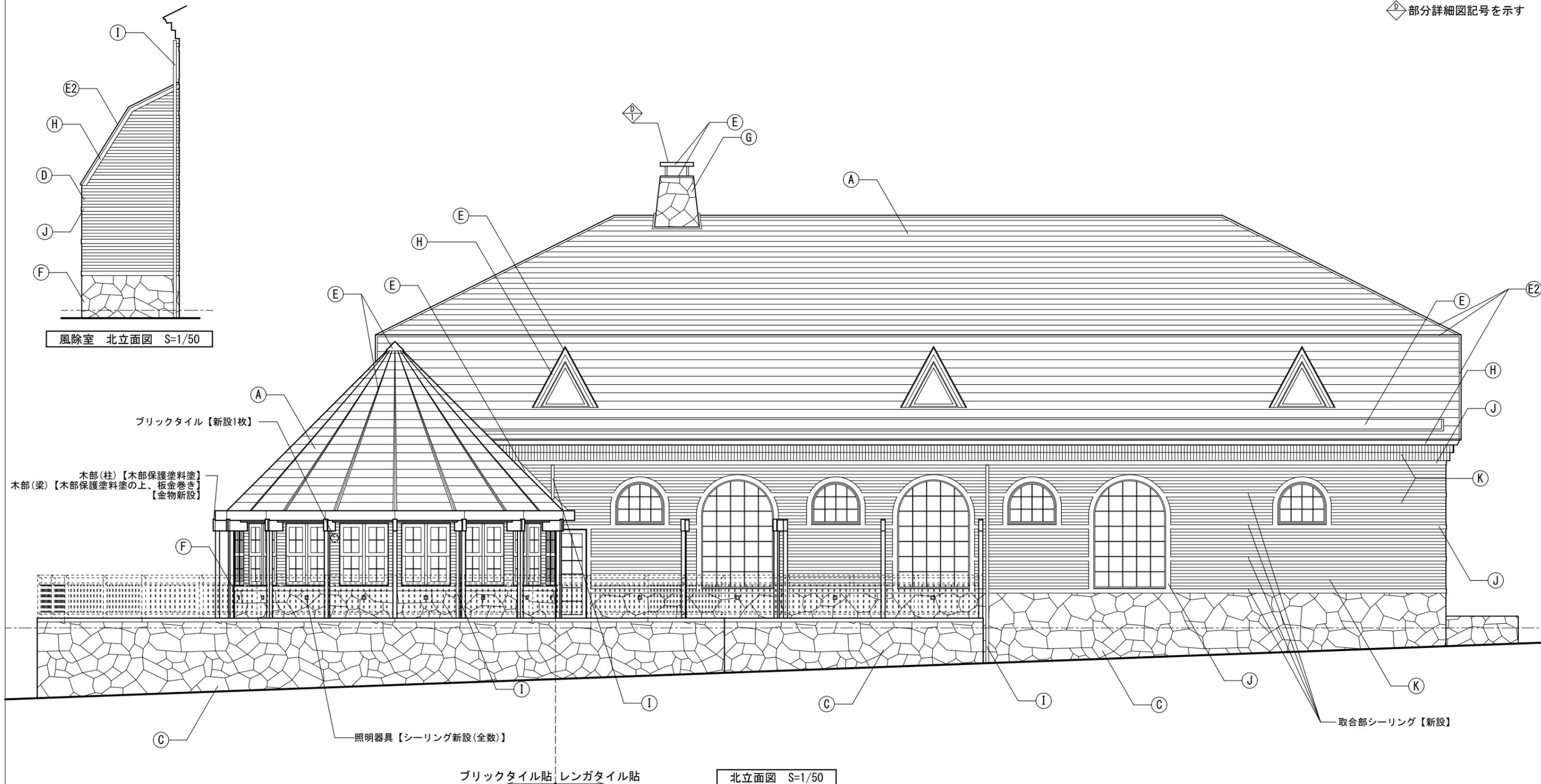
ブリックタイル貼 レンガタイル貼

北立面図 S=1/50

外部仕上げ凡例(改修前)			
Ⓐ	ラワン合板(耐水タイプ)t12PBt9.5の上 アスファルトルーフィング下地カラーベストランパート【高圧水洗】	Ⓔ	カラー鉄板t0.8曲げ加工【高圧水洗】 Ⓔ2 t0.6
Ⓑ	モルタル刷毛引き【高圧水洗】 【全体的にひび割れ、エフロレッセンス】	Ⓕ	コンクリート下地粘板岩乱貼【高圧水洗】
Ⓒ	コンクリート石貼状型枠打放し【高圧水洗】	Ⓖ	耐水ボード12.5、塗膜防水、メタルラス下地粘板岩乱貼【高圧水洗】
Ⓓ	ブリックタイル貼(セメント系)【高圧水洗】	Ⓗ	米松t25キシラデコール塗【高圧水洗】
		Ⓘ	縦樋塩ビ製VP75φVP【撤去】
		Ⓙ	モルタル金ゴテVP【高圧水洗】 【全体的にひび割れ】
		Ⓚ	レンガタイル(二丁掛)【高圧水洗】

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

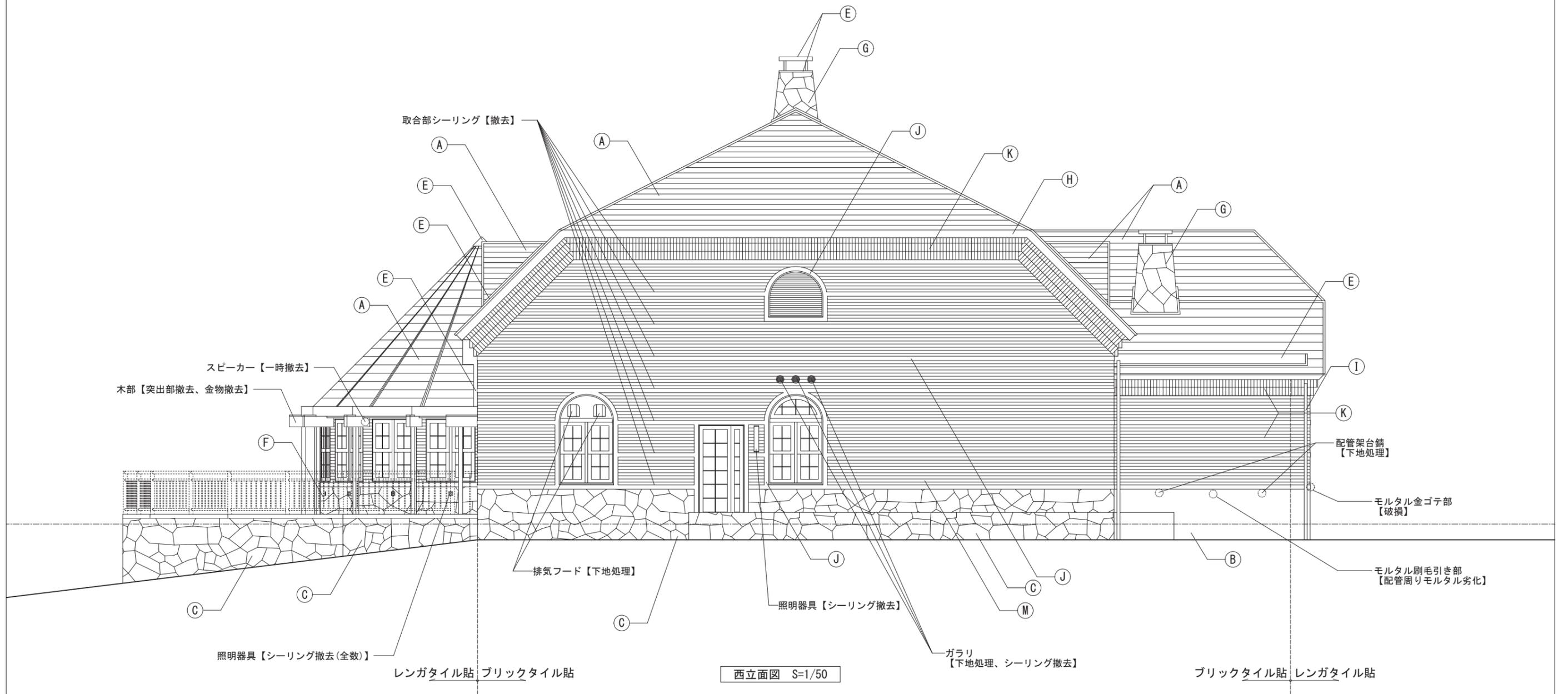
工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-22
図面名	北立面図(改修前)	縮尺	1/50(A1原図)
設計	クラ設計株式会社	高倉 康人	
日付	クラ設計株式会社	高倉 康人	
	一級建築士事務所 愛知県(い-6) 13768号	一級建築士登録第244870号	



外部仕上げ凡例(改修後)			
Ⓐ	ラワン合板(耐水タイプ)t12PBt9.5の上 アスファルトルーフィング下地カラーベストランパート【既設のまま】 【屋根用弱溶剤系フッ素樹脂塗料塗】	Ⓓ	ブリックタイル貼(セメント系) 【損傷部補修の上、透明樹脂外壁防水吹付】
Ⓑ	モルタル刷毛引き 【既設のまま】	Ⓔ	カラー鉄板t0.8曲げ加工【下地調整の上、DP塗装】 Ⓔ2)t0.6
Ⓒ	コンクリート石貼状型枠打放し【既設のまま】	Ⓕ	コンクリート下地粘板岩乱貼 【浮き箇所確認の上、アンカーピンニングエポキシ樹脂注入】
		Ⓖ	耐水ボード12.5、塗膜防水、メタルラス下地粘板岩乱貼 【浮き箇所確認の上、アンカーピンニングエポキシ樹脂注入】
		Ⓖ	米松t25キシラデコール塗【下地調整の上、DP塗装】
		Ⓖ	縦樋カラー塩ビ製75φ【新設】
		Ⓖ	モルタル金ゴテVP 【DP塗装】
		Ⓖ	レンガタイル(二丁掛) 【損傷部補修の上、透明樹脂外壁防水吹付】

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

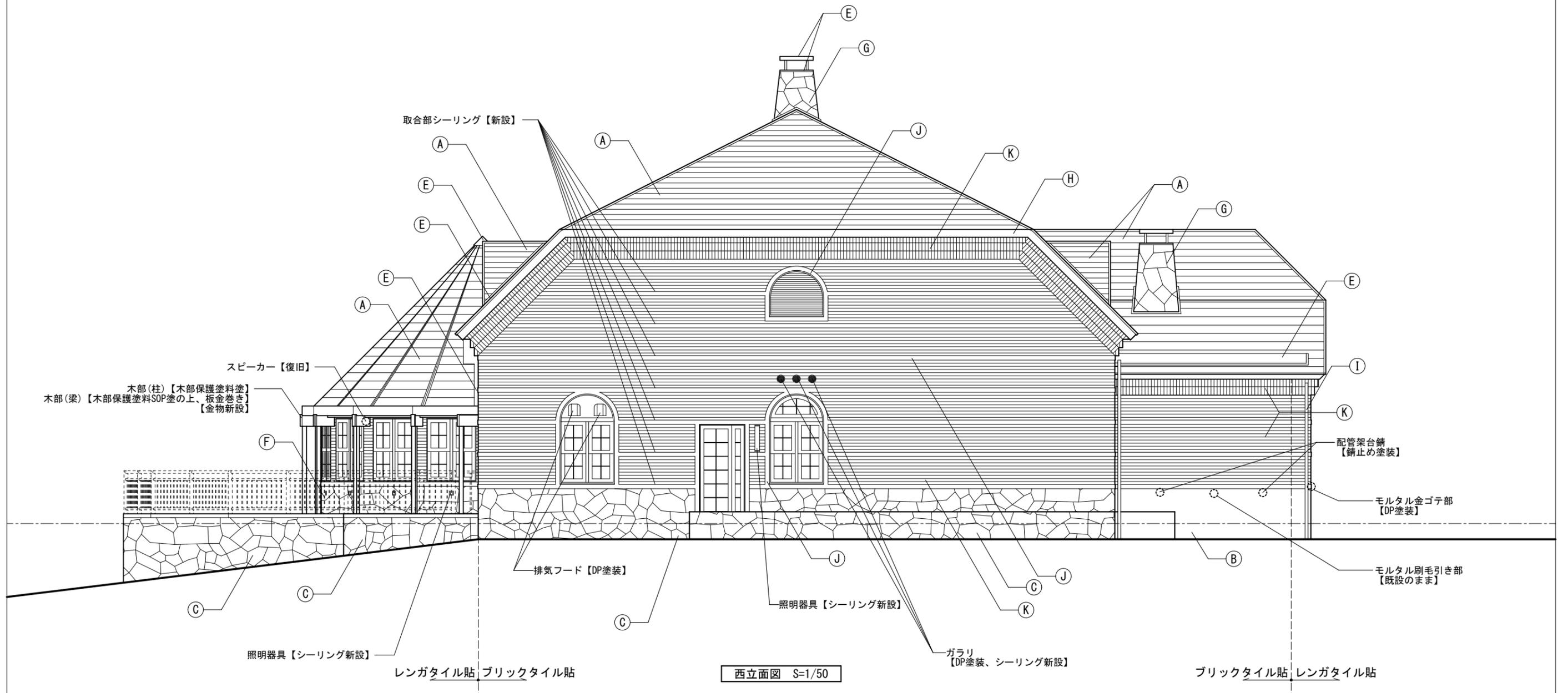
工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-23
図面名	北立面図(改修後)	縮尺	1/50(A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県(い-6)13768号		一級建築士登録第244870号



外部仕上げ凡例(改修前)			
Ⓐ	ラワン合板(耐水タイプ)t12PBt9.5の上 アスファルトルーフィング下地カラーベストランパート【高圧水洗】	Ⓔ	カラー鉄板t0.8曲げ加工【高圧水洗】 ②t0.6
Ⓑ	モルタル刷毛引き【高圧水洗】 【全体的にひび割れ、エフロレッセンス】	Ⓕ	コンクリート下地粘板岩乱貼【高圧水洗】
Ⓒ	コンクリート石貼状型枠打放し【高圧水洗】	Ⓖ	耐水ボード12.5、塗膜防水、メタルラス下地粘板岩乱貼【高圧水洗】
Ⓓ	ブリックタイル貼(セメント系)【高圧水洗】	Ⓗ	米松t25キシラデコール塗【高圧水洗】

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

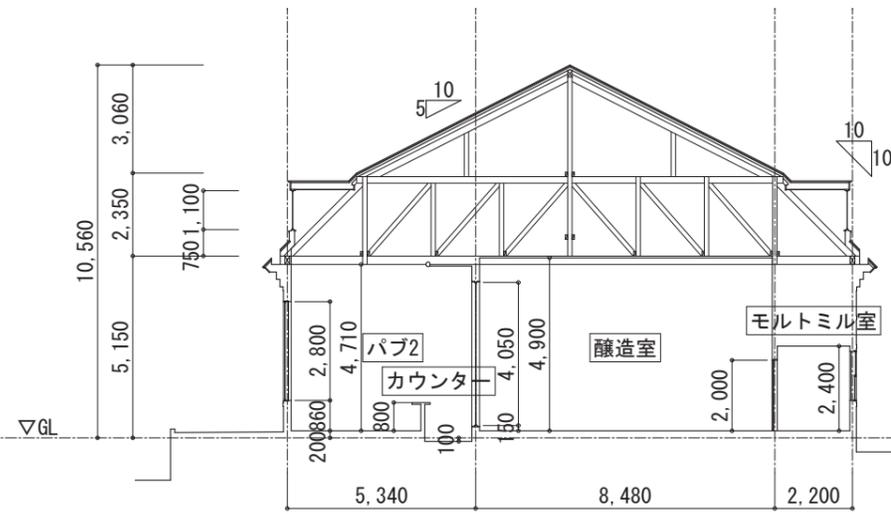
工事名	地ビール工房保全改修工事		図面番号	A-24
図面名	西立面図(改修前)	縮尺	1/50(A1原図)	設計
日付	クラ設計株式会社		高倉 康人	
	一級建築士事務所 愛知県(イ-6)13768号		一級建築士登録第244870号	



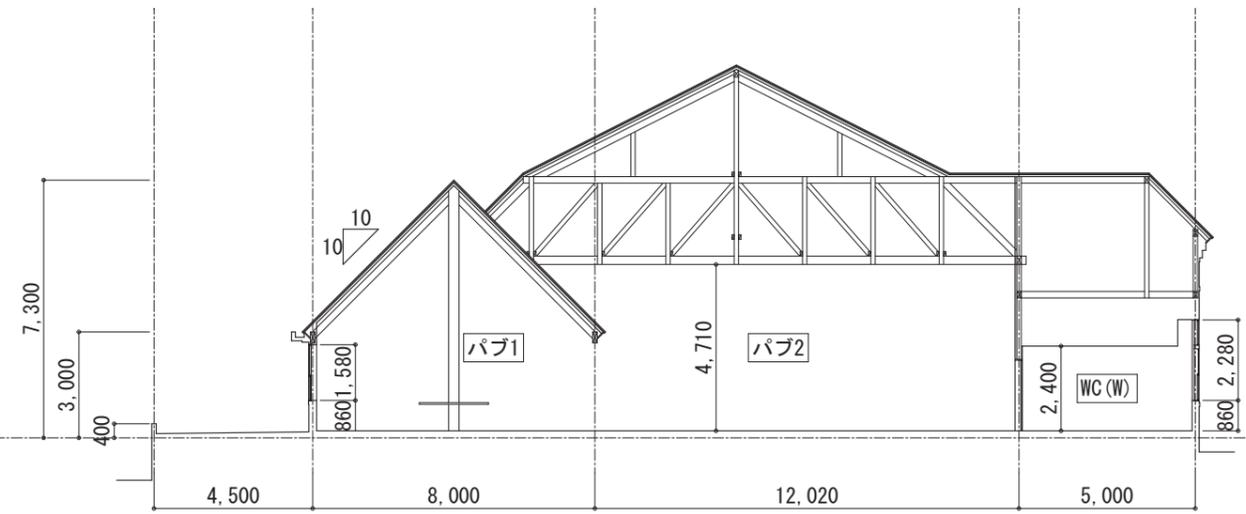
外部仕上げ凡例(改修後)			
①	ラワン合板(耐水タイプ)t12PBt9.5の上 アスファルトルーフィング下地カラーベストランパート【既設のまま】 【屋根用弱溶剤系フッ素樹脂塗料塗】	④	ブリックタイル貼(セメント系) 【損傷部補修の上、透明樹脂外壁防水吹付】
②	モルタル刷毛引き 【既設のまま】	⑤	カラー鉄板t0.8曲げ加工【下地調整の上、DP塗装】 ②t0.6
③	コンクリート石貼状型枠打放し【既設のまま】	⑥	コンクリート下地粘板岩乱貼 【浮き箇所確認の上、アンカーピンニングエポキシ樹脂注入】
		⑦	耐水ボード12.5、塗膜防水、メタルラス下地粘板岩乱貼 【浮き箇所確認の上、アンカーピンニングエポキシ樹脂注入】
		⑧	米松t25キシラデコール塗【下地調整の上、DP塗装】
		⑨	縦樋カラー塩ビ製75φ【新設】
		⑩	モルタル金ゴテVP 【DP塗装】
		⑪	レンガタイル(二丁掛) 【損傷部補修の上、透明樹脂外壁防水吹付】

縮尺はA1版に適合。(A3版→50%縮小)

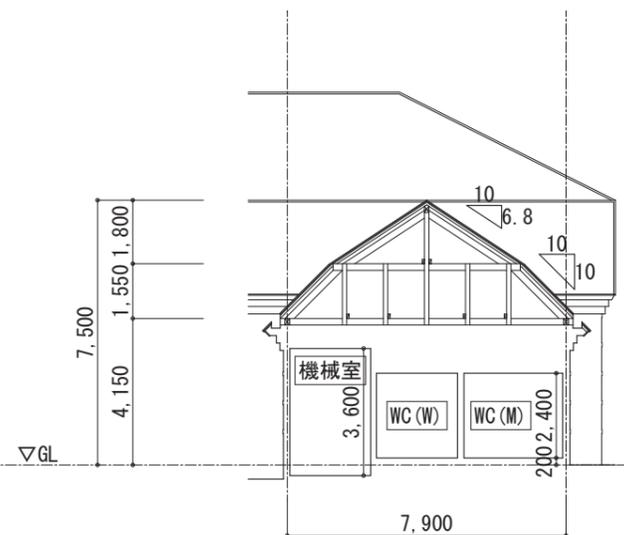
工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-25
図面名	西立面図(改修後)	縮尺	1/50(A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県(い-6)13768号		一級建築士登録第244870号



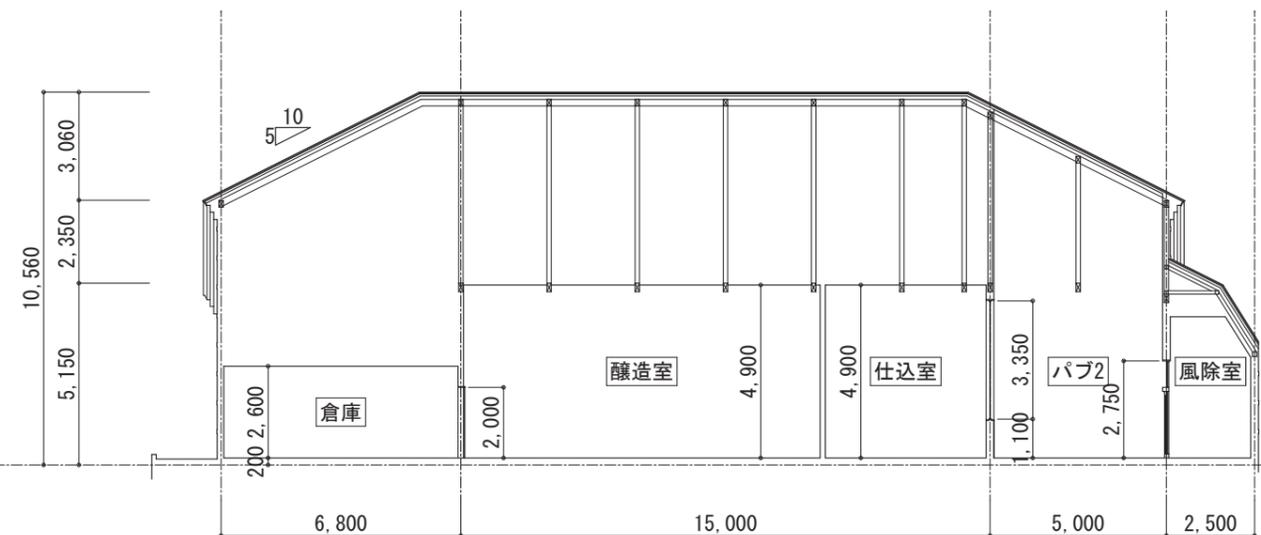
断面図1 S=1/100



断面図2 S=1/100



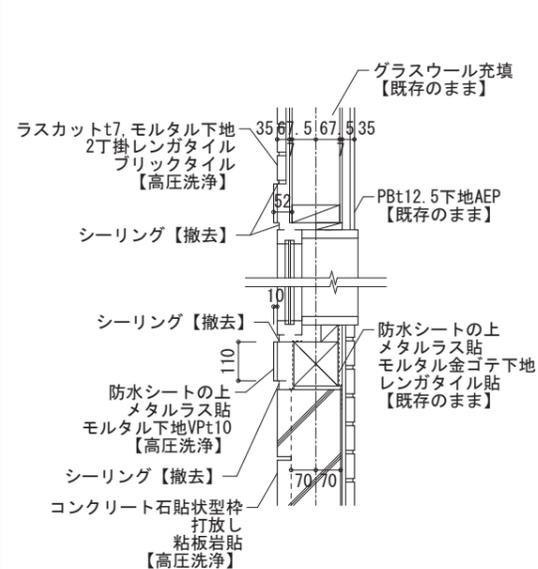
断面図3 S=1/100



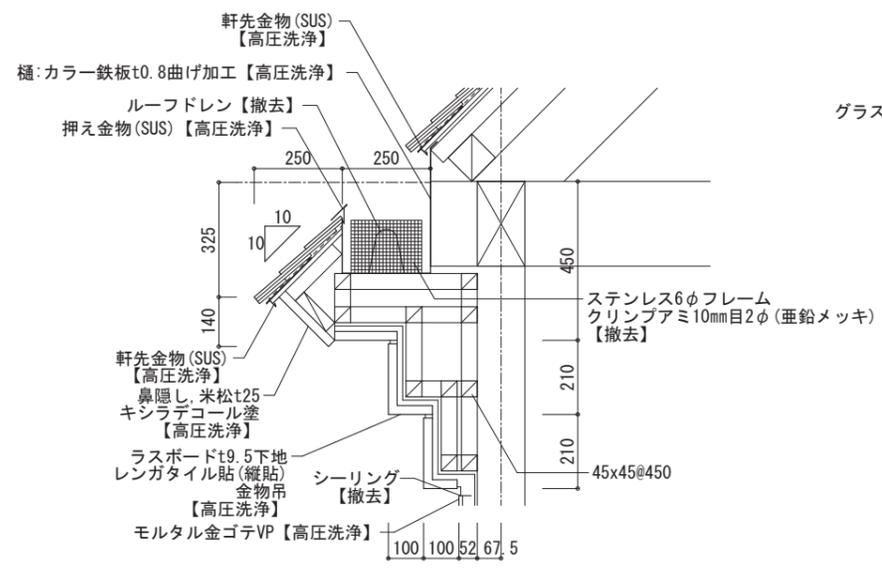
断面図4 S=1/100

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

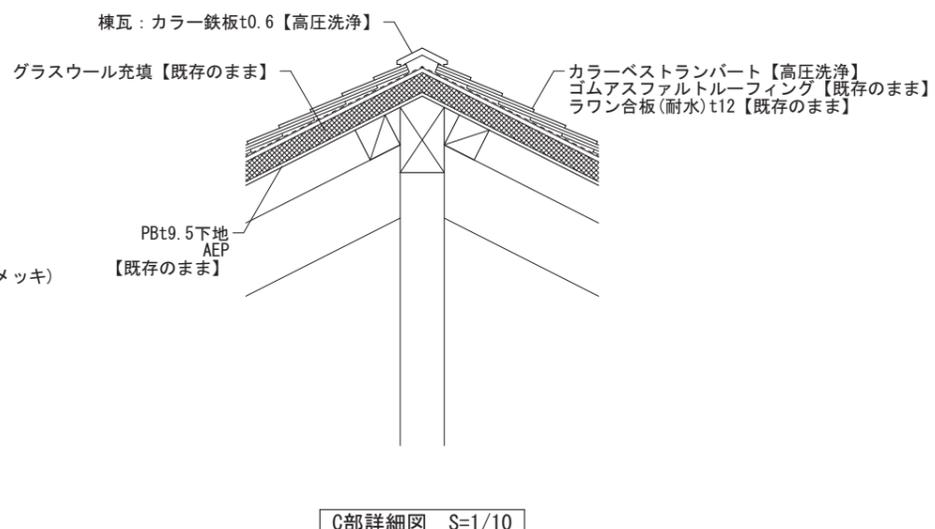
工事名		地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-26
図面名		断面図	縮尺	1/100 (A1原図)
設計		クラ設計株式会社	高倉 康人	
日付		一級建築士事務所 愛知県 (イ-6) 13768号	一級建築士登録第244870号	



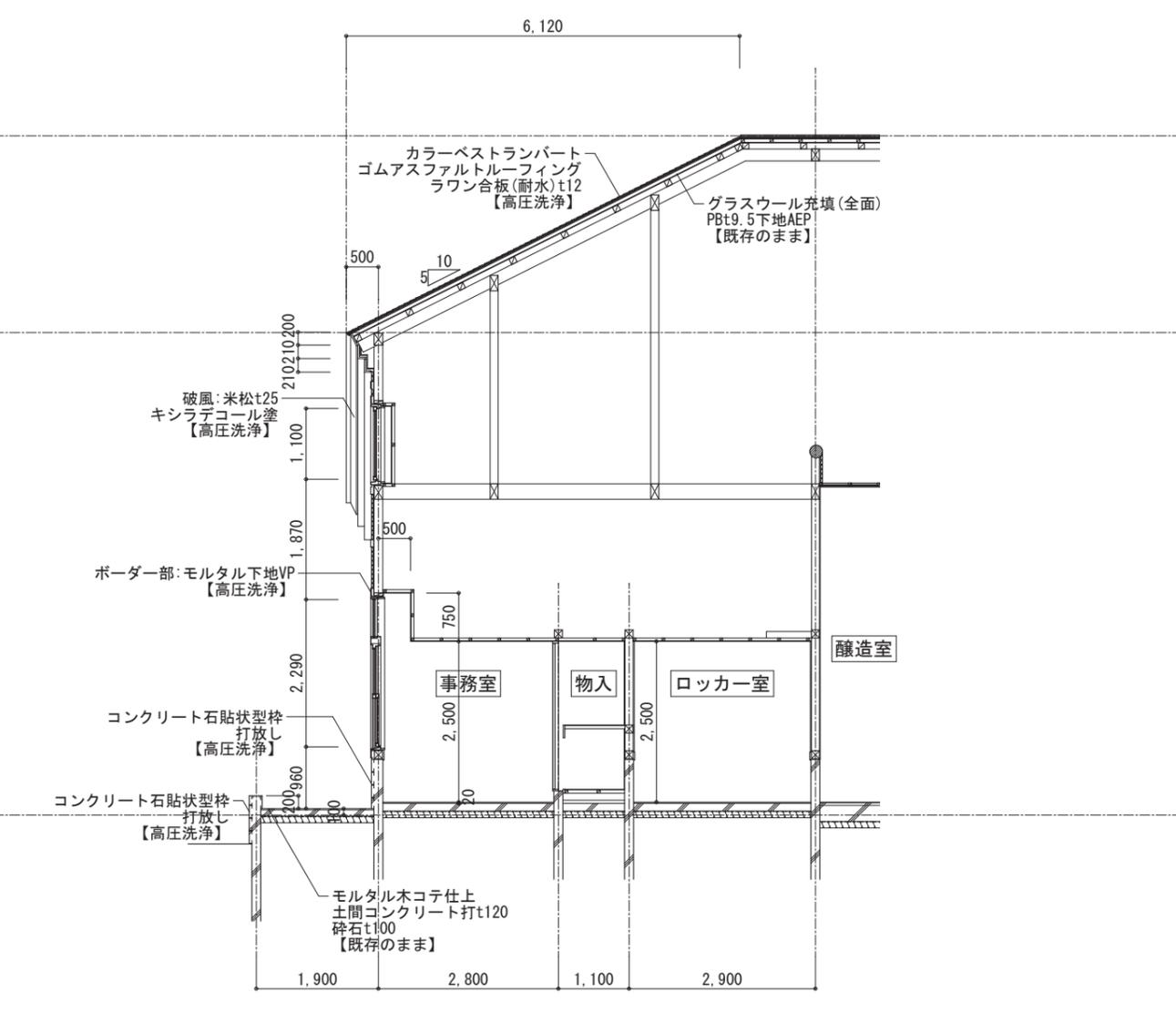
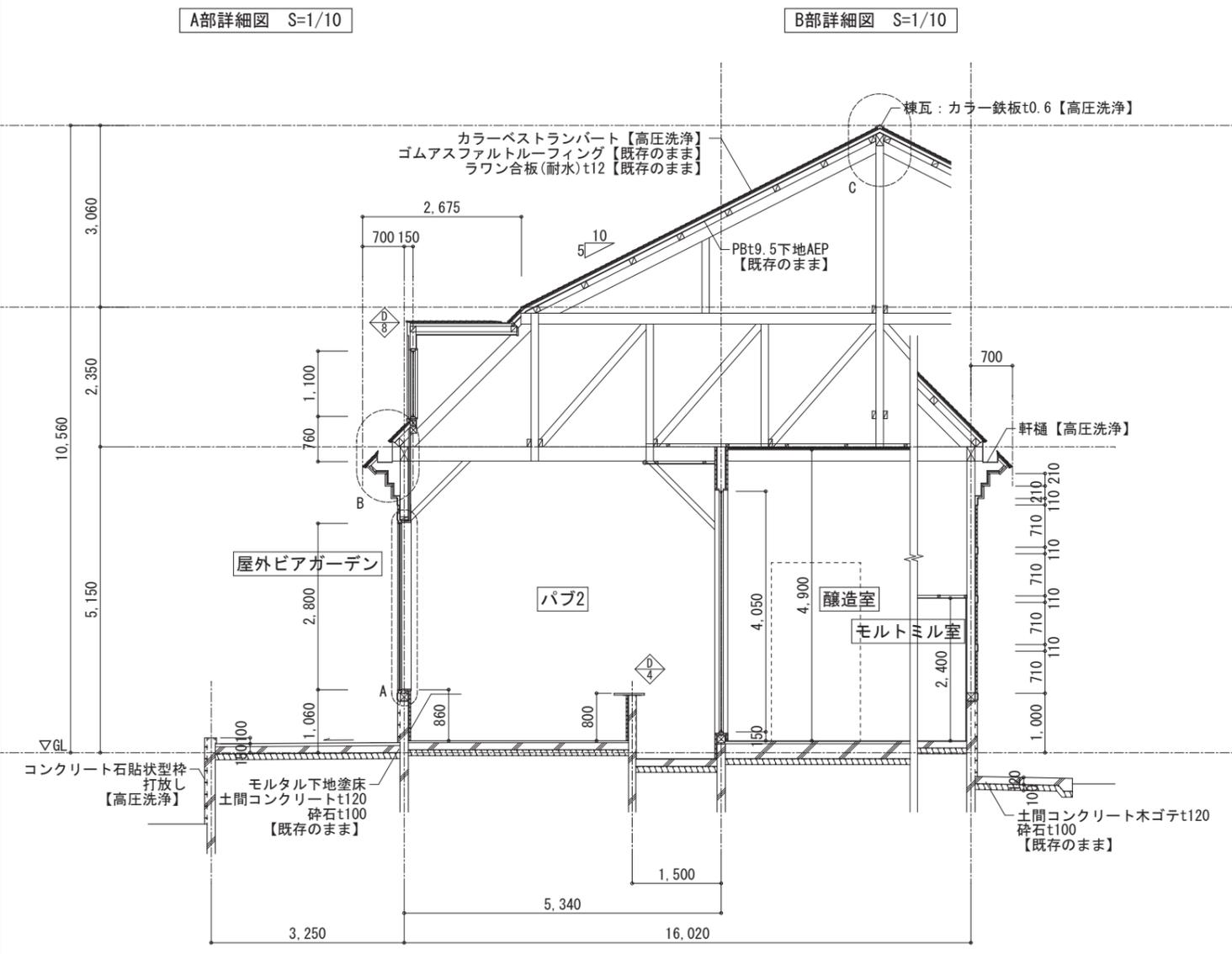
A部詳細図 S=1/10



B部詳細図 S=1/10

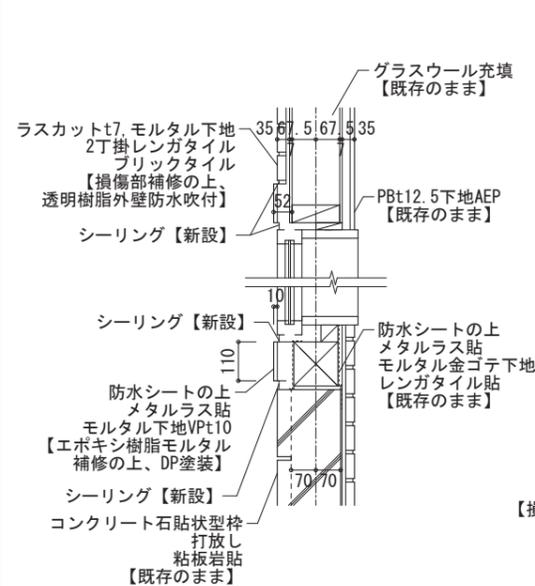


C部詳細図 S=1/10

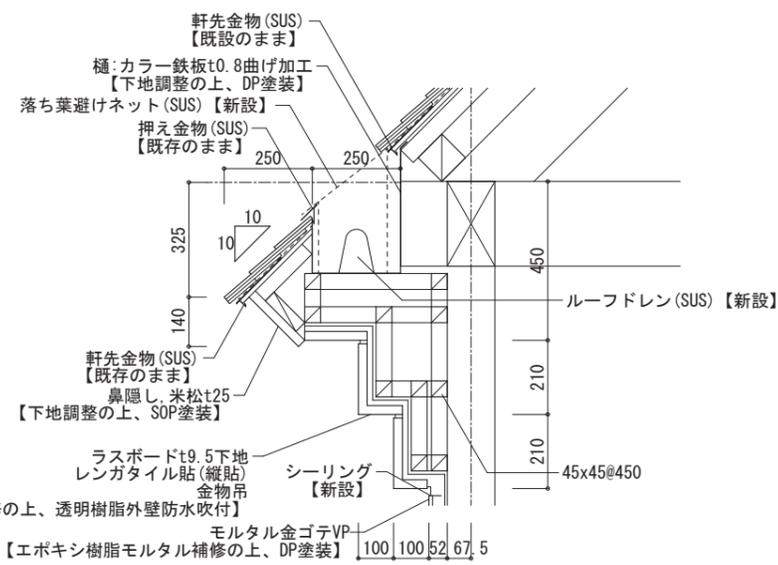


縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

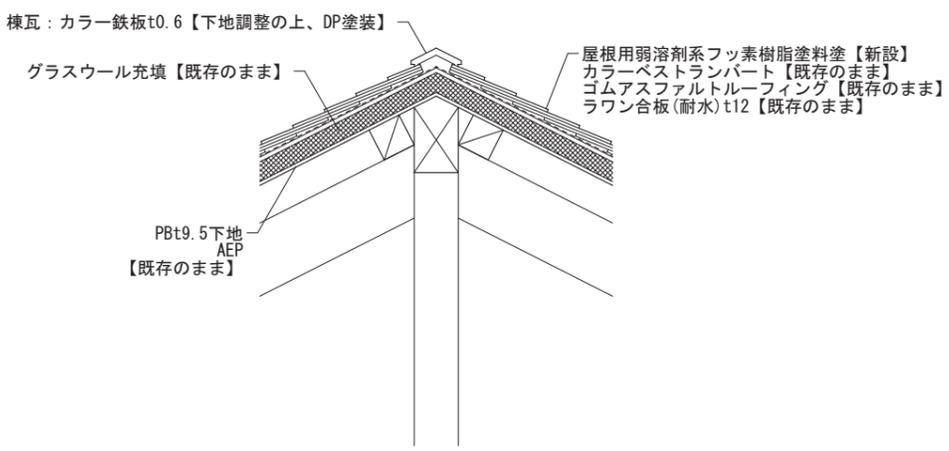
工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-27
図面名	矩計図1 (改修前)	縮尺	1/50 (A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県 (い-6) 13768号		一級建築士登録第244670号



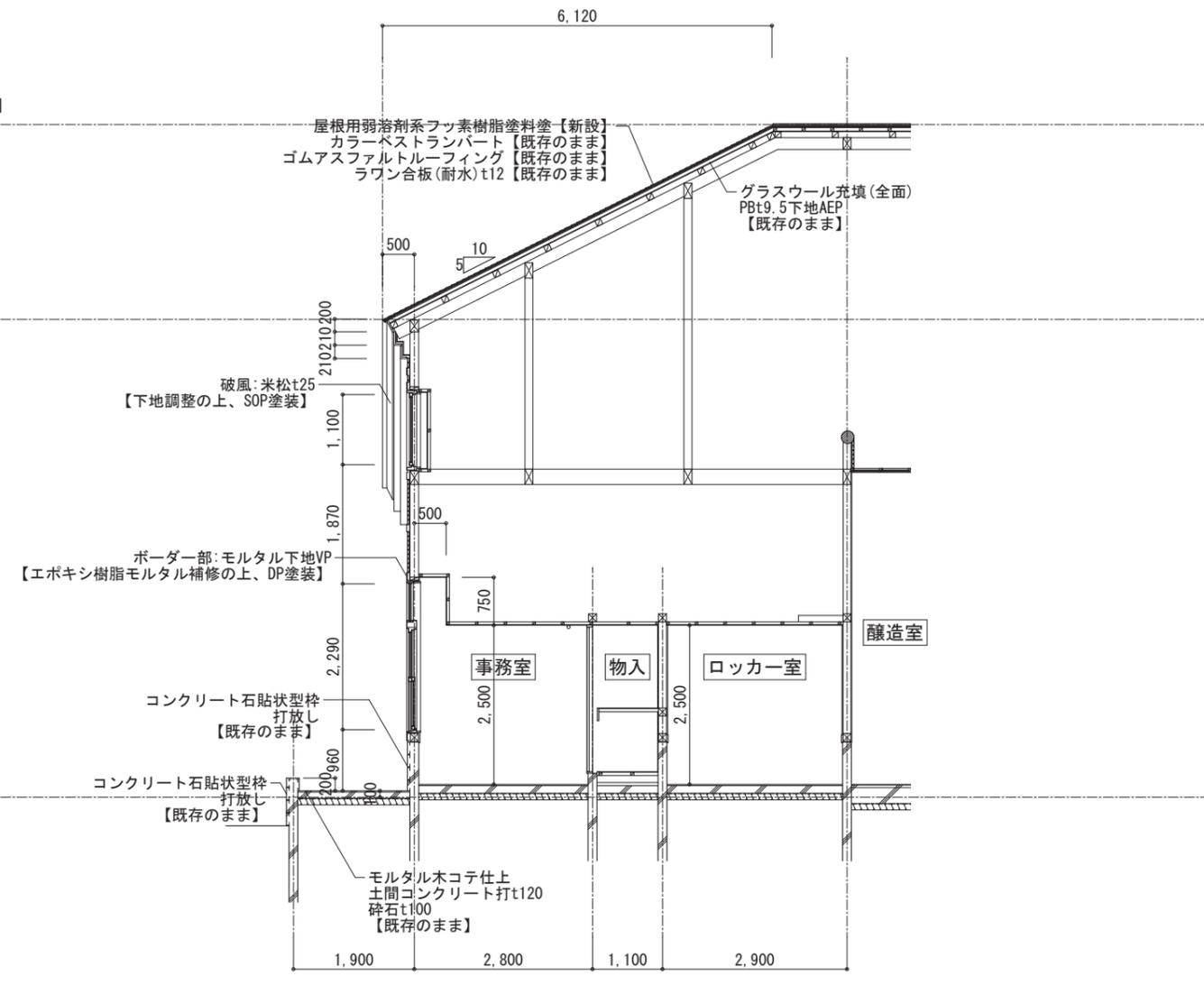
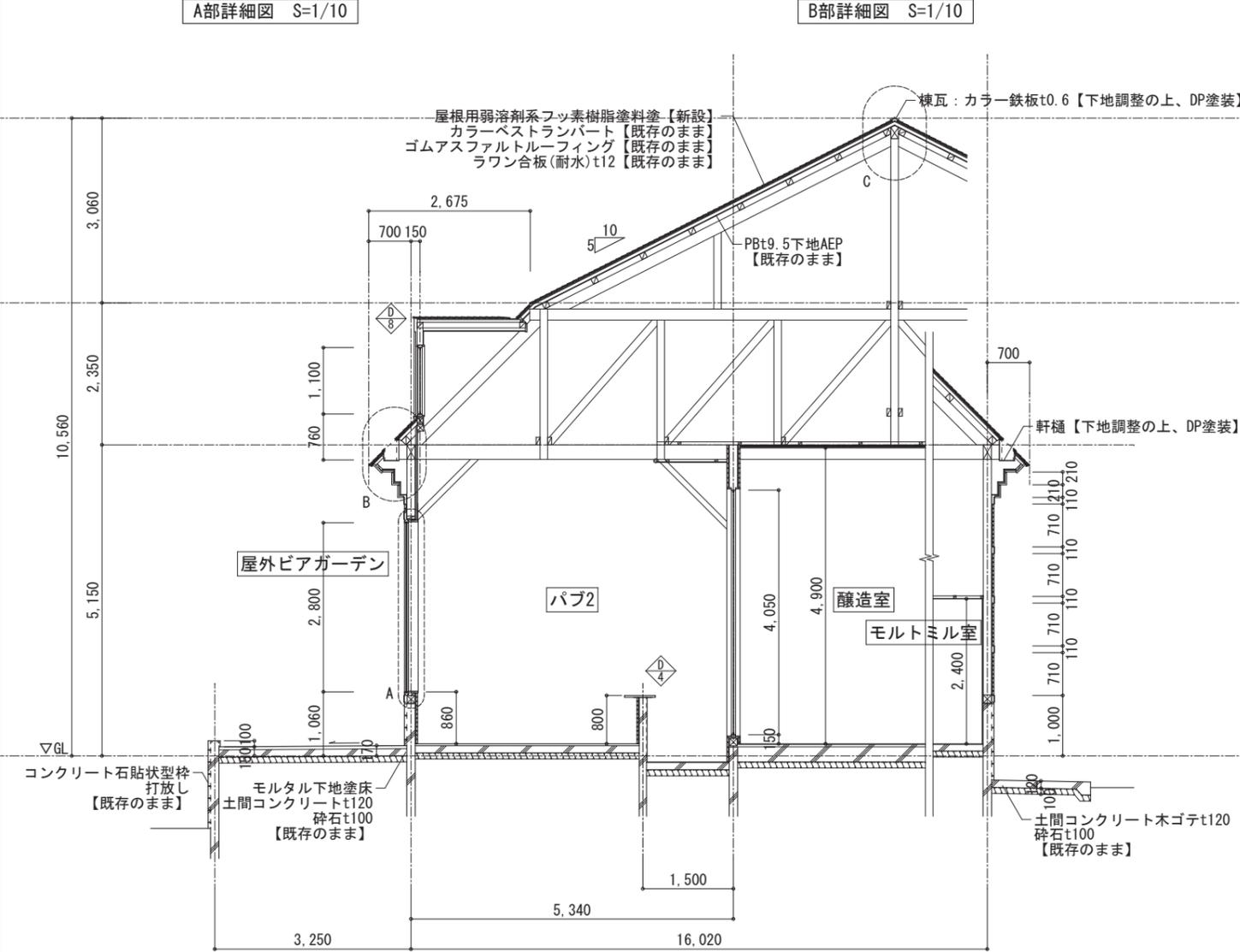
A部詳細図 S=1/10



B部詳細図 S=1/10

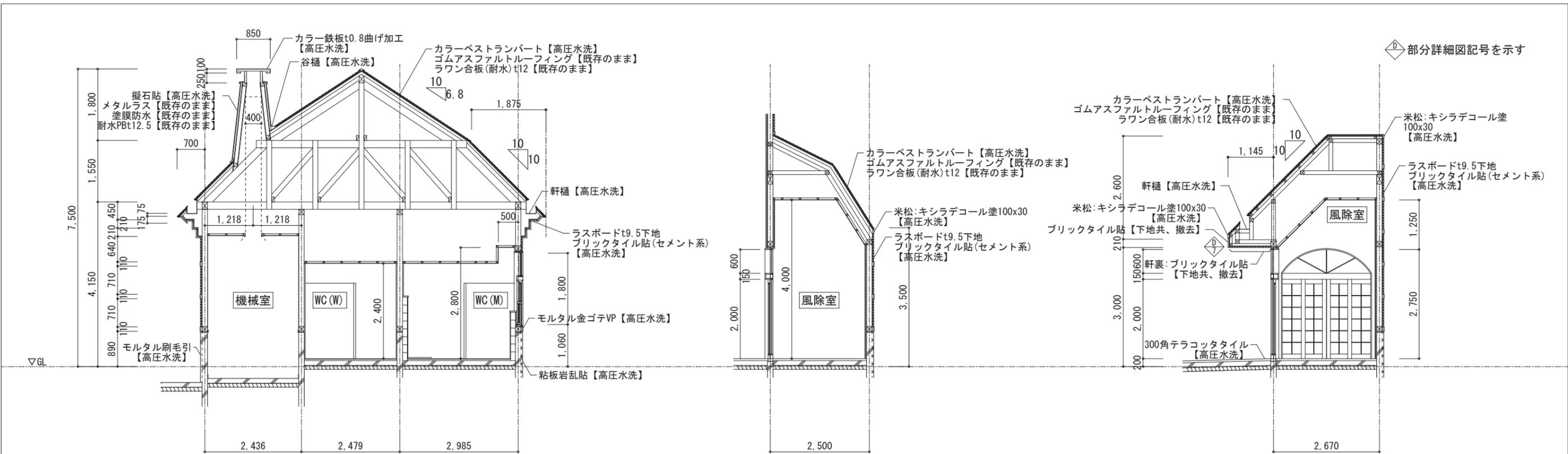


C部詳細図 S=1/10

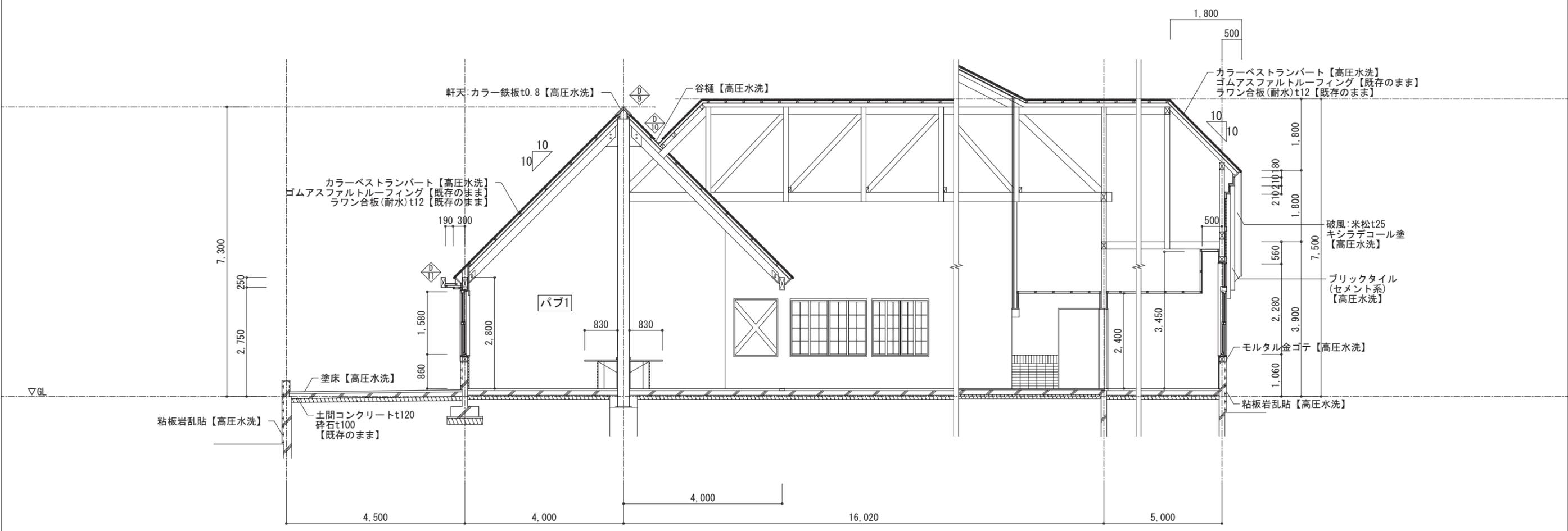


縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-28
図面名	矩計図1(改修後)	縮尺	1/50(A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県 (い-6) 13768号		一級建築士登録第244670号



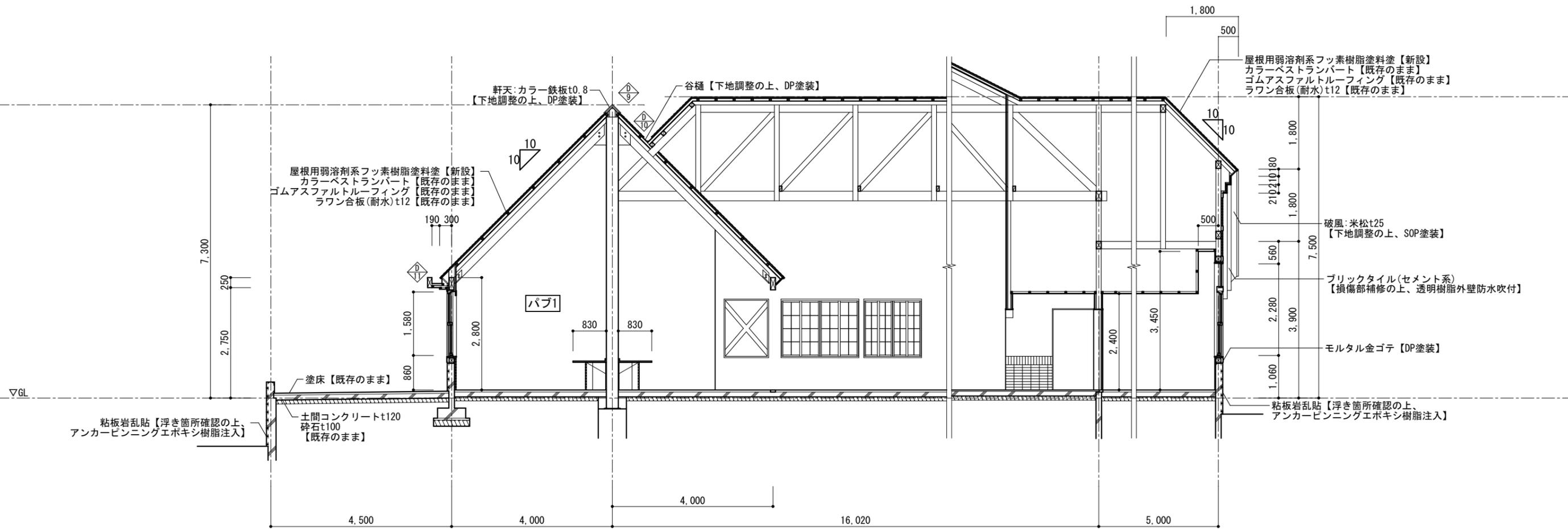
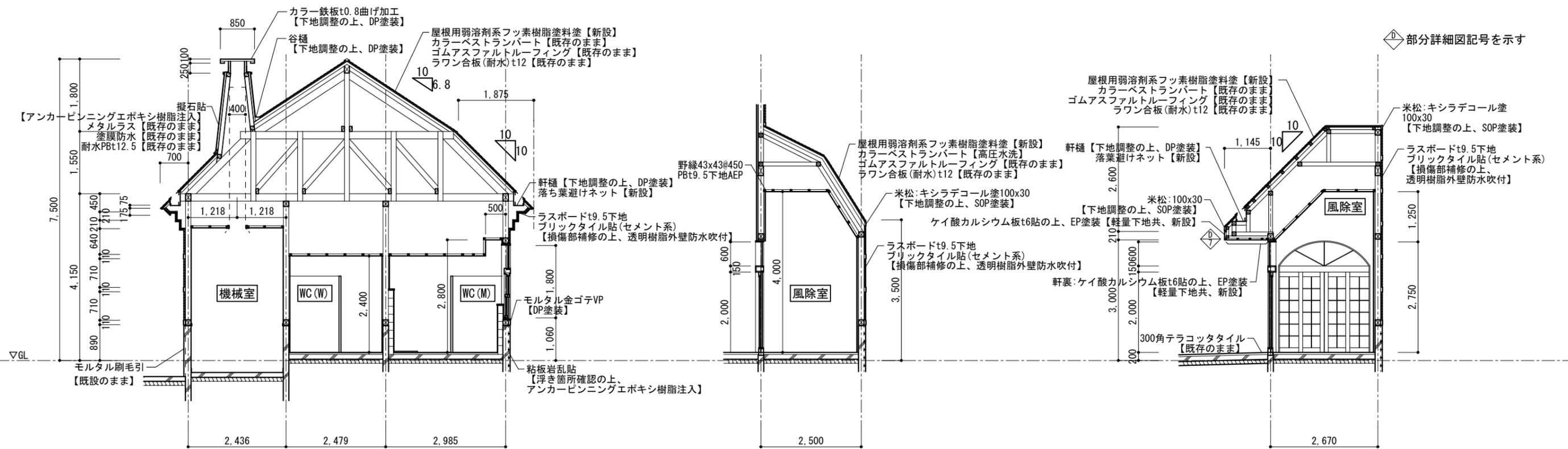
部分詳細図記号を示す



縮尺はA1版に適応 (A3版→50%縮小)

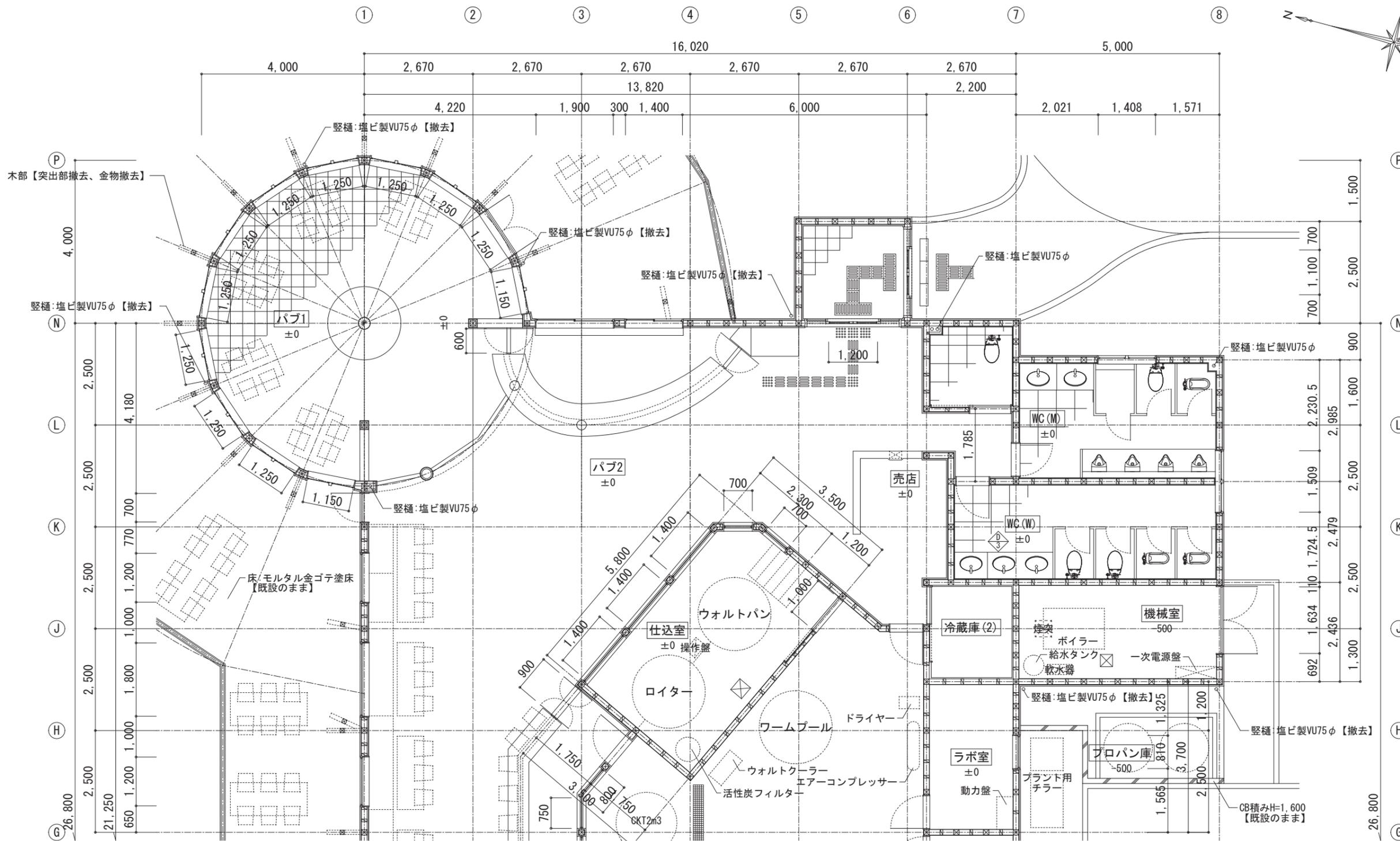
工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-29
図面名	矩計図2(改修前)	縮尺	1/50(A1原図)
設計	クラ設計株式会社	高倉 康人	
日付	クラ設計株式会社	高倉 康人	
	一級建築士事務所 愛知県(い-6) 13768号	一級建築士登録第244870号	

部分詳細図記号を示す



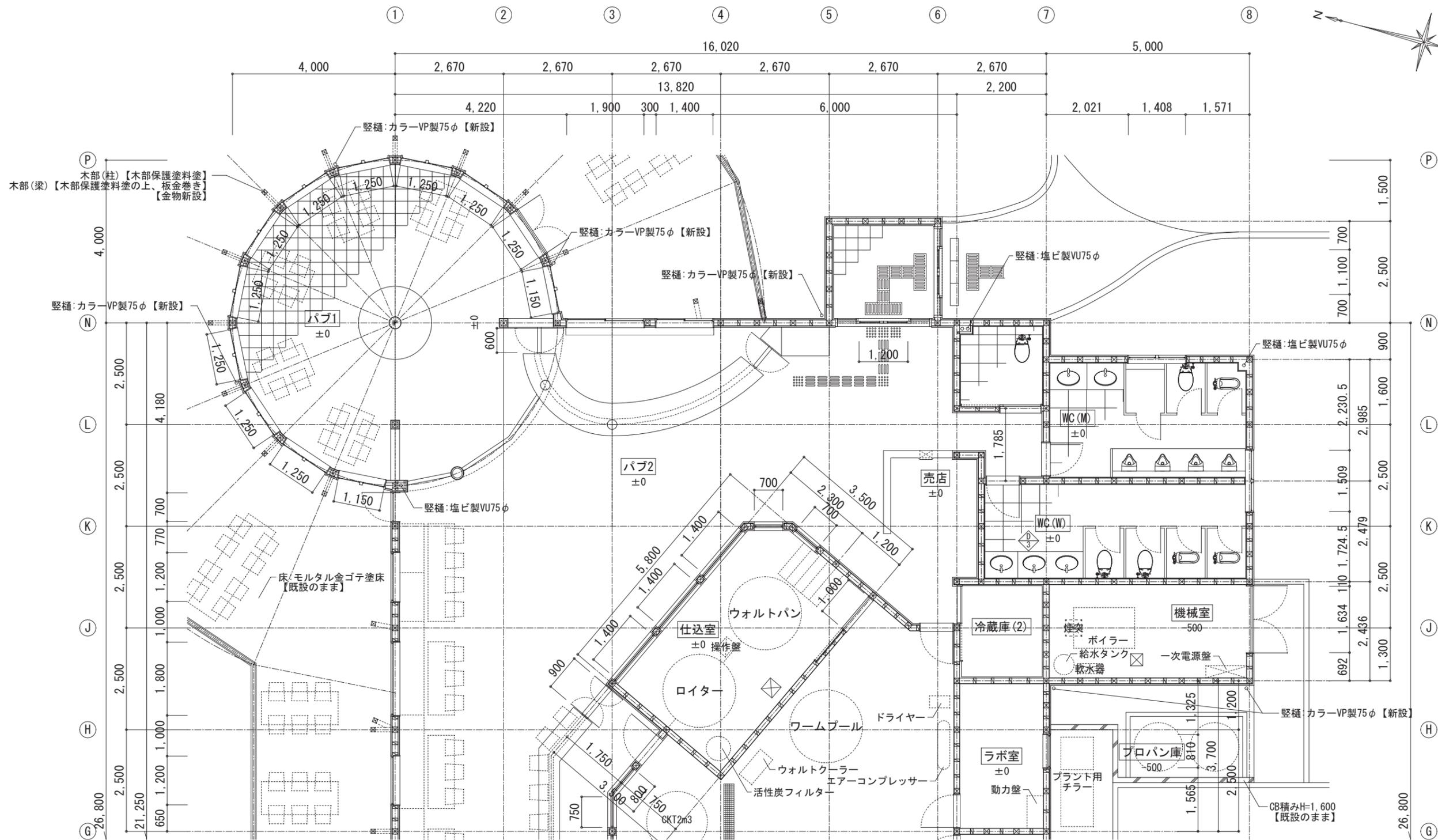
縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-30
図面名	矩計図2(改修後)	縮尺	1/50 (A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 奥和県 (い-6) 13768号		一級建築士登録第244870号



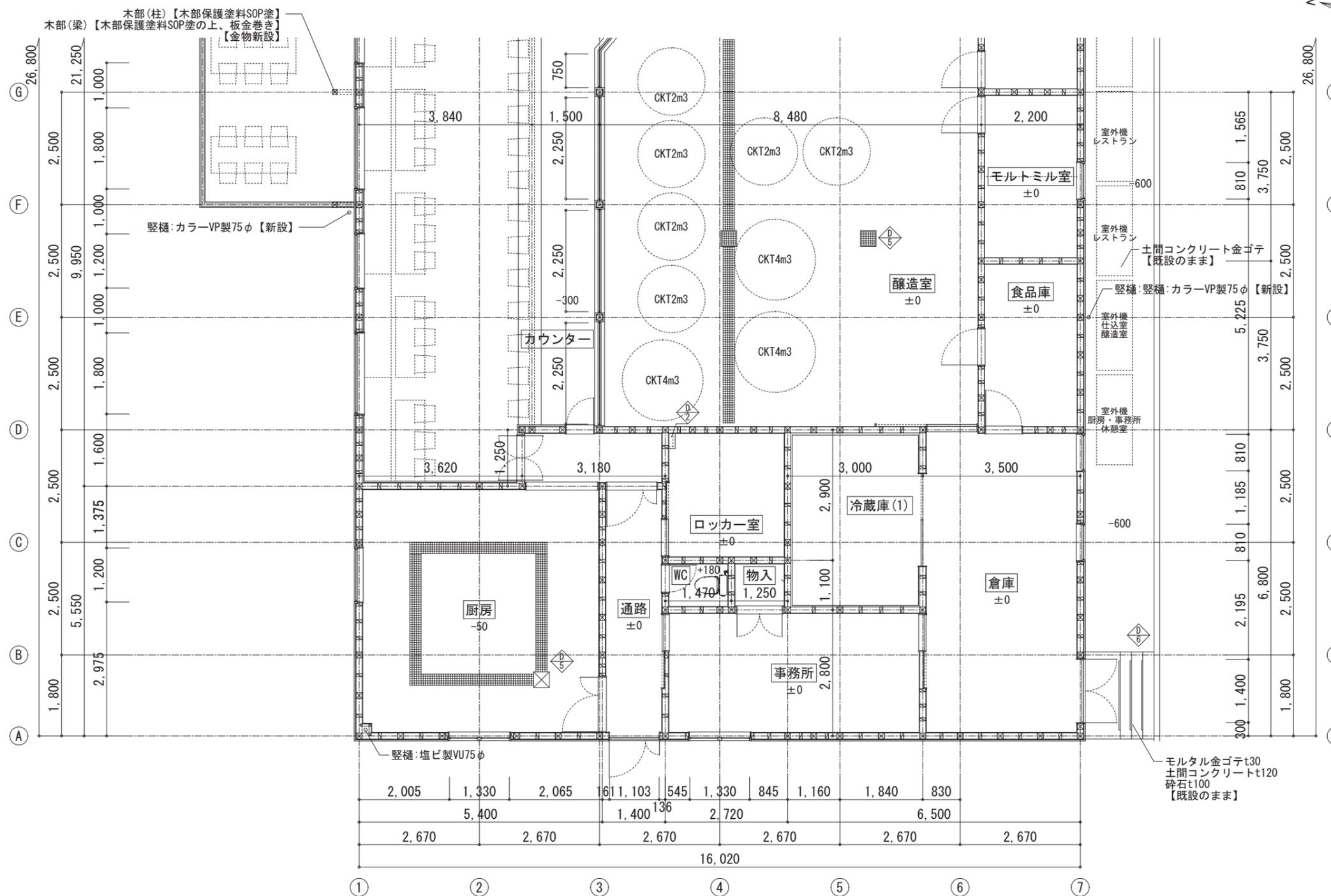
縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名		地ビール工房保全改修工事		図面番号	
図面名		平面詳細図1(改修前)		A-31	
日付		クラ設計株式会社		設計	
		高倉 康人		縮尺	
		一級建築士事務所 愛知県 (イ-6) 13768号		1/50 (A1原図)	
		一級建築士登録第244870号		図面	

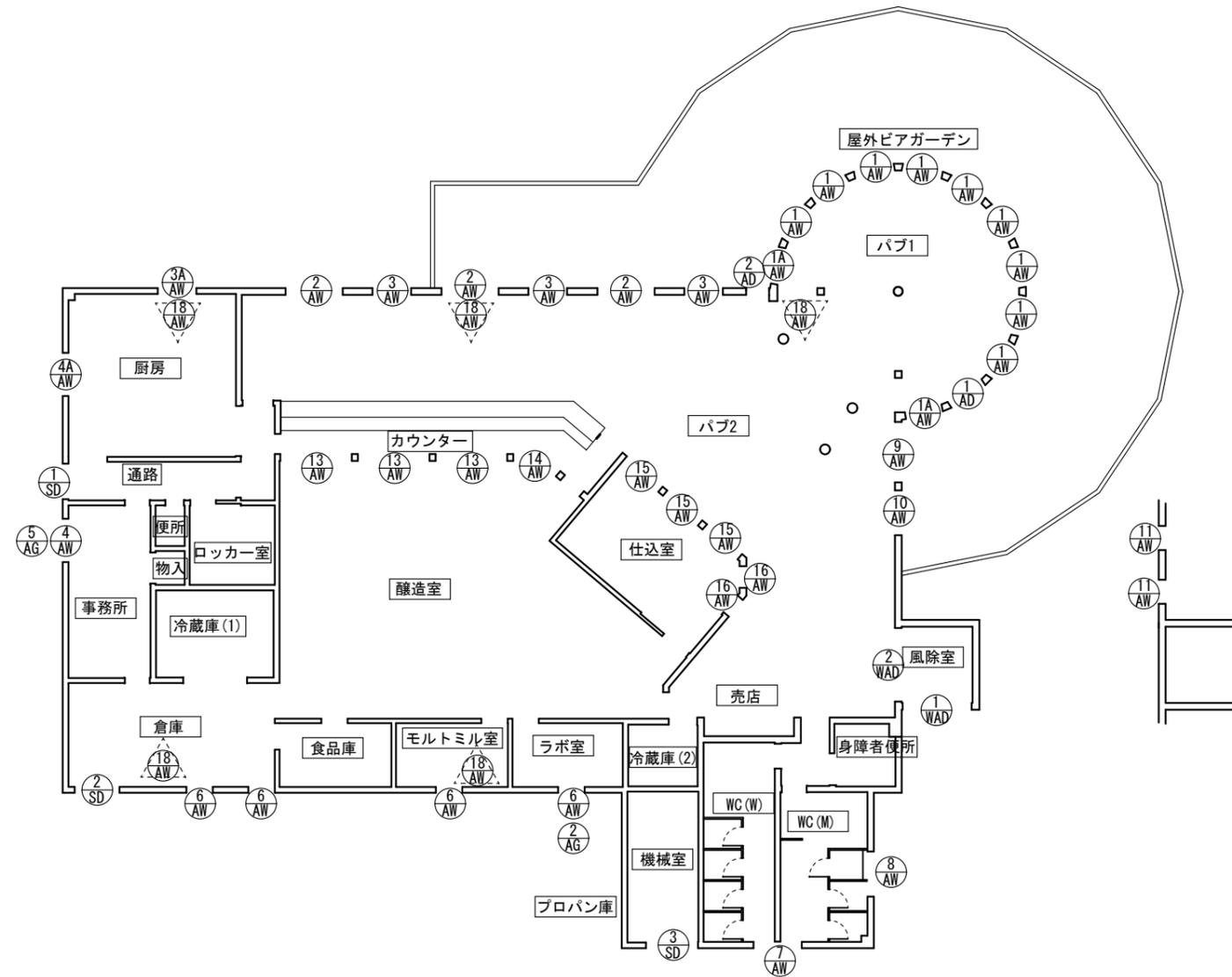


縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-32
図面名	平面詳細図1(改修後)	縮尺	1/50(A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県 (い-6) 13768号		一級建築士登録第244870号



工事名		地ビール工房保全改修工事		図面番号	
図面名		平面詳細図2(改修後)		A-34	
日付		クラ設計株式会社		設計	
		高倉 康人			
		一級建築士事務所 愛知県 (い-6) 13768号		一級建築士登録第244870号	



建具キープラン S=1/100

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名		地ビール工房保全改修工事		図面番号	
図面名		建具キープラン		A-35	
日付		クラ設計株式会社		設計	
		高倉 康人		縮尺	
		一級建築士事務所 愛知県 (い-6) 13768号		1/100 (A1原図)	
		一級建築士登録第244870号			

既設サッシメーカー：不二サッシ

①材料種類別符号
A . アルミニウム
G . ガラス
P . プラスチック
S . 鋼
SS . ステンレス鋼

②建具種類別符号
D . ドア
W . 窓
G . ガラリ
FDG . FD付ガラリ
S . シャッター

③仕上種類別符号
OP . 油性調合ペイント塗
SOP . 合成樹脂
LC . クリアラッカー塗
OS . オイルステン塗
FE . フタル酸樹脂エナメル塗
UC . ウレタン樹脂クリア塗

M-BE . メラミン系塗料焼付
E-BE . エポキシ系塗料焼付
A-BE . アクリル系塗料焼付

④その他符号
SAT . セミエアータイト
AT . エアータイト
DC . ドアチェック(ストッパー無し)
H . 丁番
PH . ピボットヒンジ
FH . フロアヒンジ
AH . オートヒンジ

※金物は全てシンチュウ製とする。
DS . 戸当り
F . フランス落し
AS . アームストッパー
FA . 自動落し鍵
CR . ケースロック (レバーハンドル付 シリンドア本鎖)サムターン付
S . 空鍵

名称	① AW ①A AW 連窓上げ下げ・アルミ製 サッシ	② AW はめ殺し・アルミ製 サッシ	③ AW ③A AW 外倒し・アルミ製 サッシ(AW-3) 外倒しアルミサッシ(AW-3A)	④ AW ④A AW 連窓上げ下げアルミサッシ(上部FIX)(AW-4) 連窓上げ下げアルミサッシ(上部換気フード)(AW-4A)	⑤ AG 外倒しアルミガラリ
見込	155	155	155	70	70
枠 扉					
仕上	二次電解着色(ホワイト)	二次電解着色(ホワイト)	二次電解着色(ホワイト)	二次電解着色(ホワイト)	二次電解着色(ホワイト)
数量	AW-1 : 9, AW-1A : 2	3	AW-3 : 3, AW-3A : 1	AW-4 : 1, AW-4A : 1	1
仕様場所	バブ1	バブ2	バブ2、厨房	厨房、事務所	
硝子	フロート板ガラス t=5	フロート板ガラス t=5	フロート板ガラス t=5	型板ガラスt4	
付属金物	取付金物一式・クレセント	取付金物一式	取付金物一式・オペレーター(手動式)・丁番 H=1,200	取付金物一式・クレセント	取付金物一式 H=1,200
備考	アルミ格子 網戸 ()内寸法はAW-1とする	アルミ格子	アルミ格子	アルミ格子	アルミガラリ
姿図					
改修内容	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面)) 金物交換(上げ下げ窓ラッチ、外れ留め、戸車(網戸共)) 既設格子一時撤去・復旧	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面)) ※飛散防止フィルム貼時に格子の一時撤去復旧の必要あり	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面)) 気密ゴム交換、オペレーター交換 既設格子一時撤去・復旧	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面)) 金物交換(上げ下げ窓ラッチ、外れ留め、戸車(網戸共)) 既設格子一時撤去・復旧	シール打込み(サッシと外壁の取合)
名称	⑥ AW ⑥A AW 上げ下げアルミサッシ	⑦ AW 上げ下げ・アルミ製サッシ(上部FIX)	⑧ AW 上げ下げ・アルミ製サッシ(上部FIX)	⑨ AW 引違いアルミサッシ	⑩ AW 引違いアルミサッシ
見込	70	155	70	70	70
枠 扉					
仕上	二次電解着色(ホワイト)	二次電解着色(ホワイト)	二次電解着色(ホワイト)	二次電解着色(ホワイト)	二次電解着色(ホワイト)
数量	4	1	1	1	1
仕様場所	倉庫、モルトミル室、ラボ室	WC	WC	バブ2	バブ2
硝子	型板ガラスt4	型板ガラスt4	型板ガラスt4	フロート板ガラスt5	フロート板ガラスt5
付属金物	取付金物一式・クレセント	取付金物一式・クレセント	取付金物一式・クレセント	取付金物一式・クレセント	取付金物一式・クレセント
備考	アルミ格子・網戸	アルミ格子・網戸	アルミ格子・網戸	アルミ格子	アルミ格子
姿図					
改修内容	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面)) 金物交換(上げ下げ窓ラッチ、外れ留め、戸車(網戸共)) 既設格子一時撤去・復旧	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面)) 金物交換(上げ下げ窓ラッチ、外れ留め、戸車(網戸共)) 既設格子一時撤去・復旧	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面)) 金物交換(上げ下げ窓ラッチ、外れ留め、戸車(網戸共)) 既設格子一時撤去・復旧	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面)) 金物交換(クレセント、外れ留め、戸車(網戸共)) 既設格子一時撤去・復旧	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面)) 金物交換(クレセント、外れ留め、戸車(網戸共)) 既設格子一時撤去・復旧

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

※斜線部分は改修工事対象外	工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-36
※高圧洗浄の上、改修を行うものとする	図面名	建具表1	縮尺	1/50(A1原図)
※AWに関しては、高圧洗浄の後、仕上げ補修の要否の検討を行う	日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
※ガラス部分は共通で飛散防止フィルム新設とする(AW-13, 14, 15, 16は両面貼、その他は室内側片面貼)		一級建築士事務所 愛知県 (い-6) 13768号		一級建築士登録第244870号
※格子付き窓は共通で格子一時撤去の上、飛散防止フィルム新設、シール打込みを行い、完了後復旧とする				

既設サッシメーカー：不二サッシ

①材料種類別符号
A . アルミニウム
G . ガラス
P . プラスチック
S . 鋼
SS . ステンレス鋼

②建具種類別符号
D . ドア
W . 窓
G . ガラリ
FDG . FD付ガラリ
S . シャッター

③仕上種類別符号
OP . 油性調合ベイント塗
SOP . 合成樹脂
LC . クリアラッカー塗
OS . オイルステン塗
FE . フタル酸樹脂エナメル塗
UC . ウレタン樹脂クリア塗

M-BE . メラミン系塗料焼付
E-BE . エポキシ系塗料焼付
A-BE . アクリル系塗料焼付

④その他符号
SAT . セミエアータイト
AT . エアータイト
DC . ドアーチェック(ストッパー無し)
H . 丁番
PH . ピボットヒンジ
FH . フロアヒンジ
AH . オートヒンジ

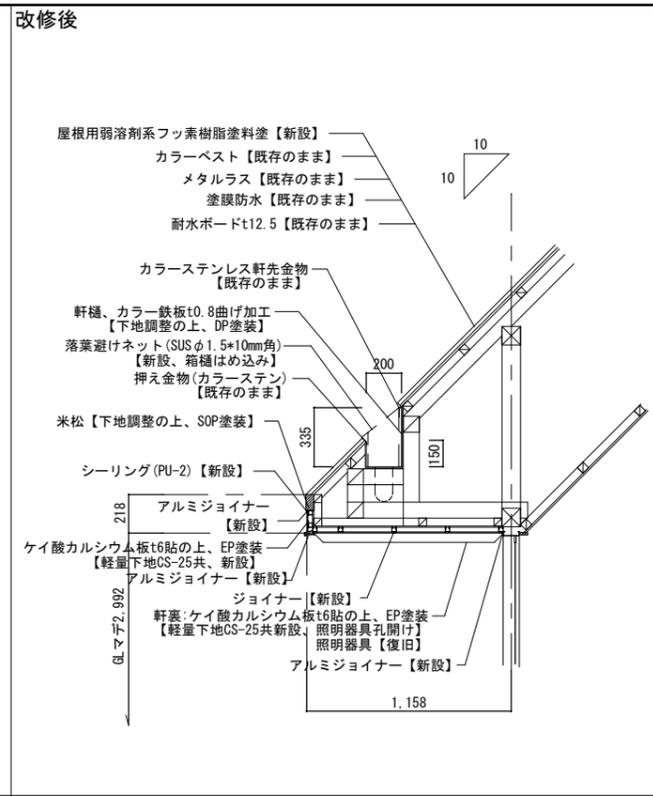
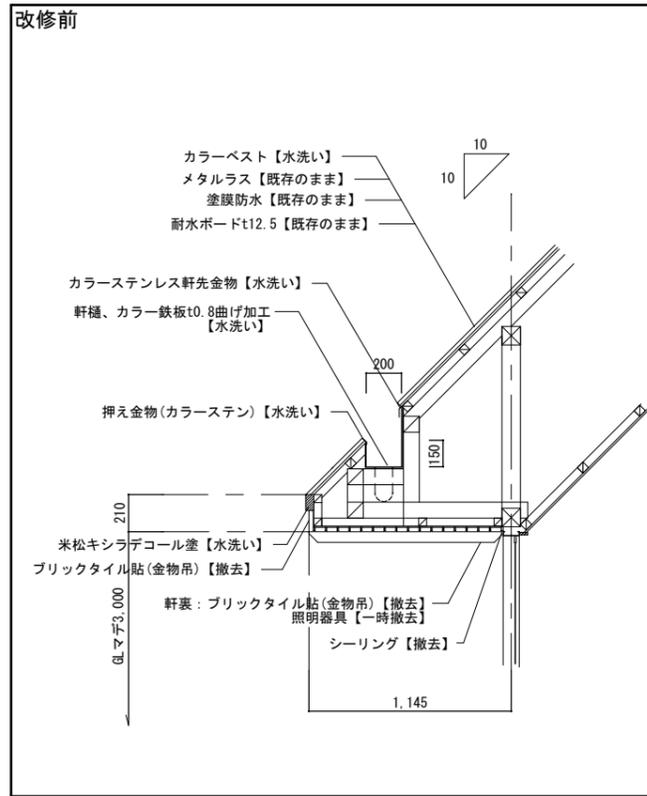
※金物は全てシンチュウ製とする。
DS . 戸当り
F . フランス落し
AS . アームストッパー
FA . 自動落し鍵
CR . ケースロック(レバーハンドル付 シリンダー本鎖錠)サムターン付
S . 空鍵

名称	11 AW 外倒し・アルミ製 サッシ	13 AW はめ殺しアルミサッシ	14 AW はめ殺しアルミサッシ	15 AW 16 AW はめ殺しアルミサッシ	18 AW ドーマー窓	1 AD 両開き・アルミ製 ドア(ランマ付)
見込	70	70	70	70	70	155
仕上	二次電解着色(ホワイト)	二次電解着色(ホワイト)	二次電解着色(ホワイト)	二次電解着色(ホワイト)	二次電解着色(ホワイト)、タモUC	二次電解着色(ホワイト)
数量	2	3	1	AW-15:3、AW-16:2	5	1
仕様場所	バブ2	醸造室、仕込室	醸造室、仕込室	仕込室	屋根	バブ1
硝子	フロート板ガラス t=5	フロート板ガラス t=10	フロート板ガラス t=8	フロート板ガラスt5	フロート板ガラスt5	フロート板ガラスt5
付属金物	取付金物一式・オペレーター(手動式・隠ぺい式)・丁番 H=1,200	取付金物一式	取付金物一式	取付金物一式	取付金物一式・オペレーター(手動式)、丁番 H=1,200	取付金物一式・AH・PH・F・CR
備考	アルミ格子			()内寸法はAW-16を示す		召し合せ部は合じやくりとする。 アルミ格子
姿図						
改修内容	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面)) 気密ゴム交換、オペレーター交換、既設格子一時撤去・復旧	シール打込み(ガラスとサッシの取合(両面))	シール打込み(ガラスとサッシの取合(両面))	シール打込み(ガラスとサッシの取合(両面))	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面))、気密ゴム交換、オペレーター交換	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面)) 金物交換(DC)、気密ゴム交換、既設格子一時撤去・復旧
名称	2 AD 片開き・アルミ製 ドア(ランマ付)	1 WAD 2 WAD 引分け・アルミ製オートドア	1 SD 親子開きスチールドア(ランマ付)	2 SD 両開きスチールドア	3 SD 両開きスチールドア	2 AG アルミガラリ
見込	155	90 36	100 55	100 55	100 55	70
仕上	二次電解着色(ホワイト)	米松UC	FE	FE	FE	二次電解着色(ホワイト)
数量	1	WAD-1~1 WAD-2~1	1	1	2	1
仕様場所	バブ1	風除室1	通路	倉庫	機械室	ラボ室
硝子	フロート板ガラスt4	フロートガラスt5	型板ガラスt4(ランマ部)	(鉄板)	(鉄板)	
付属金物	取付金物一式・AH・PH・F・CR	取付金物一式・内外部旋錠付ドアエンジン 熱線スイッチ・安全用光線付	取付金物一式・H・DC・CR・F	取付金物一式・H・DC・CR・F	取付金物一式・H・DC・CR・F	取付金物一式
備考	アルミ格子	()内寸法はWD-11を示す	三方枠、ステンレス番摺t1.5・片面スチール格子	三方枠、ステンレス番摺t1.5・片面スチール格子	三方枠、ステンレス番摺t1.5・片面スチール格子 下部ガラリ有り	四方内部 L-50*50*6付
姿図						
改修内容	シール打込み(サッシと外壁の取合、ガラスとサッシの取合(両面))、金物交換(DC)、気密ゴム交換、既設格子一時撤去・復旧	シール打込み(サッシと外壁の取合(WAD-1のみ)、ガラスとサッシの取合(両面)) 気密ゴム交換、既設格子一時撤去・復旧	シール打込み(サッシと外壁の取合、既設格子一時撤去・復旧) ガラスとサッシの取合(両面)、金物交換(DC)、DP塗装 気密ゴム交換、番摺補修、ガラス一時取り外しの格子裏清掃	シール打込み(サッシと外壁の取合)、金物交換(DC) DP塗装、気密ゴム交換、蝶番調整(閉鎖不良あり) 既設格子一時撤去・復旧	シール打込み(サッシと外壁の取合)、金物交換(DC) DP塗装、気密ゴム交換、蝶番調整(閉鎖不良あり) ガラリ網交換	シール打込み(サッシと外壁の取合)

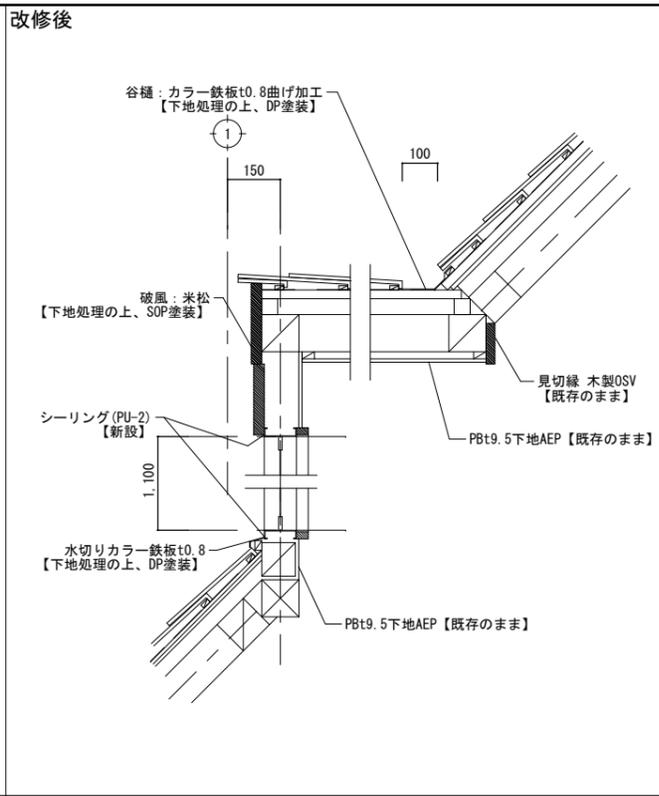
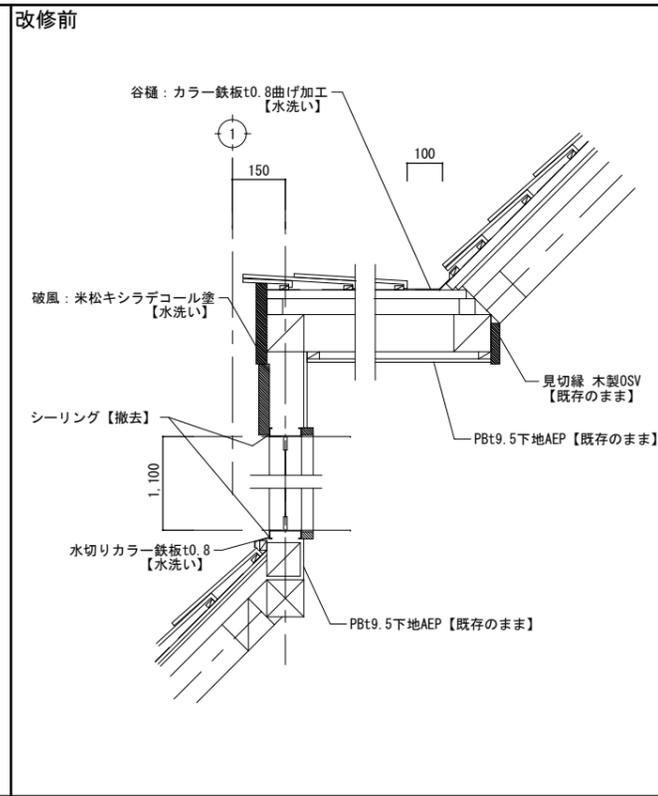
縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

※斜線部分は改修工事対象外
 ※高圧洗浄の上、改修を行うものとする
 ※AWに関しては、高圧洗浄の後、仕上げ補修の要否の検討を行う
 ※ガラス部分は共通で飛散防止フィルム新設とする(AW-13, 14, 15, 16は両面貼、その他は室内側片面貼)
 ※アルミ格子付き窓は共通で格子一時撤去の上、飛散防止フィルム新設、シール打込みを行い、完了後復旧とする
 ※DPは1級(フッ素)とする、また厚の両面、小口、枠共塗装すること

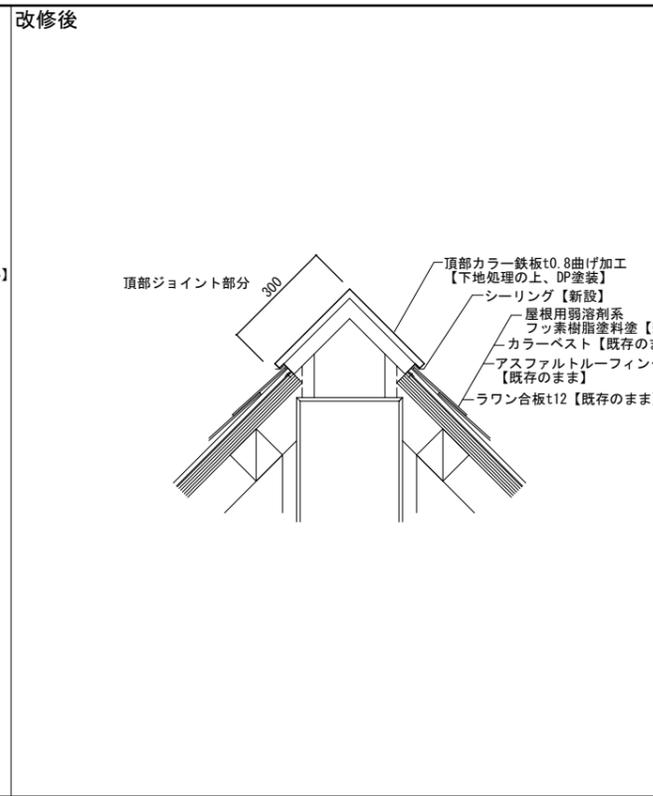
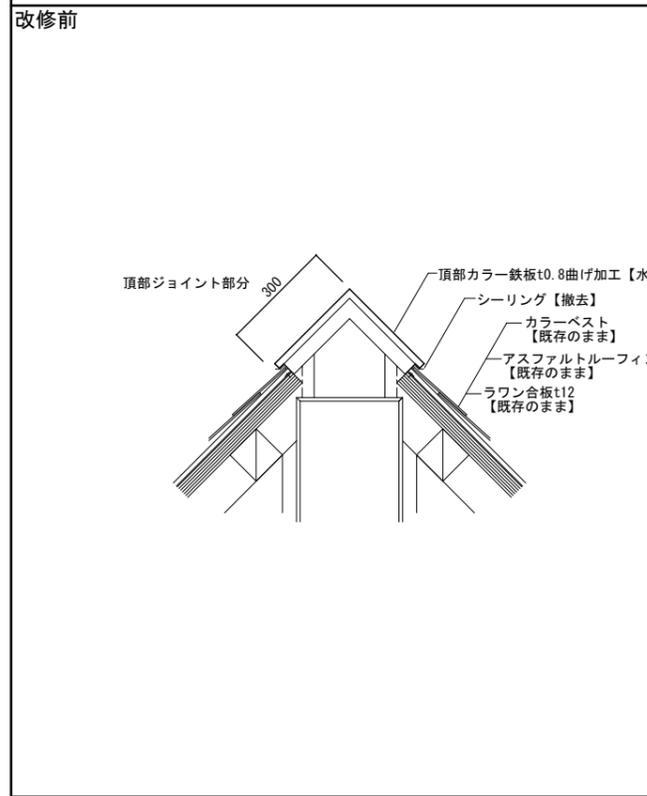
工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-37
図面名	建具表2	縮尺	1/50(A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県 (I-6) 13768号		一級建築士登録第244870号



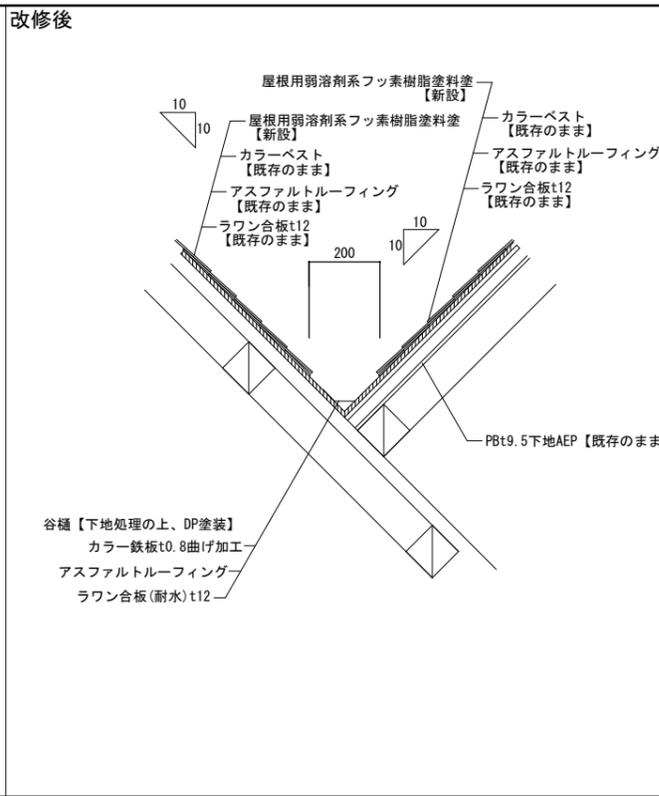
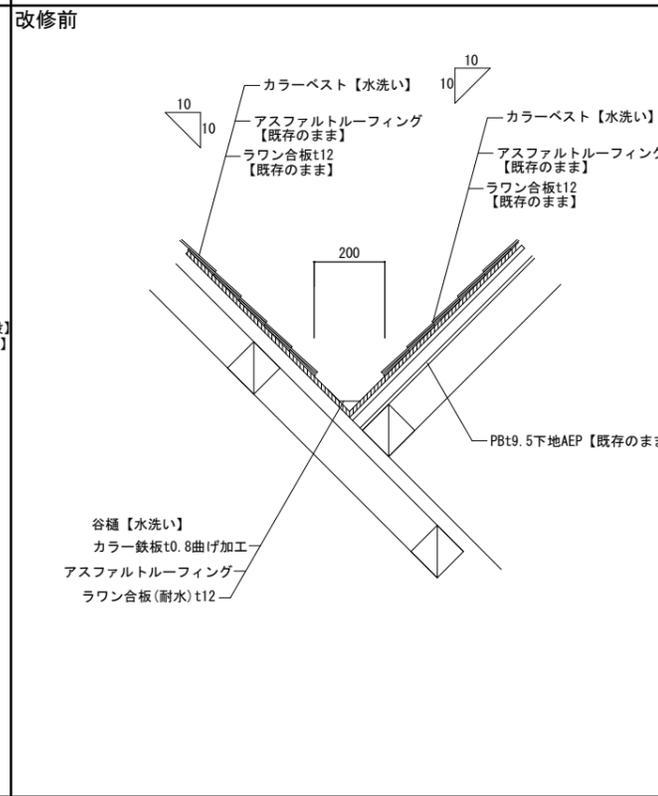
D
7 風除室・庇詳細 S=1/20(A1原図)



D
8 ドーマー部詳細 S=1/10(A1原図)



D
9 突塔頂部詳細 S=1/10(A1原図)

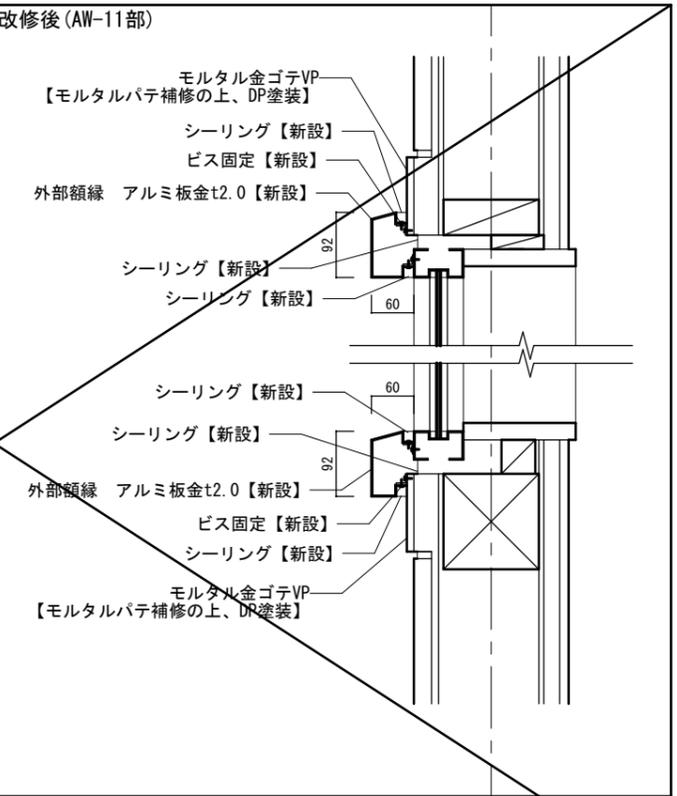
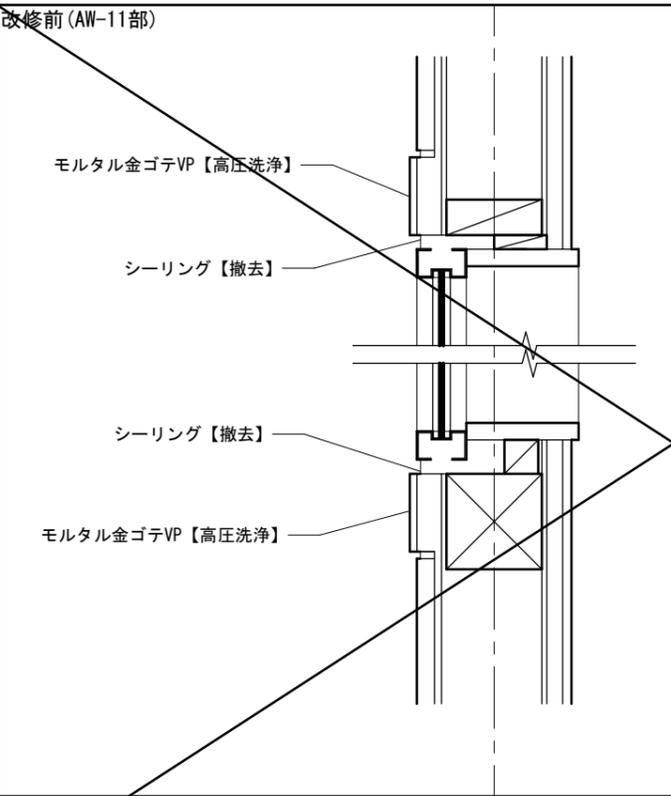
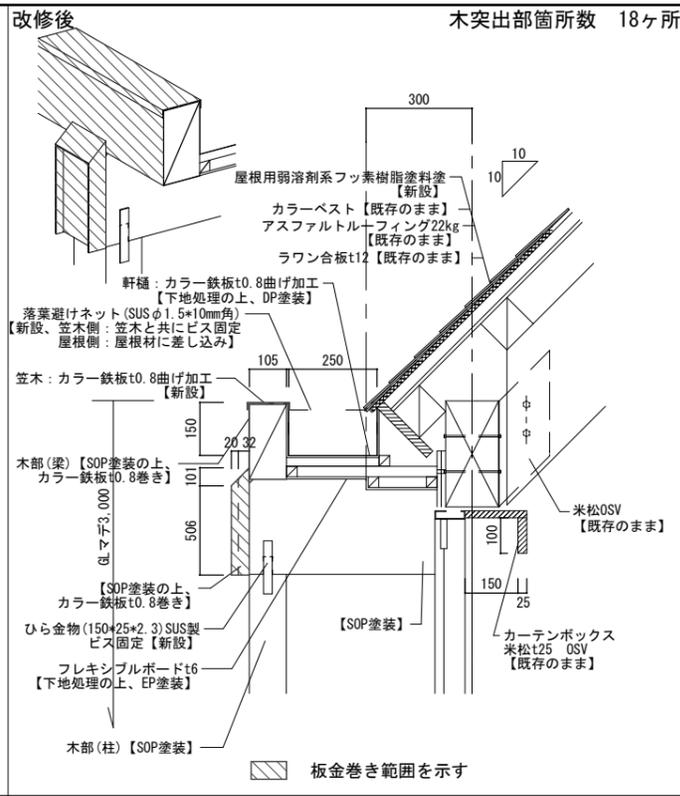
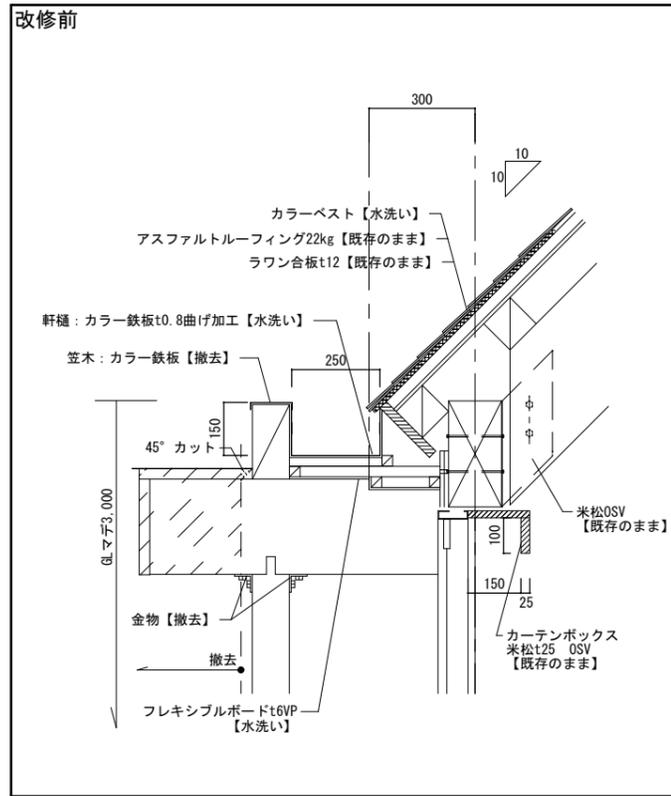


D
10 谷樋 S=1/10(A1原図)

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

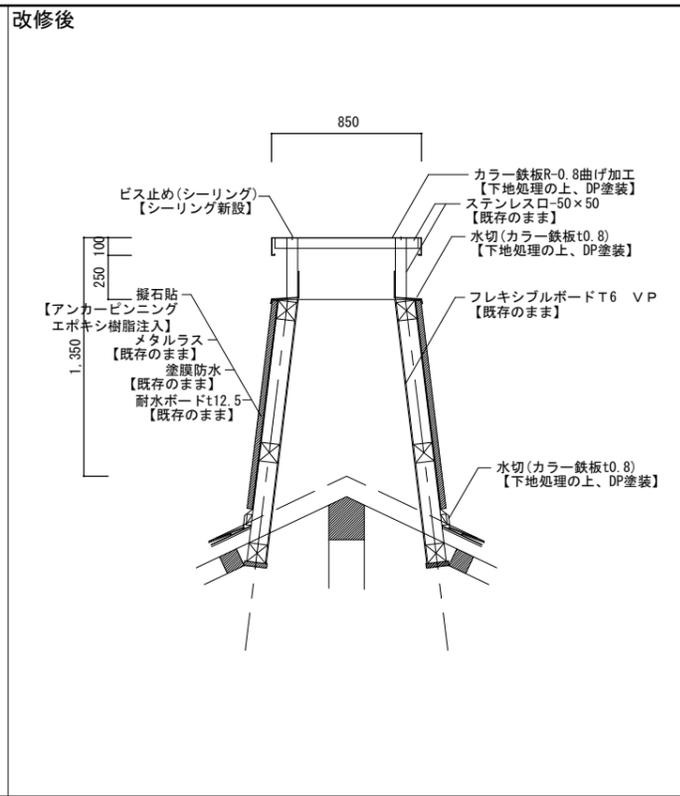
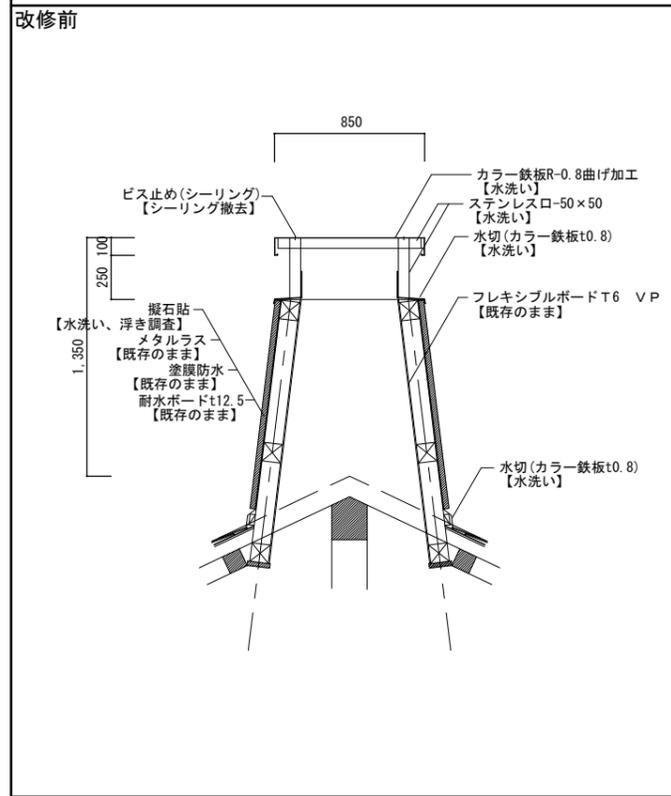
※斜線部分は改修工事対象外

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-38
図面名	部分詳細図1	縮尺	1/10,20
日付	クラ設計株式会社	高倉 康人	
	一級建築士事務所 愛知県 (い-6) 13768号	一級建築士登録第24487号	



D 11 突塔軒先詳細 S=1/10(A1原図)

サッシ外部額縁詳細図(参考図) S=1/5(A1原図)

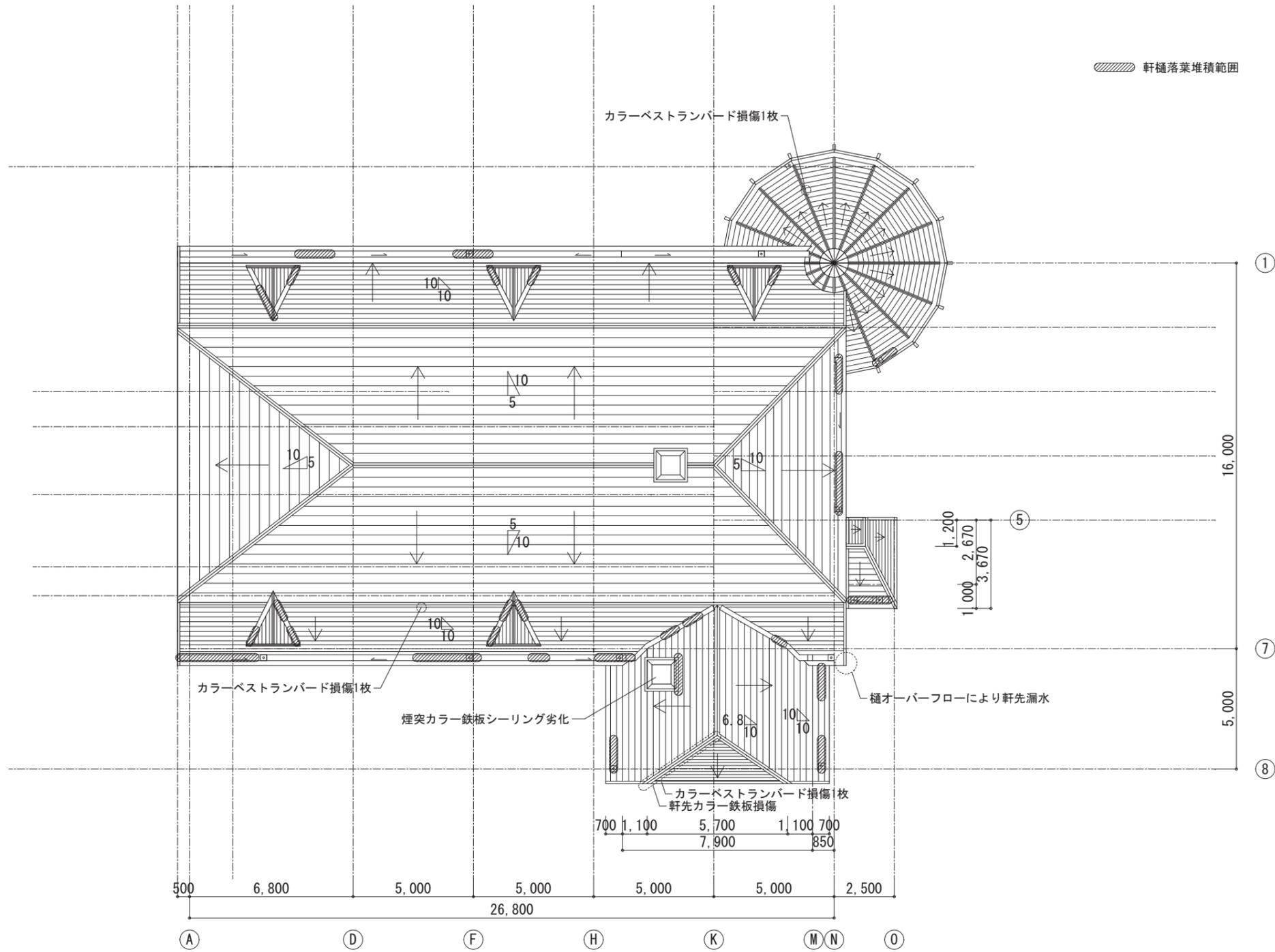


D 1 煙突詳細1 S=1/20(A1原図)

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

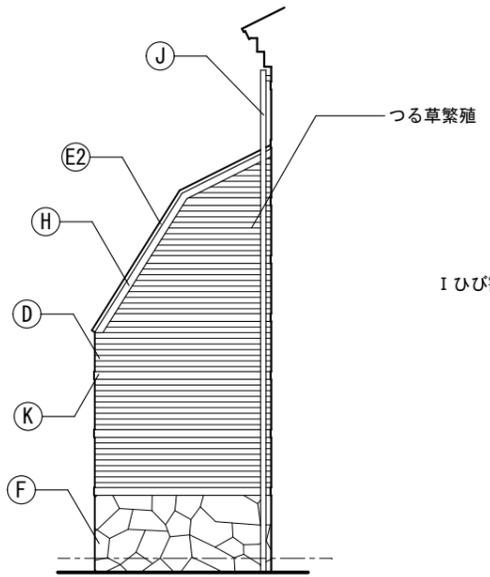
※斜線部分は改修工事対象外

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	A-39
図面名	部分詳細図2	縮尺	1/10
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県 (い-6) 13768号		一級建築士登録第244870号



縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

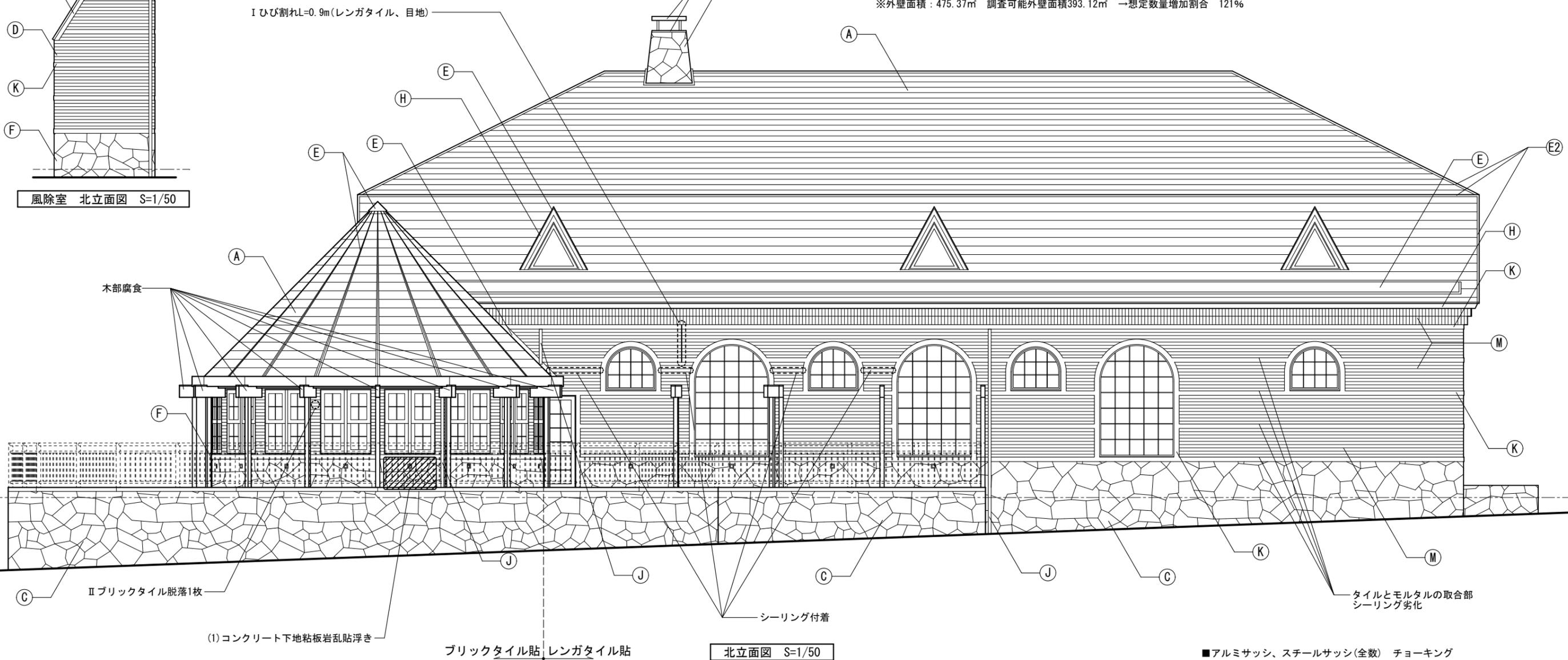
工事名 地ビール工房保全改修工事		図面番号 B-01	
図面名 劣化調査図1		縮尺 1/100 (A1原図)	
日付 クラ設計株式会社		設計 高倉 康人	
一級建築士事務所 愛知県 (イ-6) 13768号		一級建築士登録第244870号	



北面						
モルタル面			タイル面			石貼面
番号	ひび割れ(m)		番号	ひび割れ(m)		番号
	幅0.2mm未満	幅1.0mm以上		幅0.2mm以上1mm未満	幅1.0mm以上	
			I	0.9		(1)
			II		1	
集計			集計	0.9	1	集計
モルタル金ゴテVP部(1mにつき3ヶ所程度のひび割れ(L=110mm,幅0.2mm未満))			145.83m×3本×0.11m=48.1m			
想定数量	48.1		想定数量	1.1		想定数量

※外壁面積：475.37㎡ 調査可能外壁面積393.12㎡ →想定数量増加割合 121%

風除室 北立面図 S=1/50



北立面図 S=1/50

■アルミサッシ、スチールサッシ(全数) チョーキング

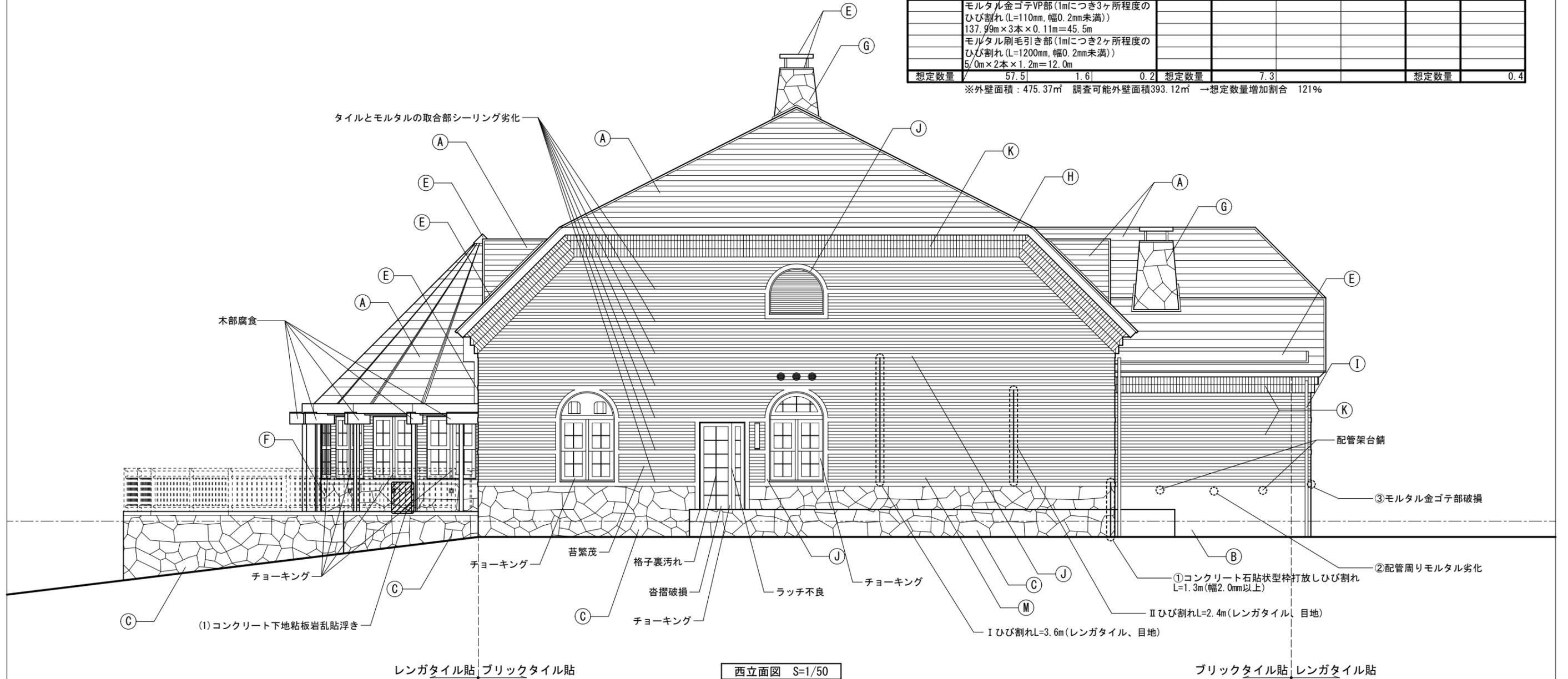
外部仕上げ凡例			
(A)	ラワン合板(耐水タイプ)t12PBt9.5の上 アスファルトルーフィング下地カラーベストランパート	(E)	カラー鉄板t0.8曲げ加工 (E2)t0.6
(B)	モルタル刷毛引き 【全体的に0.2mm以下のひび割れ、エフロレッセンス】	(F)	コンクリート下地粘板岩乱貼
(C)	コンクリート石貼状型枠打放し	(G)	耐水ボード12.5, 塗膜防水, メタルラス下地粘板岩乱貼
(D)	ブリックタイル貼(セメント系)	(H)	米松t25キシラデコール塗
		(J)	縦樋塩ビ製VP75φVP【塗装劣化】
		(K)	モルタル金ゴテVP 【全体的に0.2mm以下のひび割れ、チョーキング】
		(M)	レンガタイル(二丁掛)

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	B-02
図面名	劣化調査図2(参考図)	縮尺	1/50(A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県(い-6)13768号		一級建築士登録第244870号

西面							
モルタル面			タイル面			石貼面	
番号	ひび割れ(m)	欠損(m ²)	番号	ひび割れ(m)	欠損(枚)	番号	浮き(m ²)
①	幅0.2mm未満/幅1.0mm以上	1.3	I	幅0.2mm以上1mm未満/幅1.0mm以上	3.6	(1)	0.3
②		0.1	II		2.4		
③		0.1					
集計		1.3	集計		6.0	集計	0.3
モルタル金ゴテVP部(1mにつき3ヶ所程度のひび割れ(L=110mm,幅0.2mm未満)137.99m×3本×0.11m=45.5m)							
モルタル刷毛引き部(1mにつき2ヶ所程度のひび割れ(L=1200mm,幅0.2mm未満)5/0m×2本×1.2m=12.0m)							
想定数量	57.5	1.6	0.2	想定数量	7.3		想定数量

※外壁面積：475.37㎡ 調査可能外壁面積393.12㎡ →想定数量増加割合 121%



西立面図 S=1/50

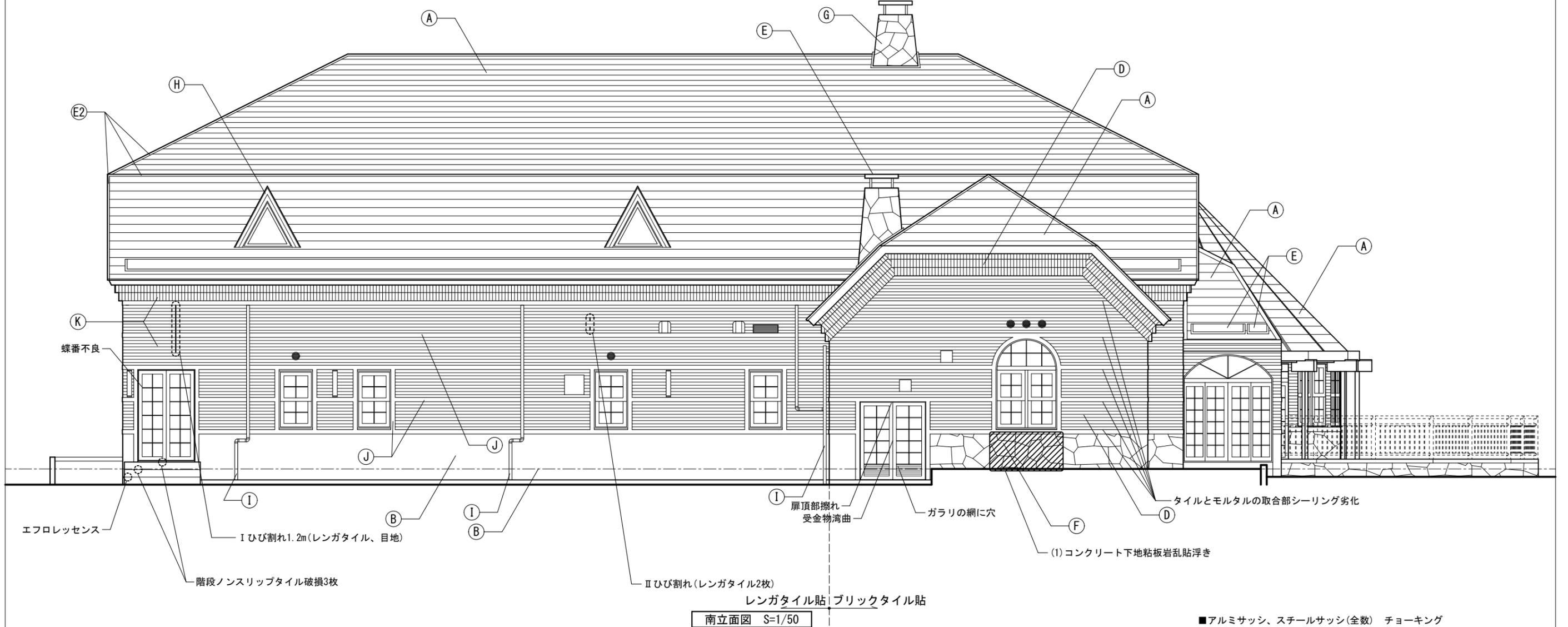
外部仕上げ凡例(改修前)			
Ⓐ	ラワン合板(耐水タイプ)t12PBt9.5の上 アスファルトルーフィング下地カラーベストランパート	Ⓔ	カラー鉄板t0.8曲げ加工 ②t0.6
Ⓑ	モルタル刷毛引き 【全体的に0.2mm以下のひび割れ、エフロレッセンス】	Ⓕ	コンクリート下地粘板岩乱貼
Ⓒ	コンクリート石貼状型枠打放し	Ⓖ	耐水ボード12.5, 塗膜防水, メタルラス下地粘板岩乱貼
Ⓓ	ブリックタイル貼(セメント系)	Ⓗ	米松t25キシラデコール塗
		Ⓘ	縦樋塩ビ製VP75φVP【塗装劣化】
		Ⓙ	モルタル金ゴテVP 【全体的に0.2mm以下のひび割れ、チョーキング】
		Ⓚ	レンガタイル(二丁掛)

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	B-03
図面名	劣化調査図3(参考図)	縮尺	1/50(A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県(い-6) 13768号		一級建築士登録第244870号

モルタル面		タイル面		石貼面			
番号	ひび割れ(m)	欠損(m ²)	番号	ひび割れ(m)	欠損(枚)	番号	浮き(m ²)
①	幅0.2mm未満	幅1.0mm以上	I	幅0.2mm以上1mm未満	幅1.0mm以上	(1)	1.3
②			II			(2)	
集計			集計	1.3		集計	1.3
モルタル金ゴテVP部(1mにつき3ヶ所程度のひび割れ(L=110mm,幅0.2mm未満)) 137.99m×3本×0.11m=45.5m			モルタル刷毛引き部(1mにつき2ヶ所程度のひび割れ(L=1200mm,幅0.2mm未満)) 17.01m×2本×1.2m=40.8m				
想定数量	86.3		想定数量	1.6		想定数量	1.6

※外壁面積：475.37㎡ 調査可能外壁面積393.12㎡ →想定数量増加割合 121%

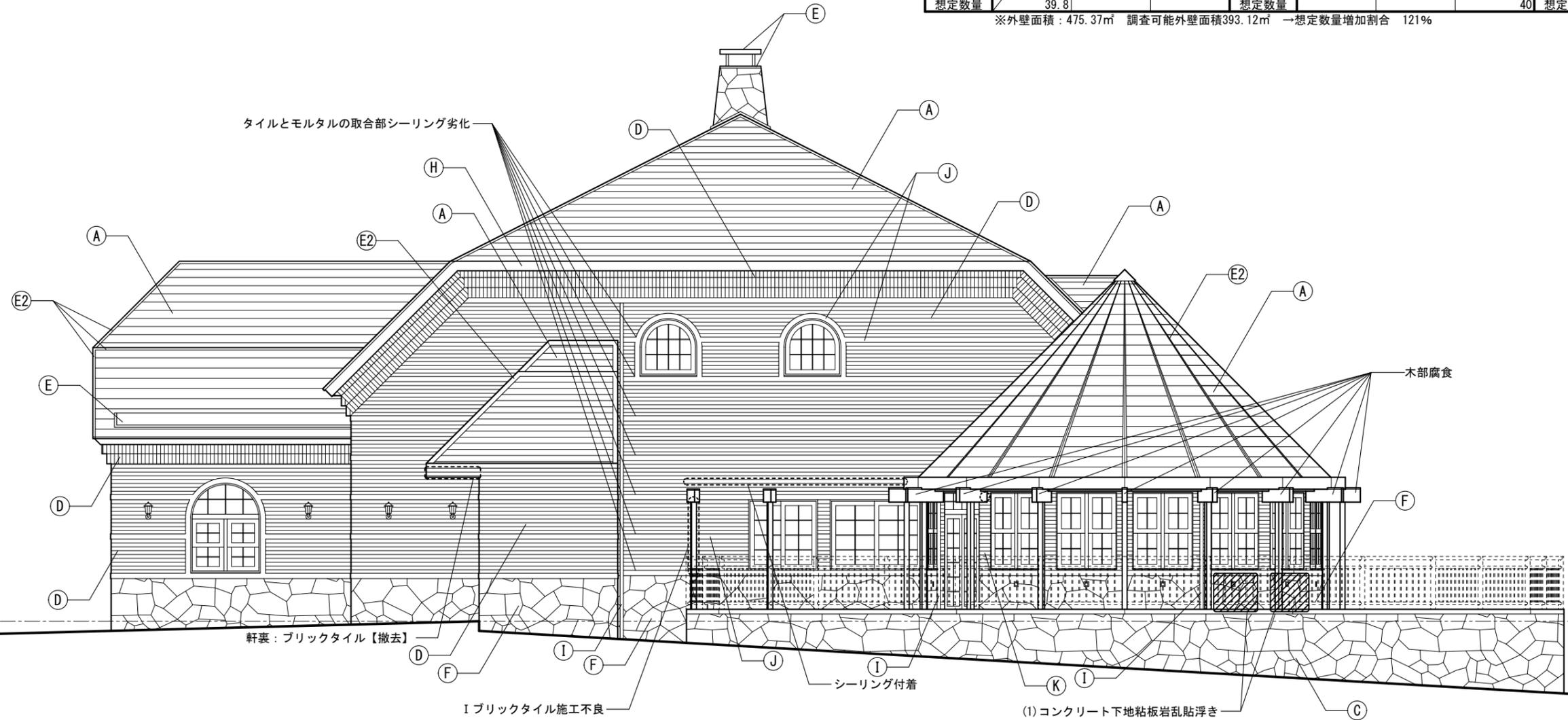


外部仕上げ凡例(改修前)			
Ⓐ	ラワン合板(耐水タイプ)t12PBt9.5の上 アスファルトルーフィング下地カラーベストランパート	Ⓔ	カラー鉄板t0.8曲げ加工
Ⓑ	モルタル刷毛引き 【全体的に0.2mm以下のひび割れ、エフロレッセンス】	Ⓕ	コンクリート下地粘板岩乱貼
Ⓒ	コンクリート石貼状型枠打放し	Ⓖ	耐水ボード12.5、塗膜防水、メタルラス下地粘板岩乱貼
Ⓓ	ブリックタイル貼(セメント系)	Ⓗ	米松t25キシラデコール塗
		Ⓘ	縦樋塩ビ製VP75φVP【塗装劣化】
		Ⓙ	モルタル金ゴテVP【高圧水洗】 【全体的に0.2mm以下のひび割れ、チョーキング】
		Ⓚ	レンガタイル(二丁掛)

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	B-04
図面名	劣化調査図4(参考図)	縮尺	1/50(A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県(い-6)13768号		一級建築士登録第244870号

東 面						
モルタル面			タイル面			石貼面
番 号	ひび割れ(m)		欠損(m ²)	ひび割れ(m)		施工不良(枚)
	幅0.2mm未満	幅1.0mm以上		幅0.2mm以上1mm未満	幅1.0mm以上	
集 計						40
モルタル金ゴテVP部(1mにつき3ヶ所程度のひび割れ(L=110mm,幅0.2mm未満)) 120.45m×3本×0.11m=45.5m						
想定数量	39.8			想定数量		40
※外壁面積: 475.37㎡ 調査可能外壁面積393.12㎡ →想定数量増加割合 121%						



東立面図 S=1/50

■アルミサッシ、スチールサッシ(全数) チョーキング

外部仕上げ凡例(改修前)					
Ⓐ	ラワン合板(耐水タイプ)t12PBt9.5の上 アスファルトルーフィング下地カラーベストランパート【高圧水洗】	Ⓔ	カラー鉄板t0.8曲げ加工【高圧水洗】	Ⓔ	t0.6
Ⓑ	モルタル刷毛引き【高圧水洗】 【全体的にひび割れ、エフロッセンス】	Ⓕ	コンクリート下地粘板岩乱貼【高圧水洗】	Ⓖ	モルタル金ゴテVP【高圧水洗】 【全体的にひび割れ】
Ⓒ	コンクリート石貼状型枠打放し【高圧水洗】	Ⓖ	耐水ボード12.5, 塗膜防水, メタルラス下地粘板岩乱貼【高圧水洗】	Ⓚ	レンガタイル(二丁掛)【高圧水洗】
Ⓓ	ブリックタイル貼(セメント系)【高圧水洗】	Ⓖ	米松t25キシラデコール塗【高圧水洗】		

縮尺はA1版に適合 (A3版→50%縮小)

工事名	地ビール工房保全改修工事	図面番号	B-05
図面名	劣化調査図5(参考図)	縮尺	1/50(A1原図)
日付	クラ設計株式会社	設計	高倉 康人
	一級建築士事務所 愛知県(い-6) 13768号		一級建築士登録第244870号